
男女共同参画に関するアンケート調査

《市民アンケート編》

結果報告書

令和4年3月

目次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	2
2.	調査概要	2
3.	報告書の見方	3
II	調査結果のまとめ	5
1.	各分野・家庭生活における男女平等について	6
2.	仕事と家庭の両立、女性の活躍推進について	6
3.	男女間における暴力の防止・被害者支援について	8
4.	性の多様性、多文化共生について	9
II	調査結果	11
1.	回答者の属性	12
2.	いろいろな分野での男女平等について	19
3.	仕事と家庭の両立、女性活躍推進について	34
4.	地域活動における男女共同参画について	47
5.	男女間における暴力の防止・被害者支援について	53
6.	性の多様性・多文化共生について	63
7.	男女共同参画施策全般について	70
8.	自由意見	72

I 調査の概要

1. 調査の目的

このアンケートは、市民の皆様への男女共同参画に関するお考えや実情などを幅広くお伺いし、令和4年度から実施する「府中市男女共同参画プラン（第3次）」の策定の参考とさせていただくことを目的に実施したものです。

2. 調査概要

- ・調査地域 : 府中市全域
- ・調査対象者 : 府中市在住の20歳以上の方2,000名を無作為抽出
- ・調査期間 : 令和4年1月下旬～2月中旬
- ・調査方法 : 郵送による配布・回収 ※調査票からのインターネット回答を含む

配布数 (A)	有効配布数 (B)	有効回収数 (C)	有効回収率 (C/B)
2,000	2,000	742	37.1%

3. 報告書の見方

(1) 報告の基本構成

回答結果に対する分析として以下の3項目より分析結果をまとめています。

- ① 全体集計 : 回答に関する全体的な集計結果からみた傾向についてまとめています。
- ② 前回調査との比較 : 前回調査(平成29年度実施)との比較からみられる傾向についてまとめています。
- ③ クロス集計 : 設問にあわせ、「従業員数」や「業種」などのクロス分析の結果をまとめています。

(2) 報告書の記載内容に関する注意事項

- 回答結果は小数点第2桁目を四捨五入しています。この関係で、単回答(複数の選択肢からひとつだけを選ぶ形式)の合計値がちょうど「100.0」にならない場合があります。
- 複数回答(2つ以上の回答を選ぶ形式)における割合についての単位はパーセントとしています。この場合、回答は有効標本数全体に対して各々の割合を示すものであり、各選択肢の回答を合計しても「100.0」とはなりません。
- 本報告書における「N」「SA」「MA」は、それぞれ
 - 「N」 = サンプル数のこと
 - 「SA」 = 単回答のこと Single Answer の略)
 - 「MA」 = 複数回答のこと Multiple Answer の略)
 - 「数量」 = 数字を入力する 回答のことを示します。

Ⅱ 調査結果のまとめ

1. 各分野・家庭生活における男女平等について

■「家庭」や「職場」における「男女平等」が前回調査より高くなっています

各分野での男女平等感【問8】については、「家庭」、「職場」、「学校教育の場」では、「男女平等になっている（「どちらかといえば男女平等になっている」を含む）」が高く、「政治の場」、「社会通念、慣習、しきたりなど」では、「男女平等になっていない（「どちらかといえば男女平等になっていない」を含む）」が高い項目となっています。特に、「政治の場」は前回調査に比べ、「（どちらかといえば）男女平等になっていない」が高くなっており、男女共同参画が進んでいないと市民は考えていることがわかります。

■「男女どちらも、仕事と家庭を両立できる」「結婚は個人の自由」に対し賛成する傾向が高くなっています。

結婚・家庭に関する男女平等感【問10】については、概ね賛成の割合が高い項目は、「男女どちらも、仕事と家庭を両立できるのがよい」、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」となっています。一方、概ね反対の割合が高い項目は、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」、「女性は結婚したら、自分自身より、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」となっています。また、同様の傾向は性別では「女性」でその傾向が高くなっています。一方、年齢別では「70歳以上」では、結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」で反対の割合が高く、年齢層が高いほど異なる回答傾向となっています。

■家庭生活の役割は「夫婦同じくらい」が浸透してきていますが、依然として「主に女性」が高い傾向となっています。

家庭生活における夫婦の役割【問11】については、前回調査と比べると、「掃除」、「洗濯」、「食事の後片付け」、「ゴミ出し」で「夫婦同じくらい」の回答が高くなっていますが、「食事のしたく」、「洗濯」、「食事の後片づけ」、「掃除」、「買い物」などで依然として「主に女性」の回答が高くなっています。

男性の家事・子育て・介護等への参加促進策【問13】については、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が74.5%と最も高く、次いで、「男性が家事などを行うことへの男性自身の抵抗感をなくすこと」、「労働時間短縮や休暇制度の普及により仕事以外の時間を多くもてるようにすること」となっています。

2. 仕事と家庭の両立、女性の活躍推進について

■ 育児休業制度等の利用が拡大されておらず、制度利用を促進する職場環境づくりが課題。

育児休業制度など職場の各種制度の利用度【問15】については、「取ったことがある」の割合が高い「子の看護休暇」でも14.0%、「育児休業」が13.2%となり、**前回調査と同じく制度の利用は拡大していない状況です**。特に男性の職場の各種制度の利用が少ない理由【問16】については、「**職場の理解が得られないから**」が最も高く、次いで「**同僚に迷惑をかけるから**」となっていることから、**制度利用を促進する職場環境づくりが課題**となっていることがわかります。

■ 女性が働き続けるためには、「家族の家事や子育てへ協力」「多様な働き方を含めた働きやすく、休暇・休業しやすい職場環境づくり」「保育サービスの充実」が必要となっています。

女性が働き続けることを困難にしていること【問17】については、「**家事や育児の負担が大きい**」、「**職場で女性が働き続けやすい環境・制度が整っていない**」、「**労働時間が長い**ため**家庭と仕事の両立ができない**」が上位となっており、女性が仕事と家庭が両立しやすい**多様な働き方を含めた環境・制度づくり**が求められていると思われまます。

仕事と家庭を両立していくために必要なこと【問19】については、「**家族や配偶者の家事、子育て、介護・看護への参加・協力**」が最も多く、次いで「**子育てのための休暇・休業を利用しやすい職場環境**」、「**保育施設やサービスの充実**」が上位となっています。

■ 地域活動における女性活躍を促進するためには、男性優位の組織運営の改善と地域活動を担う女性の意識啓発と育成が求められています

地域活動における女性参画を増やすために効果的な施策【問21】については、「**男性優位の組織運営の改善**」、「**女性の活動を支援する組織や連携**」、「**女性の意識啓発のための研修**」が上位となり、男性が中心で女性が補助的な役割となっている地域活動の改善とそれを担う女性の意識啓発と育成が求められています。

防災・災害復興対策における性別に配慮すべきこと【問22】については、「**避難所の設備**（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）」が最も高く、次いで「**避難物資の準備**（おむつや女性用品などの備蓄）」、「**災害時の救急医療体制**」となり、特に避難所及び避難活動時における女性などへの配慮が必要であると思われまます。

3. 男女間における暴力の防止・被害者支援について

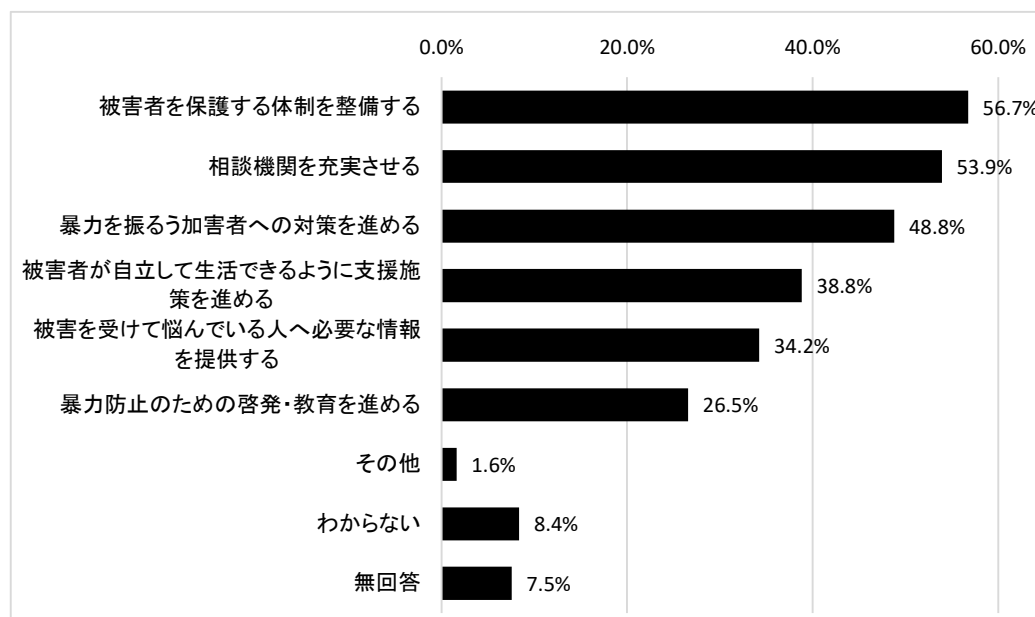
■ DVを防ぐために必要な取組は、「被害者を保護する体制を整備する」、「相談機関を充実させる」、「暴力を振るう加害者への対策を進める」

男女間における暴力の経験【問24】については、これまでに配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人関係にある相手から受けた暴力経験は、「大声で怒鳴られたことがある」が23.6%、「メール・LINEや行動をチェックされたり、交友関係を制限されたことがある」が6.2%となり、医療の治療が必要となるような暴力経験のある人は5%以下となっています。

暴力体験があった人の対処【問24-1】については、暴力体験があった人は「だれも相談しなかった」が67.7%と最も多く、相談先は「親や親戚などの身内」「友人、知人」で警察や市役所、専門機関へ相談した人はわずかとなっています。

DV防止に必要な取組【問26】については、「被害者を保護する体制を整備する」が最も高く、次いで「相談機関を充実させる」、「暴力を振るう加害者への対策を進める」となっています。

〈あなたは、DVを防ぐために、どのような取組が必要だと思いますか〉



4. 性の多様性、多文化共生について

■ 性の多様性への理解を促進するために必要な取組は相談できる窓口の設置、「性の多様性を理解するための学校教育」、「性別での区別の配慮」

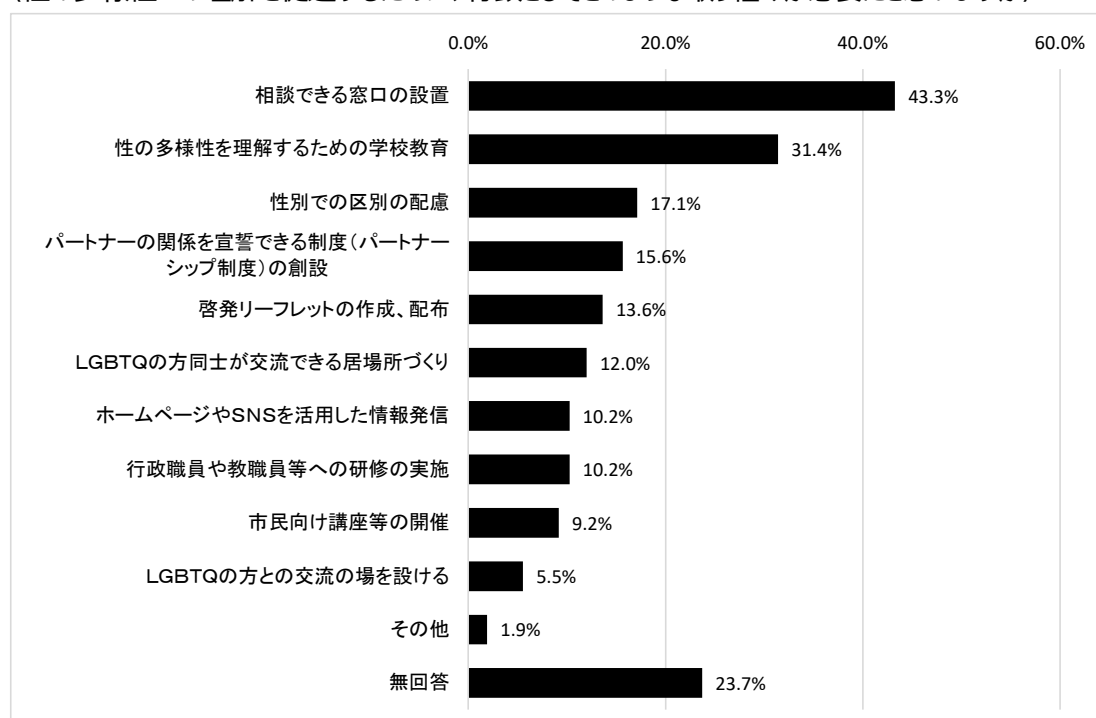
LGBTQ などの性的指向についての悩み【問27】については、自分自身や周りの人で悩みをもつ人は5%以下で少ない結果となっています。

性の多様性への理解を促進するために必要な行政支援【問29】については、「相談できる窓口の設置」、「性の多様性を理解するための学校教育」、「性別での区別の配慮」が上位となっています。

日頃、外国人と関わる機会【問30】については、「関わりがある」が30.1%となっており、関わる場面は、「地域の店や施設で見かける」、「職場や学校」が高くなっています。

外国人がともに安心して暮らせる社会に向け力を入れるべきこと【問32】については、「外国人に対する日本の生活ルールや習慣、文化の違いの周知」が最も高く、次いで「外国人に対する相談体制や多言語での情報提供を充実する」、「外国人の労働環境の改善を促す」、「外国人に対する日本語の学習支援」が上位となっています。

〈性の多様性への理解を促進するために、行政としてどのような取り組みが必要だと思いますか〉



Ⅱ 調査結果

1. 回答者の属性

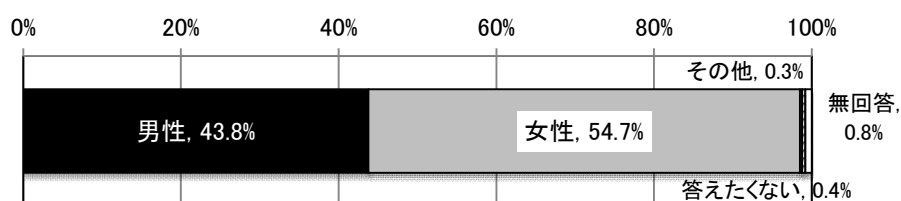
1-1 性別

〔調査票／問1〕 あなたの性別をお答えください。

【回答結果】

- 「男性」が43.8%、「女性」が54.7%となっています。

【問1：全体集計 SA/N=742】



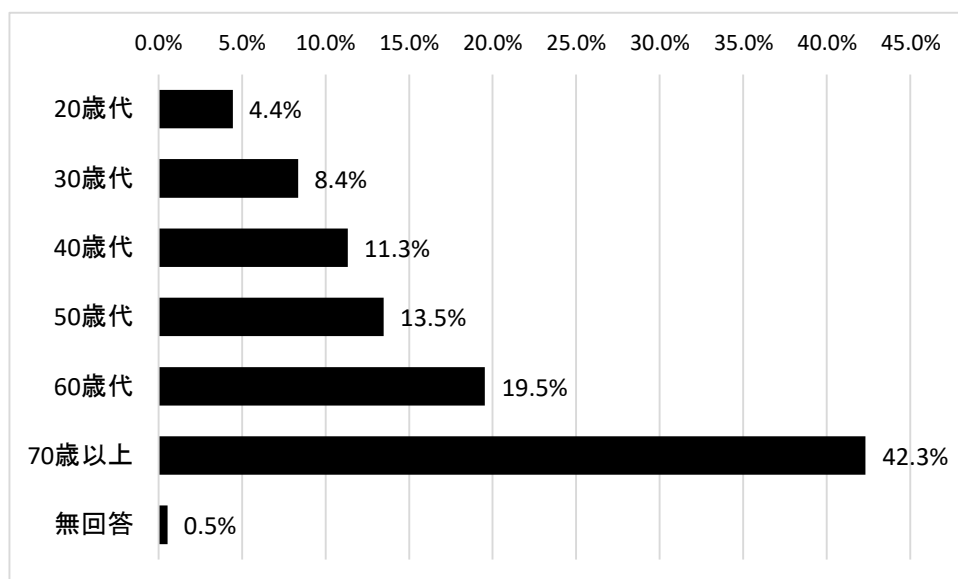
1-2 年齢

〔調査票／問2〕 あなたの年齢をお答えください。

【回答結果 SA/N=742】

- 「70歳以上」が42.3%で最も高く、次いで「60歳代」が19.5%、「50歳代」が13.5%となっています。

【問2：全体集計】



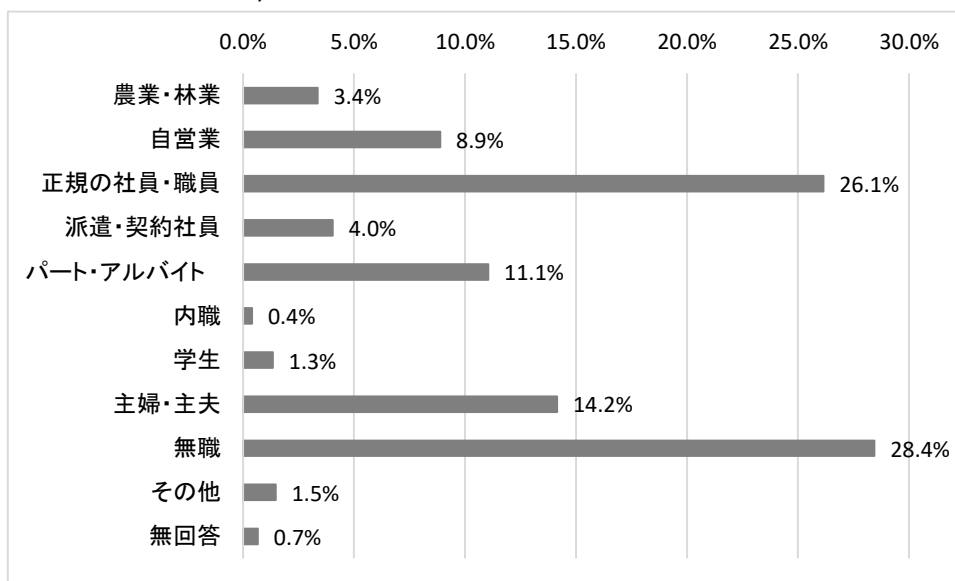
1-3 職業

〔調査票/問3〕 あなたの職業(及び学生、家事専業、無職)は次のどれにあたりますか。

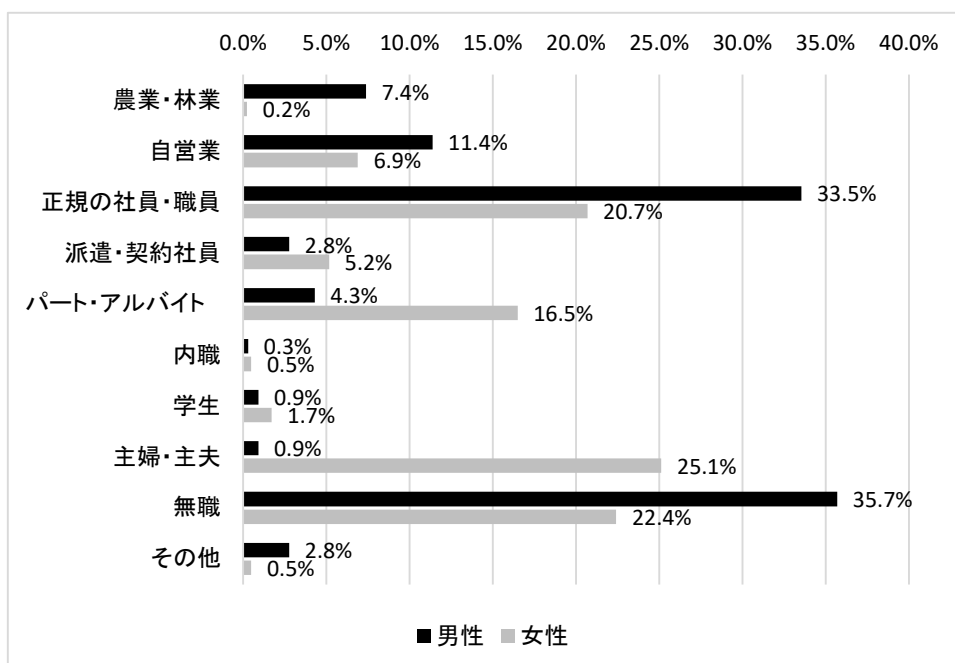
【回答結果】

- 「無職」が28.4%で最も高くなっています。次いで「正規の社員・職員」が26.1%、「主婦・主夫」が14.2%となっています。
- 性別でみると、男性では「正規の社員・職員」、「無職」の割合が女性と比べて高くなっています。女性では「パート・アルバイト」、「主婦・主夫」の割合が“男性”と比べて高くなっています。

【問3：全体集計 SA/N=742】



【問3：クロス集計（性別）】



1. 回答者の属性

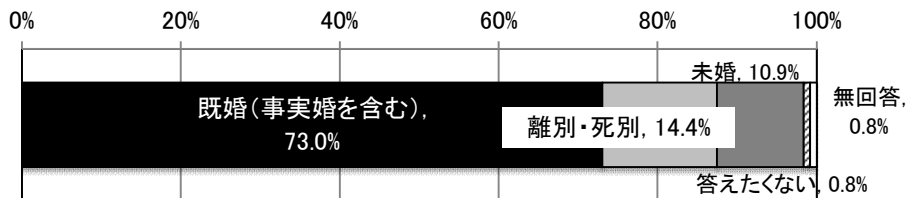
1-4 結婚

〔調査票/問4〕 あなたは結婚していらっしゃいますか。

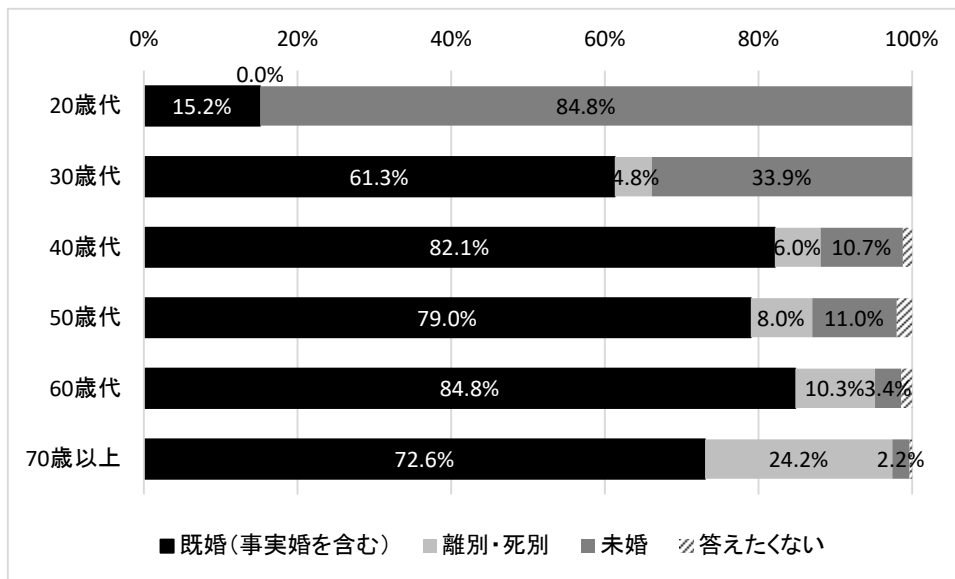
【回答結果】

- 「既婚（事実婚を含む）」が73.0%、「離別・死別」が14.4%、「未婚」が10.9%となっています。
- 年齢別で見ると、「20歳代」では「未婚」の割合が他の年齢層と比べて高くなっています。

【問4：全体集計 SA/N=742】



【問4：クロス集計（年齢別）】



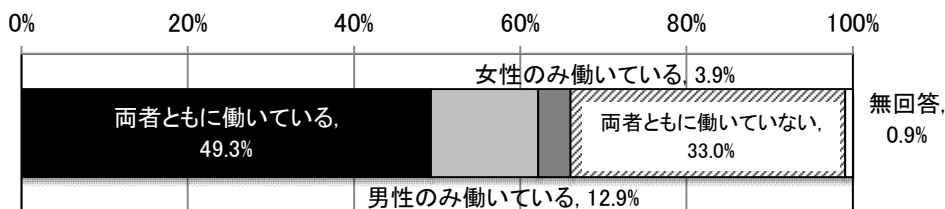
1-5 配偶者の就労状況 ※既婚（事実婚）の回答者のみ

〔調査票/問5〕 あなたと配偶者の就労状況についてお答えください。

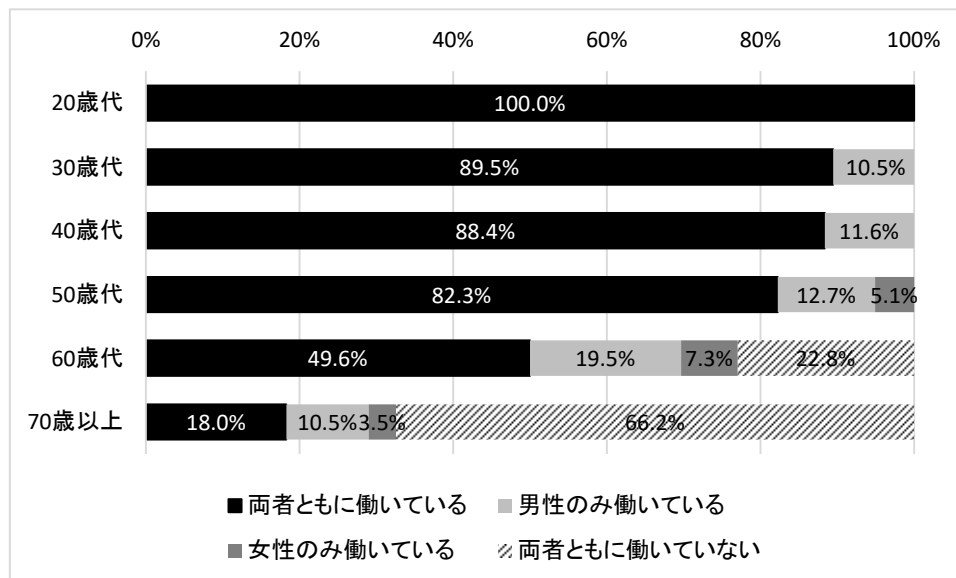
【回答結果】

- 「両者ともに働いている」が49.3で最も高く、「両者ともに働いていない」が33.0%となっています。
- 年齢別でみると、「20歳代」では、「両者ともに働いている」が100%となっています。一方、「70歳以上」では「両者ともに働いていない」が66.2%と最も高くなっています。

【問5：全体集計 SA/N=542】



【問5：クロス集計（年齢別）】



1. 回答者の属性

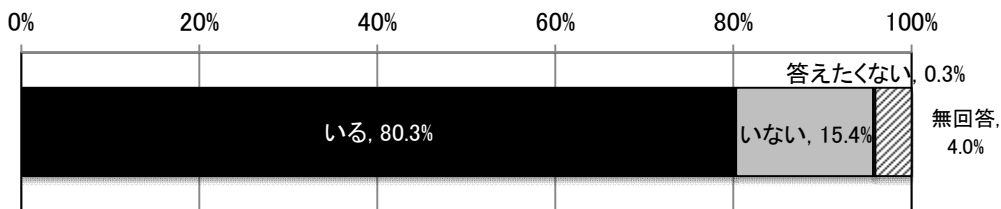
1-6 子どもの有無

〔調査票/問6〕 お子さんはいらっしゃいますか(同居・別居は問いません)。

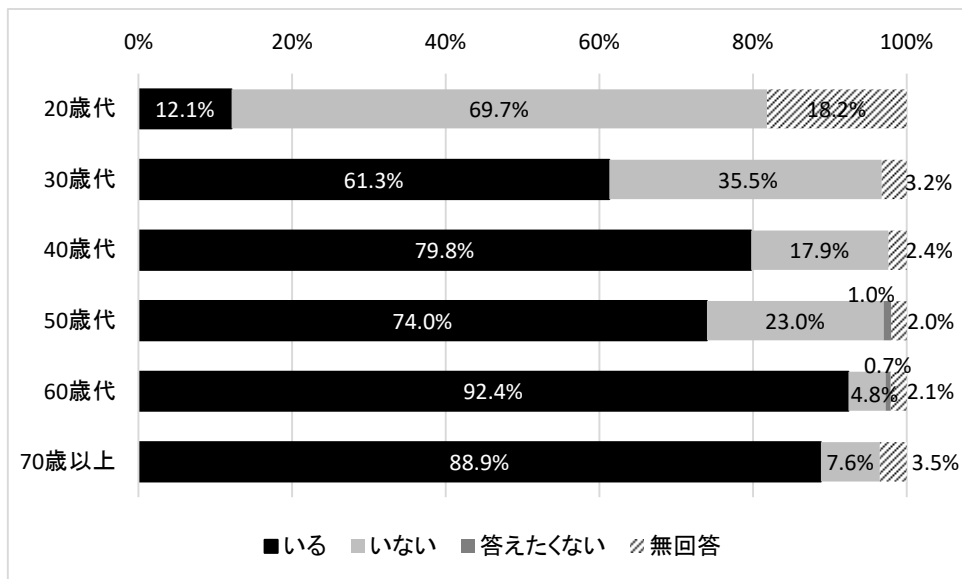
【回答結果】

- お子さんが「いる」が80.3%、「いない」が15.4%となっています。
- 年齢別でみると、「20歳代」では、「いない」が69.7%と他の年齢層と比べて高くなっています。

【問6：全体集計 SA/N=742】



【問6：クロス集計（年齢別）】



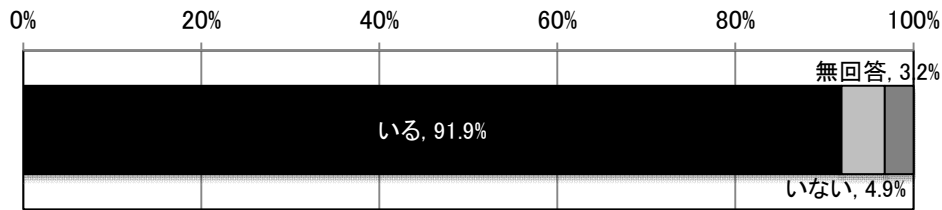
1-7 普段の生活で助けてもらえる人の有無

〔調査票/問7〕 あなたは、普段の生活の中で困ったときに助けてもらえる人がいますか。

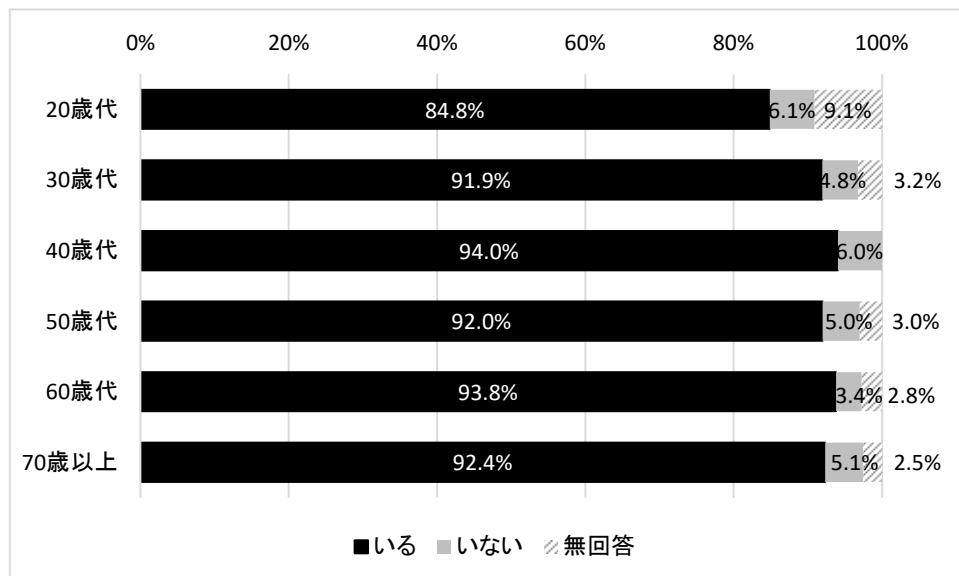
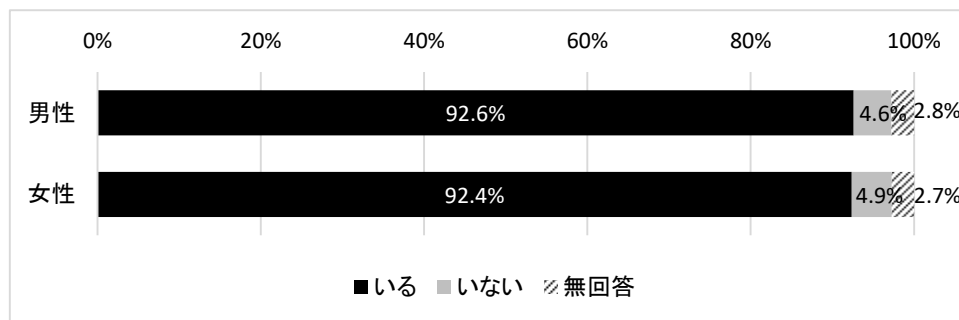
【回答結果】

● 普段の生活で困ったときに助けてもらえる人が「いる」が91.9%となっています。

【問7：全体集計 SA/N=742】



【問7：クロス集計（性別・年齢別）】



1. 回答者の属性

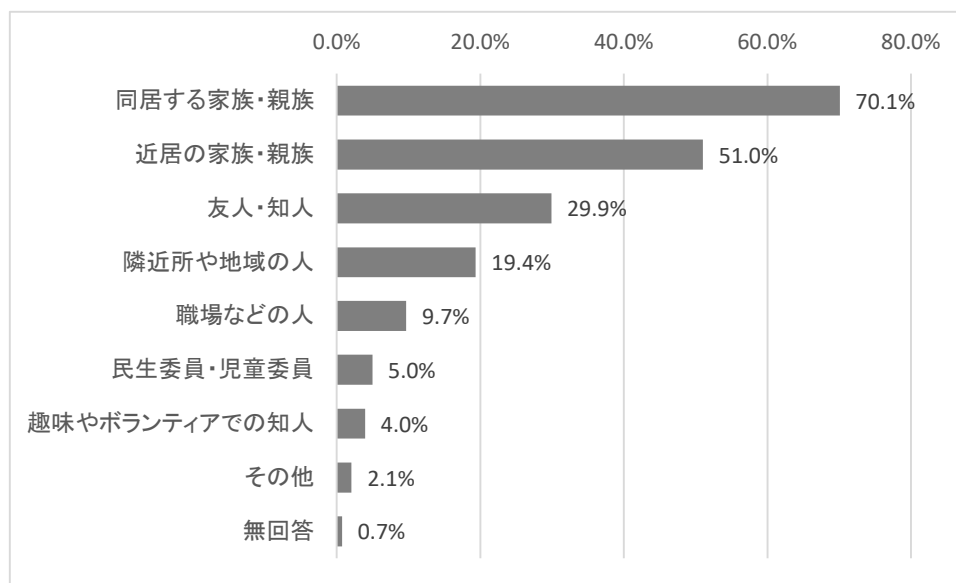
1-8 普段の生活で助けてもらえる人

〔調査票/問7-1〕 (困ったときに助けてもらえる人は)誰ですか。

【回答結果】

- 困ったときに助けてもらえる人は「同居する家族・親族」が70.1%と最も多く、次いで、「近居の家族・親族」「友人・知人」となっています。
- 年齢別でみると、「20歳代」で「友人・知人」が他の年齢層と比べて高くなっています。

【問7-1：全体集計 MA/N=682】



【問7-1：クロス集計（性別・年齢別）】

選択項目	総計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
同居する家族・親族	478	64.4%	216	71.8%	258	63.5%
近居の家族・親族	348	46.9%	146	48.5%	200	49.3%
友人・知人	204	27.5%	88	29.2%	115	28.3%
隣近所や地域の人	132	17.8%	69	22.9%	63	15.5%
趣味やボランティアでの知人	27	3.6%	15	5.0%	12	3.0%
職場などの人	66	8.9%	34	11.3%	32	7.9%
民生委員・児童委員	34	4.6%	18	6.0%	16	3.9%
その他	14	1.9%	6	2.0%	7	1.7%
無回答	5	0.7%	3	1.0%	2	0.5%
合計	1,308		595		705	

選択項目	総計		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
同居する家族・親族	478	64.4%	15	45.5%	38	61.3%	56	66.7%	71	71.0%	105	72.4%	193	61.5%
近居の家族・親族	348	46.9%	12	36.4%	38	61.3%	40	47.6%	52	52.0%	76	52.4%	130	41.4%
友人・知人	204	27.5%	14	42.4%	22	35.5%	25	29.8%	27	27.0%	52	35.9%	64	20.4%
隣近所や地域の人	132	17.8%	3	9.1%	4	6.5%	4	4.8%	14	14.0%	34	23.4%	73	23.2%
趣味やボランティアでの知人	27	3.6%	1	3.0%	4	6.5%	2	2.4%	1	1.0%	6	4.1%	13	4.1%
職場などの人	66	8.9%	6	18.2%	11	17.7%	16	19.0%	12	12.0%	17	11.7%	4	1.3%
民生委員・児童委員	34	4.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	7	4.8%	26	8.3%
その他	14	1.9%	0	0.0%	2	3.2%	2	2.4%	3	3.0%	1	0.7%	6	1.9%
無回答	5	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.2%	0	0.0%	1	0.7%	3	1.0%
合計	1,308		51		119		146		181		299		512	

2. いろいろな分野での男女平等について

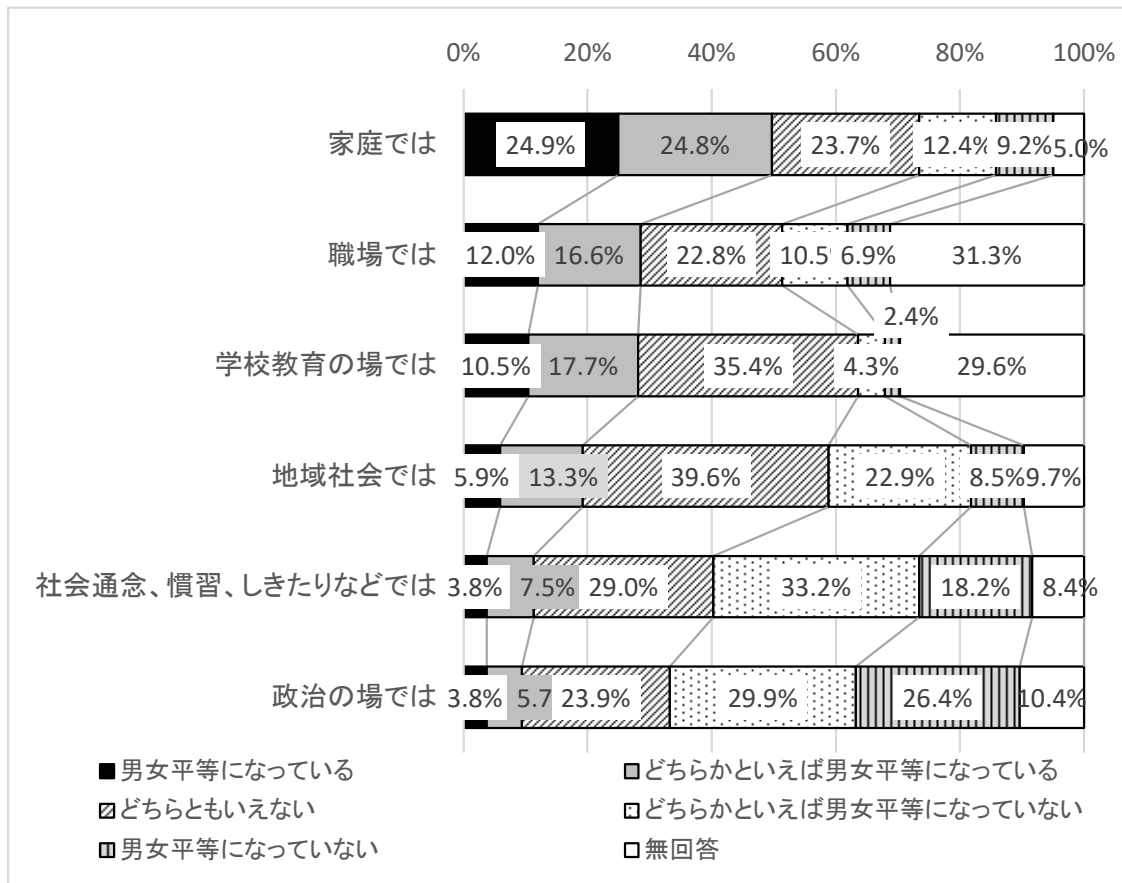
2-1 各分野での男女平等感 (SA)

〔調査票/問8〕 あなたは、次の各分野で、男女平等になっていると思いますか。

【回答結果】

- 「男女平等になっている」「どちらかといえば男女平等になっている」をあわせた割合が高い項目は、「家庭で」が49.7%、「職場で」が28.6%、「学校教育の場で」が28.2%となっています。
- 「男女平等になっていない」「どちらかといえば男女平等になっていない」をあわせた割合が高い項目は、「政治の場で」が56.3%、「社会通念、慣習、しきなりなどで」が51.4%となっています。

【問8：全体集計 SA/N=742】



2. いろいろな分野での男女平等について

【問8：前回調査との比較】

- 前回調査と比較すると、「家庭」、「職場」は前回調査に比べ、「（どちらとえば）男女共同平等になっている」が高くなっています。
- 一方、「政治の場」は前回調査に比べ、「（どちらとえば）男女平等になっていない」が高くなっており、男女共同参画が進んでいないと市民は考えていることがわかります。

	家庭では		職場では		学校教育の場では		地域社会では		社会通念、慣習、しきたりなどでは		政治の場では	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
男女平等になっている	24.9%	15.0%	12.0%	8.9%	10.5%	6.8%	5.9%	3.4%	3.8%	2.6%	3.8%	3.1%
どちらかといえば男女平等になっている	24.8%	21.0%	16.6%	14.4%	17.7%	21.5%	13.3%	13.1%	7.5%	6.8%	5.7%	10.2%
どちらともいえない	23.7%	24.4%	22.8%	26.8%	35.4%	32.3%	39.6%	34.1%	29.0%	24.9%	23.9%	27.0%
どちらかといえば男女平等になっていない	12.4%	21.5%	10.5%	18.1%	4.3%	8.1%	22.9%	25.7%	33.2%	31.2%	29.9%	28.9%
男女平等になっていない	9.2%	11.3%	6.9%	8.7%	2.4%	2.9%	8.5%	9.2%	18.2%	20.5%	26.4%	17.3%
無回答	5.0%	6.8%	31.3%	23.1%	29.6%	28.3%	9.7%	14.4%	8.4%	13.9%	10.4%	13.4%

【問8：クロス集計（性別）】

- 性別で比較すると、「家庭」、「職場」、「学校教育の場」、「地域社会」では「男性」が「女性」より、「（どちらとえば）男女共同参画になっている」が高くなっています。一方、「地域社会」、「社会通念、慣習」では「女性」が「男性」より「（どちらとえば）男女共同参画になっていない」が高くなっています。

	家庭では		職場では		学校教育の場では		地域社会では		社会通念、慣習、しきたりなどでは		政治の場では	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
男女平等になっている	26.8%	23.9%	12.3%	12.1%	12.3%	9.4%	8.3%	4.2%	5.2%	2.7%	6.8%	1.5%
どちらかといえば男女平等になっている	29.5%	21.4%	21.5%	12.8%	20.9%	15.3%	17.5%	10.3%	10.2%	5.7%	7.1%	4.7%
どちらともいえない	23.1%	24.6%	19.4%	26.1%	31.7%	39.2%	37.5%	41.9%	31.4%	27.8%	22.8%	25.1%
どちらかといえば男女平等になっていない	10.5%	14.0%	11.1%	10.1%	3.7%	4.4%	20.3%	25.4%	29.5%	36.5%	28.9%	31.3%
男女平等になっていない	6.5%	11.1%	7.1%	6.2%	2.5%	2.2%	8.0%	8.9%	16.0%	19.7%	25.5%	27.1%
無回答	3.7%	4.9%	28.6%	32.8%	28.9%	29.6%	8.3%	9.4%	7.7%	7.6%	8.9%	10.3%

【問8：クロス集計（年齢別）】

●年齢別で比較すると、“家庭”、“職場”、“学校教育の場”、“地域社会”では「男性」が「女性」より、（どちらかといえば）男女共同参画になっている」が高くなっています。一方、“地域社会”、“社会通念、慣習”では「女性」が「男性」より「（どちらかといえば）男女共同参画になっていない」が高くなっています。

【家庭では男女平等になっていると思いますか】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
男女平等になっている	30.3%	35.5%	28.6%	21.0%	22.1%	24.2%
どちらかといえば男女平等になっている	27.3%	27.4%	23.8%	23.0%	24.1%	25.5%
どちらともいえない	24.2%	17.7%	21.4%	30.0%	24.1%	23.6%
どちらかといえば男女平等になっていない	9.1%	12.9%	13.1%	13.0%	15.2%	11.1%
男女平等になっていない	9.1%	6.5%	13.1%	12.0%	11.0%	7.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	3.4%	8.6%

【職場では男女平等になっていると思いますか】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
男女平等になっている	15.2%	24.2%	19.0%	16.0%	11.7%	6.4%
どちらかといえば男女平等になっている	9.1%	22.6%	23.8%	25.0%	21.4%	9.6%
どちらともいえない	45.5%	32.3%	22.6%	30.0%	22.8%	16.6%
どちらかといえば男女平等になっていない	15.2%	9.7%	16.7%	16.0%	11.0%	6.7%
男女平等になっていない	6.1%	11.3%	11.9%	10.0%	7.6%	3.5%
無回答	9.1%	0.0%	6.0%	3.0%	25.5%	57.3%

【学校教育の場では男女平等になっていると思いますか】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
男女平等になっている	21.2%	24.2%	11.9%	12.0%	8.3%	7.0%
どちらかといえば男女平等になっている	18.2%	21.0%	28.6%	24.0%	17.9%	12.1%
どちらともいえない	48.5%	50.0%	46.4%	46.0%	40.7%	22.9%
どちらかといえば男女平等になっていない	6.1%	3.2%	4.8%	5.0%	4.1%	4.1%
男女平等になっていない	6.1%	0.0%	3.6%	4.0%	1.4%	2.2%
無回答	0.0%	1.6%	4.8%	9.0%	27.6%	51.6%

【地域社会では男女平等になっていると思いますか】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
男女平等になっている	9.1%	8.1%	4.8%	3.0%	6.2%	6.4%
どちらかといえば男女平等になっている	12.1%	14.5%	6.0%	14.0%	11.7%	15.9%
どちらともいえない	54.5%	58.1%	44.0%	46.0%	37.2%	32.8%
どちらかといえば男女平等になっていない	18.2%	11.3%	28.6%	25.0%	30.3%	20.4%
男女平等になっていない	3.0%	8.1%	15.5%	9.0%	9.7%	6.7%
無回答	3.0%	0.0%	1.2%	3.0%	4.8%	17.8%

【社会通念、慣習、しきたりなどでは男女平等になっていると思いますか】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
男女平等になっている	6.1%	3.2%	3.6%	1.0%	2.8%	5.1%
どちらかといえば男女平等になっている	15.2%	6.5%	2.4%	9.0%	6.2%	8.6%
どちらともいえない	36.4%	33.9%	32.1%	33.0%	23.4%	28.0%
どちらかといえば男女平等になっていない	15.2%	38.7%	36.9%	38.0%	45.5%	26.1%
男女平等になっていない	27.3%	17.7%	25.0%	17.0%	19.3%	15.6%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	2.8%	16.6%

【政治の場では男女平等になっていると思いますか】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
男女平等になっている	3.0%	6.5%	3.6%	0.0%	3.4%	4.8%
どちらかといえば男女平等になっている	0.0%	1.6%	3.6%	6.0%	6.2%	7.3%
どちらともいえない	36.4%	30.6%	20.2%	29.0%	25.5%	20.1%
どちらかといえば男女平等になっていない	30.3%	33.9%	44.0%	32.0%	33.1%	23.6%
男女平等になっていない	30.3%	27.4%	27.4%	31.0%	28.3%	23.6%
無回答	0.0%	0.0%	1.2%	2.0%	3.4%	20.7%

2. いろいろな分野での男女平等について

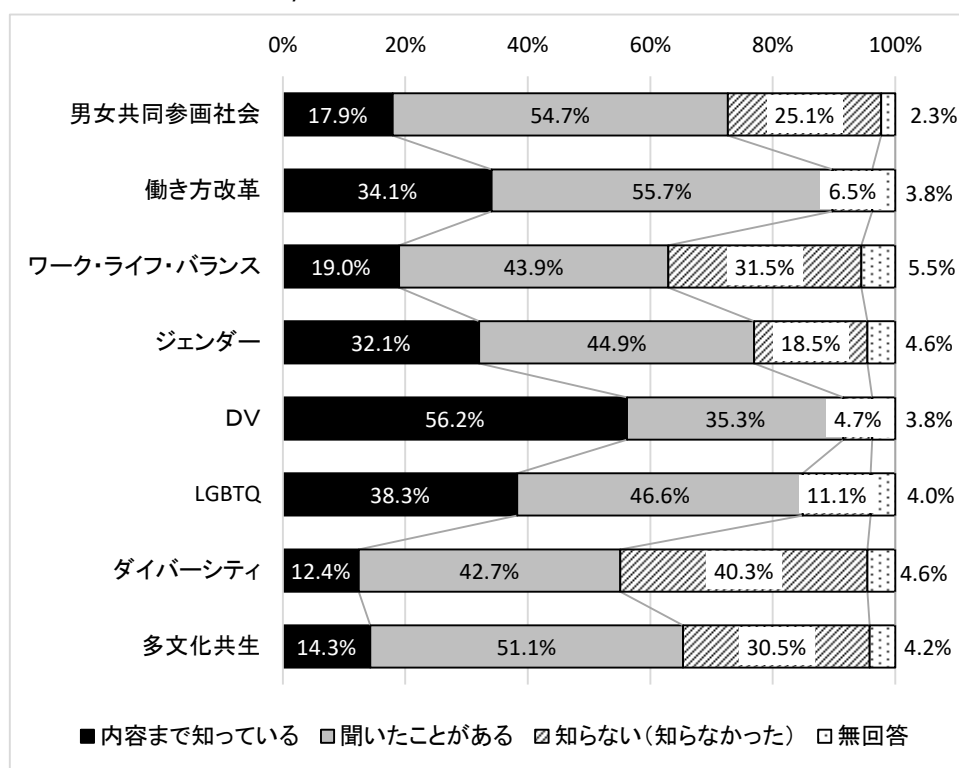
2-2 男女共同参画社会に関する言葉の認知度

〔調査票／問9〕 あなたは次にあげる言葉についてご存知ですか。

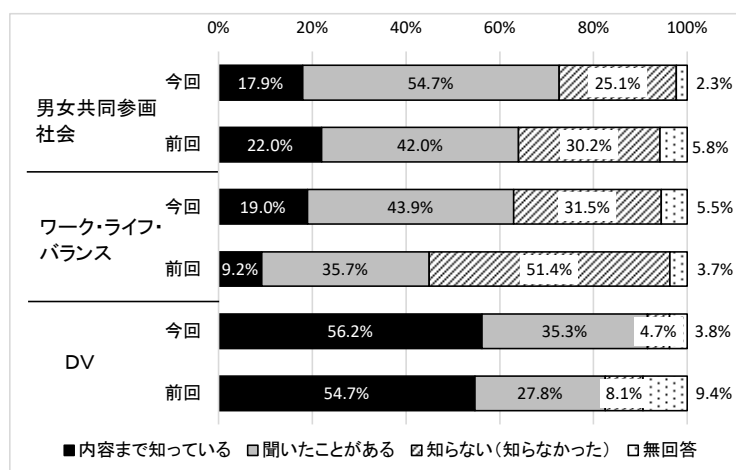
【回答結果】

- 「内容まで知っている」が高い項目は、「DV」、「LGBTQ」、「働き方改革」、「ジェンダー」となっています。
- 「知らない(知らなかった)」が高い項目は、「ダイバーシティ」、「ワーク・ライフ・バランス」、「多文化共生」となっています。

【問9：全体集計 SA/N=742】



【問9：前回調査との比較 ※該当設問のみ】



2. いろいろな分野での男女平等について

【問9：クロス集計（性別）】

●性別で見ると、「ジェンダー」、「DV」、「LGBTQ」は「女性」の方が「内容まで知っている」割合が高くなっています。

選択項目	男女共同参画社会		働き方改革		ワーク・ライフ・バランス		ジェンダー		DV		LGBTQ		ダイバーシティ		多文化共生	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
内容まで知っている	19.4%	17.0%	33.8%	35.0%	21.8%	17.0%	29.2%	34.7%	52.6%	59.6%	32.3%	43.1%	12.9%	12.1%	12.9%	15.5%
聞いたことがある	56.6%	54.4%	57.8%	54.9%	42.8%	45.6%	49.2%	42.1%	39.1%	33.0%	51.1%	44.1%	45.8%	41.1%	51.1%	52.0%
知らない（知らなかった）	23.1%	26.4%	6.5%	6.2%	32.6%	31.0%	18.8%	18.5%	5.2%	4.4%	13.5%	9.4%	37.5%	42.9%	32.6%	29.1%
無回答	0.9%	2.2%	1.8%	3.9%	2.8%	6.4%	2.8%	4.7%	3.1%	3.0%	3.1%	3.4%	3.7%	3.9%	3.4%	3.4%

【問9：クロス集計（年齢別）】

●年齢別で比較すると、「20歳代」はほとんどの項目で「内容まで知っている」が他の年齢より高くなっています。また、「40歳代」は「働き方改革」、「ワーク・ライフ・バランス」など仕事と暮らしに関わる項目で「内容まで知っている」が高くなっています。

【男女共同参画社会】							【DV】						
選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
内容まで知っている	24.2%	16.1%	19.0%	13.0%	16.6%	19.7%	内容まで知っている	72.7%	72.6%	83.3%	61.0%	64.8%	39.2%
聞いたことがある	48.5%	50.0%	48.8%	56.0%	61.4%	55.1%	聞いたことがある	27.3%	22.6%	16.7%	38.0%	31.7%	44.9%
知らない（知らなかった）	27.3%	33.9%	32.1%	31.0%	22.1%	21.0%	知らない（知らなかった）	0.0%	4.8%	0.0%	1.0%	3.4%	8.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.1%	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.6%
【働き方改革】							【LGBTQ】						
選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
内容まで知っている	45.5%	45.2%	60.7%	44.0%	31.7%	22.0%	内容まで知っている	66.7%	50.0%	59.5%	43.0%	43.4%	23.9%
聞いたことがある	54.5%	50.0%	36.9%	51.0%	62.1%	61.1%	聞いたことがある	27.3%	40.3%	38.1%	49.0%	50.3%	50.3%
知らない（知らなかった）	0.0%	4.8%	2.4%	5.0%	4.8%	9.9%	知らない（知らなかった）	6.1%	9.7%	2.4%	8.0%	6.2%	17.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	7.0%	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%
【ワーク・ライフ・バランス】							【ダイバーシティ】						
選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
内容まで知っている	39.4%	27.4%	38.1%	21.0%	17.9%	10.2%	内容まで知っている	30.3%	19.4%	17.9%	15.0%	12.4%	7.0%
聞いたことがある	39.4%	40.3%	35.7%	45.0%	51.0%	44.3%	聞いたことがある	42.4%	58.1%	48.8%	47.0%	44.1%	36.6%
知らない（知らなかった）	21.2%	32.3%	26.2%	34.0%	30.3%	34.1%	知らない（知らなかった）	27.3%	22.6%	33.3%	38.0%	43.4%	46.8%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	11.5%	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.6%
【ジェンダー】							【多文化共生】						
選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
内容まで知っている	51.5%	37.1%	58.3%	40.0%	35.9%	18.2%	内容まで知っている	39.4%	24.2%	19.0%	12.0%	13.8%	9.6%
聞いたことがある	39.4%	54.8%	36.9%	49.0%	51.0%	42.0%	聞いたことがある	45.5%	50.0%	53.6%	53.0%	59.3%	47.5%
知らない（知らなかった）	9.1%	8.1%	4.8%	11.0%	13.1%	30.3%	知らない（知らなかった）	15.2%	25.8%	27.4%	35.0%	26.9%	34.4%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.6%	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.6%

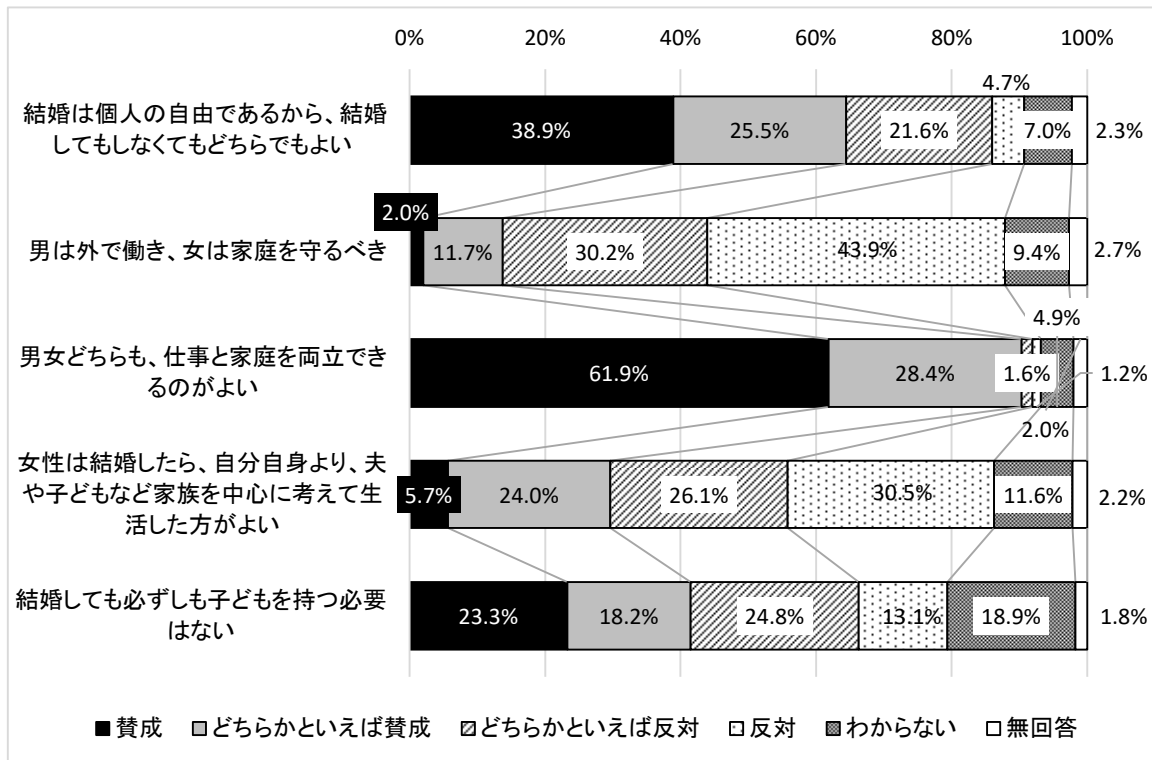
2-3 結婚・家庭に関する男女平等感 (SA)

〔調査票/問10〕 あなたは、結婚や家庭に関する次のような考え方について、どのように思いますか。

【回答結果】

- 「賛成」、「どちらかといえば賛成」をあわせた、概ね賛成の割合が高い項目は、「男女どちらも、仕事と家庭を両立できるのがよい」が 90.3 %、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」が64.4%となっています。
- 「反対」、「どちらかといえば反対」をあわせた、概ね反対の割合が高い項目は、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」が 74.1 %、「女性は結婚したら、自分自身より、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」が 56.1 %となっています。

【問10：全体集計 SA/N=742】

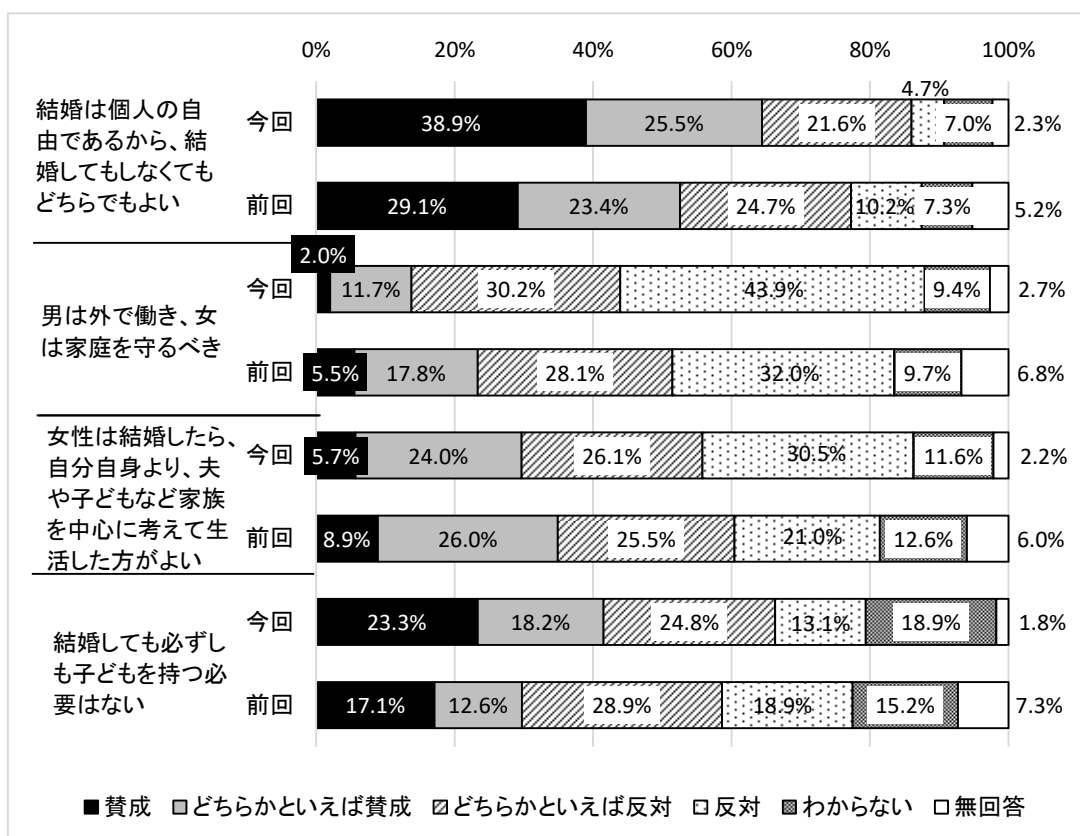


2. いろいろな分野での男女平等について

【回答結果】

- 前回調査と比較すると、賛成の割合が高い「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は前回調査に比べ賛成の割合が高くなっています。一方、反対の割合が高い「男は外で働き、女は家庭を守るべき」、「女性は結婚したら、自分自身より、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」はいずれも前回調査と比べ反対の割合が高くなっています。

【問10：前回調査との比較】



【回答結果】

- 性別で比較すると、「女性」の方が「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」、「男女どちらも、仕事と家庭を両立できるのがよい」、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」で賛成の割合が高くなっています。一方、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」は「女性」のほうが反対の割合が高くなっています。
- 年齢別で比較すると、「70歳以上」で「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」で反対の割合が高くなっています。

【問10：クロス集計（性別）】

選択項目	結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい		男は外で働き、女は家庭を守るべき		男女どちらも、仕事と家庭を両立できるのがよい		女性は結婚したら、自分自身より、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい		結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
賛成	33.8%	43.1%	2.5%	1.7%	57.5%	65.8%	5.2%	5.4%	19.4%	26.1%
どちらかといえば賛成	27.4%	24.1%	12.6%	11.3%	32.3%	25.6%	22.2%	26.1%	14.8%	21.2%
どちらかといえば反対	22.5%	21.2%	33.5%	27.6%	2.2%	1.2%	27.7%	24.9%	29.5%	21.2%
反対	6.5%	3.2%	39.1%	48.0%	1.2%	1.2%	29.2%	31.5%	16.6%	10.3%
わからない	8.3%	6.2%	10.8%	8.4%	4.9%	4.7%	13.5%	10.3%	18.8%	19.5%
無回答	1.5%	2.2%	1.5%	3.0%	1.8%	1.5%	2.2%	1.7%	0.9%	1.7%

【問10：クロス集計（年齢別）】

【結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
賛成	63.6%	72.6%	60.7%	48.0%	31.0%	24.8%
どちらかといえば賛成	27.3%	19.4%	25.0%	30.0%	31.0%	22.9%
どちらかといえば反対	6.1%	6.5%	4.8%	12.0%	24.8%	32.2%
反対	0.0%	0.0%	2.4%	2.0%	4.8%	7.3%
わからない	3.0%	1.6%	7.1%	7.0%	7.6%	8.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.7%	4.5%

【男は外で働き、女は家庭を守るべき】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
賛成	3.0%	1.6%	0.0%	1.0%	1.4%	3.2%
どちらかといえば賛成	6.1%	4.8%	10.7%	9.0%	9.0%	16.2%
どちらかといえば反対	36.4%	27.4%	20.2%	33.0%	33.1%	30.6%
反対	45.5%	53.2%	58.3%	47.0%	46.2%	36.0%
わからない	9.1%	12.9%	9.5%	9.0%	9.7%	8.9%
無回答	0.0%	0.0%	1.2%	1.0%	0.7%	5.1%

【男女どちらも、仕事と家庭を両立できるのがよい】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
賛成	54.5%	72.6%	70.2%	66.0%	66.2%	55.1%
どちらかといえば賛成	39.4%	19.4%	26.2%	28.0%	25.5%	31.2%
どちらかといえば反対	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	2.2%
反対	0.0%	1.6%	0.0%	1.0%	0.7%	1.9%
わからない	3.0%	4.8%	2.4%	4.0%	4.1%	6.4%
無回答	0.0%	1.6%	1.2%	1.0%	0.7%	3.2%

【女性は結婚したら、自分自身より、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
賛成	0.0%	3.2%	0.0%	2.0%	3.4%	10.2%
どちらかといえば賛成	27.3%	9.7%	16.7%	12.0%	25.5%	31.8%
どちらかといえば反対	21.2%	16.1%	32.1%	42.0%	27.6%	21.3%
反対	39.4%	51.6%	35.7%	30.0%	30.3%	24.2%
わからない	12.1%	19.4%	14.3%	13.0%	12.4%	8.6%
無回答	0.0%	0.0%	1.2%	1.0%	0.7%	3.8%

【結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
賛成	42.4%	56.5%	39.3%	29.0%	16.6%	11.8%
どちらかといえば賛成	30.3%	22.6%	23.8%	25.0%	19.3%	12.1%
どちらかといえば反対	12.1%	4.8%	13.1%	19.0%	28.3%	33.4%
反対	0.0%	0.0%	4.8%	6.0%	11.7%	22.0%
わからない	15.2%	16.1%	19.0%	20.0%	22.8%	17.8%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	1.4%	2.9%

2. いろいろな分野での男女平等について

2-4 家庭生活における夫婦の役割

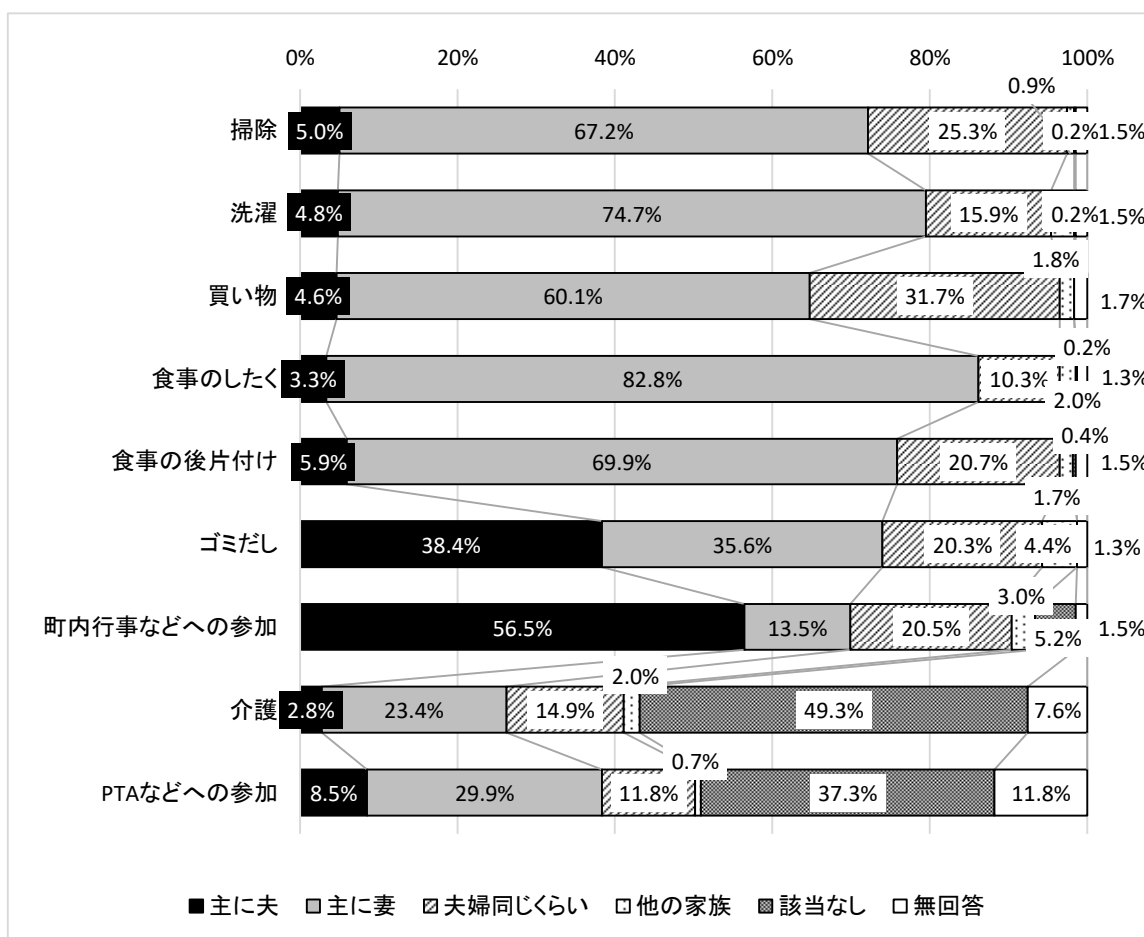
〔調査票/問11〕 あなたのご家庭では、次のような仕事を主にどなたが担当していますか。

※既婚者(問4で「1. 既婚(事実婚を含む)」を回答した方

【回答結果】

- 「夫」の割合が高い項目は「町内行事などへの参加」が 56.5 %となっています。
- 「妻」の割合が高い項目は、「食事のしたく」が 82.8%、「洗濯」が74.1%、「食事の後片づけ」が 69.9%、「掃除」が67.2%、「買い物」が60.1%となっています。

【問11：全体集計 SA/N=542】



2. いろいろな分野での男女平等について

【回答結果】

- 前回調査と比べると、「掃除」、「洗濯」、「食事の後片付け」、「ゴミ出し」で「夫婦同じくらい」の回答が高くなっています。一方、「町内行事などへの参加」では、「主に夫」が前回調査と比べ高くなっています。
- 性別で比較すると、「男性」では「主に夫」、「女性」では「主に妻」の回答が高くなっています。

【問11：前回調査との比較】

選択項目	掃除		洗濯		買い物		食事のしたく		食事の後片付け	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
主に夫	5.0%	5.9%	4.8%	5.2%	4.6%	5.6%	3.3%	3.0%	5.9%	5.9%
主に妻	67.2%	70.4%	74.7%	78.1%	60.1%	58.1%	82.8%	82.2%	69.9%	73.0%
夫婦同じくらい	25.3%	15.9%	15.9%	8.5%	31.7%	27.8%	10.3%	5.9%	20.7%	11.1%
他の家族	0.9%	3.0%	3.0%	3.3%	1.8%	2.2%	2.0%	4.1%	1.7%	2.6%
該当なし	0.2%	0.7%	0.2%	0.4%	0.0%	0.7%	0.2%	0.7%	0.4%	0.7%
無回答	1.5%	4.1%	1.5%	4.4%	1.7%	5.6%	1.3%	4.1%	1.5%	6.7%

選択項目	ゴミだし		町内行事などへの参加		介護		PTAなどへの参加	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
主に夫	38.4%	34.8%	56.5%	47.4%	2.8%	3.3%	8.5%	5.9%
主に妻	35.6%	43.3%	13.5%	15.6%	23.4%	20.4%	29.9%	28.9%
夫婦同じくらい	20.3%	13.0%	20.5%	24.1%	14.9%	10.0%	11.8%	12.2%
他の家族	4.4%	4.8%	3.0%	2.6%	2.0%	1.5%	0.7%	0.7%
該当なし	0.0%	0.7%	5.2%	4.1%	49.3%	47.8%	37.3%	36.7%
無回答	1.3%	3.3%	1.5%	6.3%	7.6%	17.0%	11.8%	15.6%

【問11：クロス集計（性別）】

選択項目	掃除		洗濯		買い物		食事のしたく		食事の後片付け	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
主に夫	5.5%	4.6%	5.1%	4.6%	5.5%	3.9%	4.3%	2.5%	9.4%	2.8%
主に妻	62.0%	72.2%	71.0%	77.8%	54.5%	64.8%	80.0%	85.6%	59.6%	79.6%
夫婦同じくらい	29.8%	21.1%	17.6%	14.4%	36.9%	27.5%	12.5%	8.5%	27.5%	14.8%
他の家族	1.2%	0.7%	4.3%	1.8%	2.0%	1.8%	1.6%	2.5%	1.6%	1.4%
該当なし	0.4%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.4%	0.0%
無回答	1.2%	1.4%	1.6%	1.4%	1.2%	2.1%	1.2%	1.1%	1.6%	1.4%

選択項目	ゴミだし		町内行事などへの参加		介護		PTAなどへの参加	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
主に夫	42.7%	34.5%	64.3%	49.6%	3.5%	2.1%	11.8%	5.6%
主に妻	29.4%	41.2%	10.6%	15.8%	20.4%	26.1%	23.1%	35.6%
夫婦同じくらい	21.6%	19.4%	16.9%	23.6%	18.0%	12.3%	13.3%	10.6%
他の家族	5.1%	3.5%	2.4%	3.5%	2.0%	2.1%	0.8%	0.7%
該当なし	0.0%	0.0%	4.7%	5.6%	47.8%	50.7%	40.0%	35.2%
無回答	1.2%	1.4%	1.2%	1.8%	8.2%	6.7%	11.0%	12.3%

2. いろいろな分野での男女平等について

【回答結果】

- 年齢別で比較すると、「20歳代」では、「夫婦同じくらい」の回答が高く、「食事のしたく」、「食事の後片付け」では「主に夫」が高くなっています。
- 一方、「70歳以上」では「食事の後片付け」、「介護」で「主に妻」が高くなっています。

【問11：クロス集計（年齢別）】

【掃除】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
主に夫	0.0%	2.6%	5.8%	6.3%	3.3%	5.7%
主に妻	60.0%	50.0%	68.1%	62.0%	78.9%	65.4%
夫婦同じくらい	40.0%	44.7%	23.2%	29.1%	17.1%	25.4%
他の家族	0.0%	0.0%	1.4%	1.3%	0.8%	0.9%
該当なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
無回答	0.0%	2.6%	1.4%	1.3%	0.0%	2.2%

【洗濯】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
主に夫	0.0%	10.5%	7.2%	5.1%	1.6%	4.8%
主に妻	60.0%	55.3%	69.6%	75.9%	86.2%	73.2%
夫婦同じくらい	40.0%	26.3%	14.5%	15.2%	10.6%	17.1%
他の家族	0.0%	5.3%	7.2%	2.5%	1.6%	2.2%
該当なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
無回答	0.0%	2.6%	1.4%	1.3%	0.0%	2.2%

【買い物】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
主に夫	0.0%	5.3%	0.0%	1.3%	4.1%	7.5%
主に妻	40.0%	63.2%	71.0%	60.8%	64.2%	54.4%
夫婦同じくらい	60.0%	23.7%	26.1%	35.4%	30.1%	33.8%
他の家族	0.0%	5.3%	1.4%	1.3%	1.6%	1.8%
該当なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	2.6%	1.4%	1.3%	0.0%	2.6%

【食事のしたく】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
主に夫	20.0%	7.9%	1.4%	1.3%	2.4%	3.9%
主に妻	60.0%	73.7%	85.5%	83.5%	83.7%	83.3%
夫婦同じくらい	20.0%	10.5%	7.2%	10.1%	12.2%	10.1%
他の家族	0.0%	5.3%	4.3%	3.8%	1.6%	0.4%
該当なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
無回答	0.0%	2.6%	1.4%	1.3%	0.0%	1.8%

【食事の後片付け】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
主に夫	40.0%	7.9%	7.2%	5.1%	1.6%	7.0%
主に妻	20.0%	63.2%	71.0%	67.1%	78.0%	68.4%
夫婦同じくらい	20.0%	23.7%	15.9%	25.3%	18.7%	21.1%
他の家族	20.0%	0.0%	4.3%	1.3%	1.6%	0.9%
該当なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
無回答	0.0%	5.3%	1.4%	1.3%	0.0%	1.8%

【ゴミだし】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
主に夫	40.0%	50.0%	43.5%	27.8%	37.4%	39.0%
主に妻	20.0%	13.2%	26.1%	51.9%	43.1%	32.9%
夫婦同じくらい	20.0%	18.4%	14.5%	13.9%	18.7%	25.4%
他の家族	20.0%	15.8%	14.5%	5.1%	0.8%	0.9%
該当なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	2.6%	1.4%	1.3%	0.0%	1.8%

【町内行事などへの参加】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
主に夫	20.0%	47.4%	52.2%	49.4%	63.4%	58.8%
主に妻	0.0%	10.5%	13.0%	17.7%	13.8%	12.7%
夫婦同じくらい	20.0%	15.8%	15.9%	20.3%	20.3%	22.8%
他の家族	0.0%	13.2%	5.8%	2.5%	0.0%	2.2%
該当なし	60.0%	10.5%	11.6%	8.9%	2.4%	1.3%
無回答	0.0%	2.6%	1.4%	1.3%	0.0%	2.2%

【介護】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
主に夫	0.0%	5.3%	1.4%	2.5%	0.8%	3.9%
主に妻	0.0%	2.6%	7.2%	25.3%	35.8%	25.0%
夫婦同じくらい	40.0%	0.0%	4.3%	17.7%	13.0%	20.2%
他の家族	0.0%	7.9%	0.0%	3.8%	0.8%	1.8%
該当なし	60.0%	81.6%	85.5%	48.1%	46.3%	34.6%
無回答	0.0%	2.6%	1.4%	2.5%	3.3%	14.5%

【PTAなどへの参加】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
主に夫	20.0%	7.9%	8.7%	7.6%	7.3%	9.2%
主に妻	0.0%	36.8%	50.7%	39.2%	35.0%	17.1%
夫婦同じくらい	20.0%	15.8%	15.9%	15.2%	5.7%	11.8%
他の家族	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	1.3%
該当なし	60.0%	36.8%	21.7%	32.9%	46.3%	38.2%
無回答	0.0%	2.6%	2.9%	3.8%	5.7%	22.4%

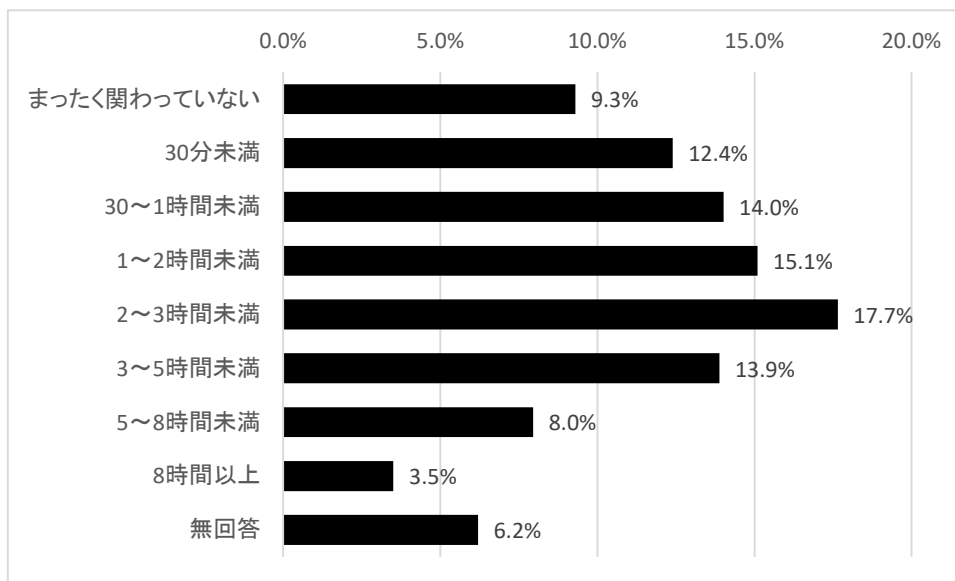
2-5 家事・育児の平均時間

〔調査票/問12〕 あなたが、家事・育児に携わる平日一日あたりの平均的な時間はどのくらいですか。

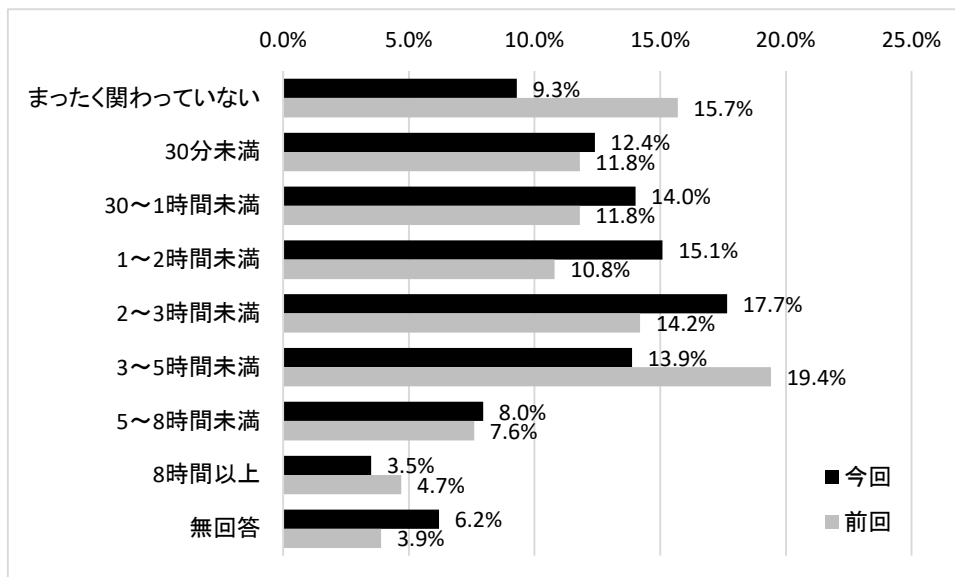
【回答結果】

- 「2～3時間未満」が17.7%と最も高く、次いで「1～2時間未満」が15.1%となっています。
- 前回調査と比較すると、「まったく関わっていない」が前回調査と比べ低くなっています。

【問11：全体集計 SA/N=742】



【問11：前回調査との比較】

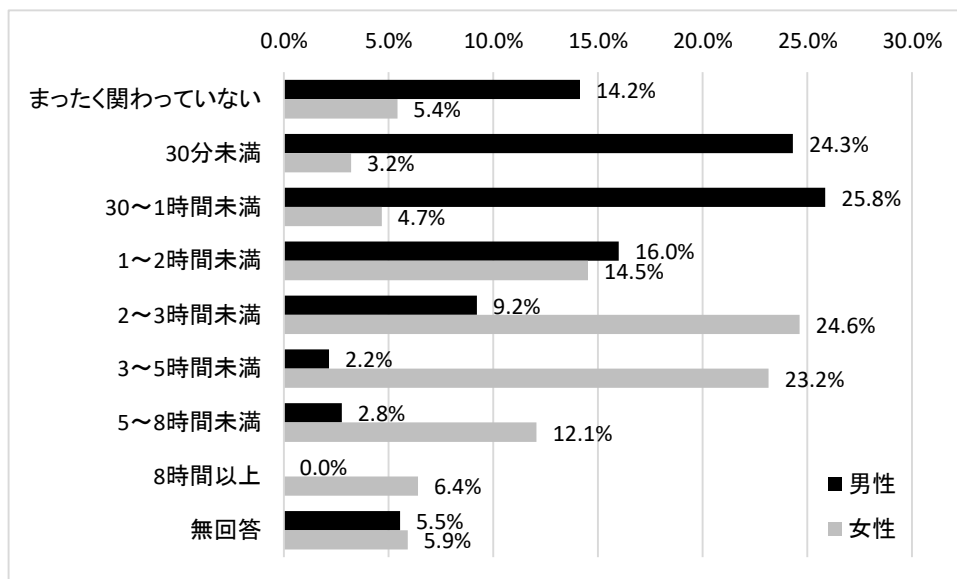


2. いろいろな分野での男女平等について

【回答結果】

- 性別で比較すると、「男性」では「30～1時間未満」、「30分未満」が高い一方、「女性」では、「2～3時間未満」、「3～5時間未満」が高くなっています。

【問12：クロス集計（性別）】



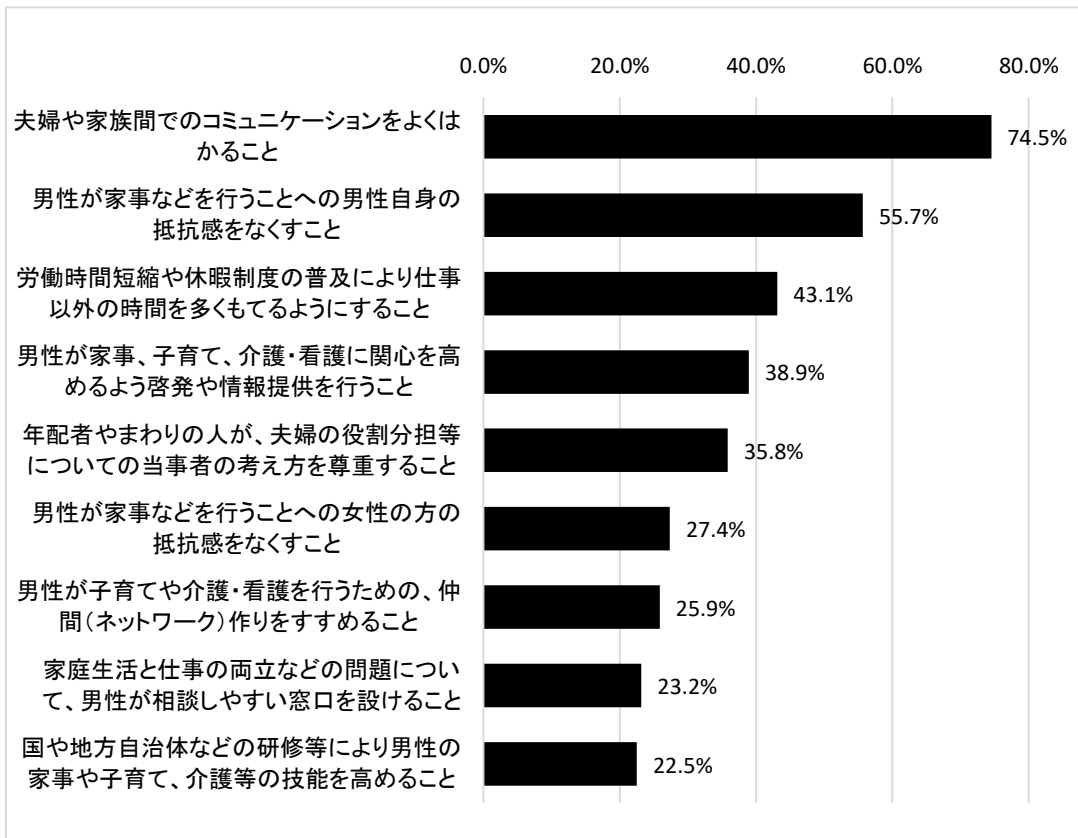
2-5 男性の家事・子育て・介護等への参加促進策

〔調査票／問13〕 男性の家事・子育て、介護等への参加は女性と比べて少ないのが現状です。今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護・看護などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【回答結果】

- 「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が74.5%と最も高く、次いで、「男性が家事などを行うことへの男性自身の抵抗感をなくすこと」が55.7%、「労働時間短縮や休暇制度の普及により仕事以外の時間を多くもてるようにすること」が43.1%となっています。

【問13：全体集計 MA/N=742】

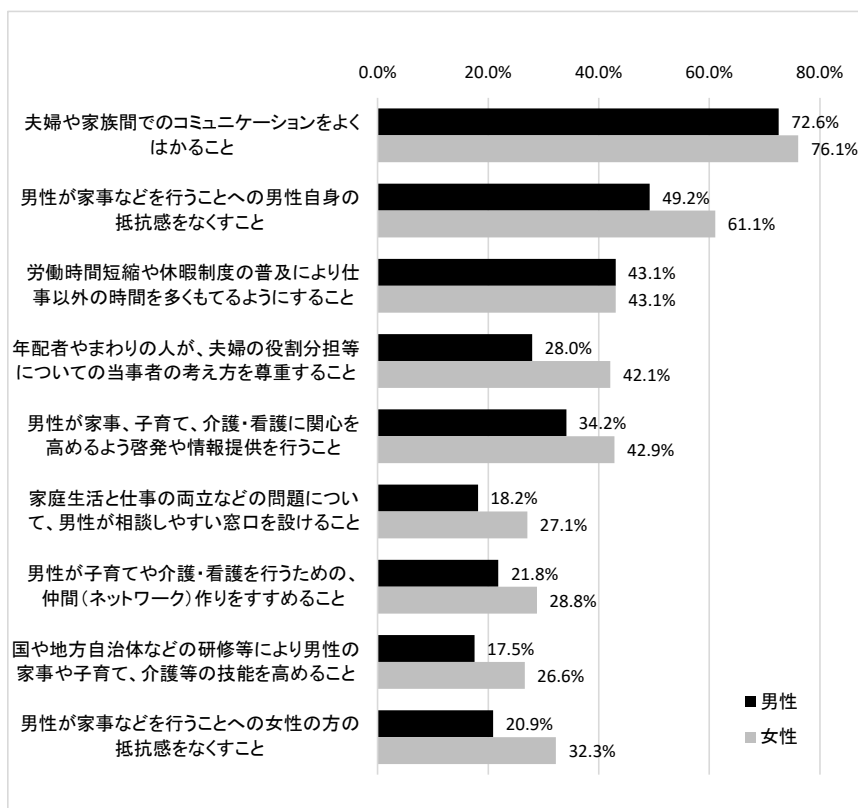


2. いろいろな分野での男女平等について

【回答結果】

●性別で比較すると、「男性が家事などを行うことへの男性自身の抵抗感をなくすこと」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」、「男性が家事、子育て、介護・看護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」では、「女性」の方が高くなっています。

【問13：クロス集計 性別】



【回答結果】

●年齢別で比較すると、「30歳代」「20歳代」では「労働時間短縮や休暇制度の普及により仕事以外の時間を多くもてるようにすること」が高くなっています。

【問13：クロス集計 年齢別】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	75.8%	75.8%	71.4%	73.0%	86.2%	70.1%
男性が家事などを行うことへの男性自身の抵抗感をなくすこと	75.8%	59.7%	54.8%	52.0%	61.4%	51.6%
労働時間短縮や休暇制度の普及により仕事以外の時間を多くもてるようにすること	60.6%	71.0%	52.4%	51.0%	45.5%	29.6%
年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	45.5%	43.5%	41.7%	37.0%	37.9%	30.3%
男性が家事、子育て、介護・看護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	36.4%	37.1%	38.1%	30.0%	48.3%	38.2%
家庭生活と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	27.3%	35.5%	23.8%	16.0%	26.2%	21.0%
男性が子育てや介護・看護を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	33.3%	33.9%	25.0%	17.0%	31.0%	24.2%
国や地方自治体などの研修等により男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	21.2%	29.0%	17.9%	18.0%	24.1%	23.2%
男性が家事などを行うことへの女性の方の抵抗感をなくすこと	39.4%	32.3%	25.0%	16.0%	34.5%	25.8%
その他	9.1%	3.2%	11.9%	3.0%	2.8%	2.5%
特に必要と思うことはない	3.0%	1.6%	0.0%	7.0%	2.1%	6.7%
無回答	0.0%	3.2%	1.2%	1.0%	2.8%	5.4%

3. 仕事と家庭の両立、女性活躍推進について

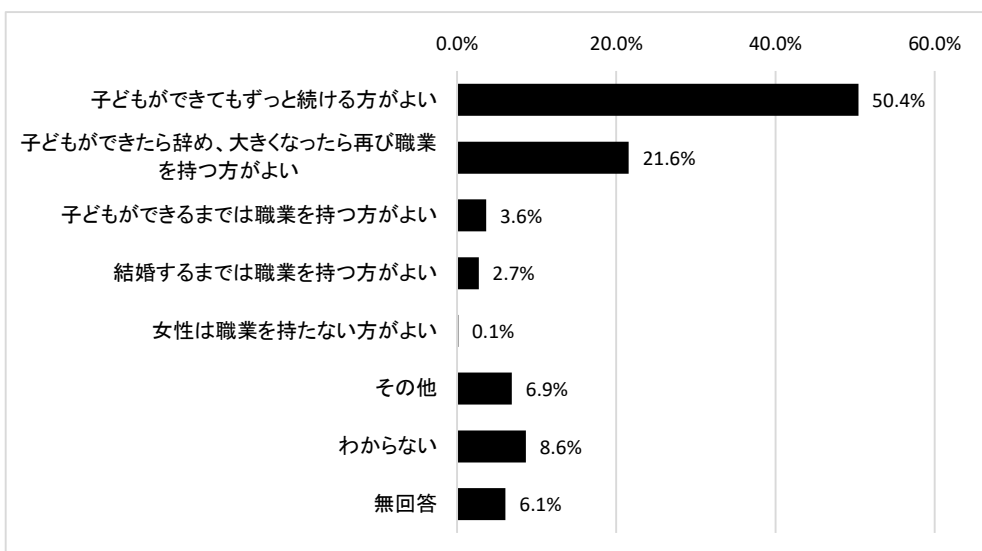
3-1 女性の就労について

〔調査票/問14〕 あなたは、女性が職業を持つことについてどのように思いますか。

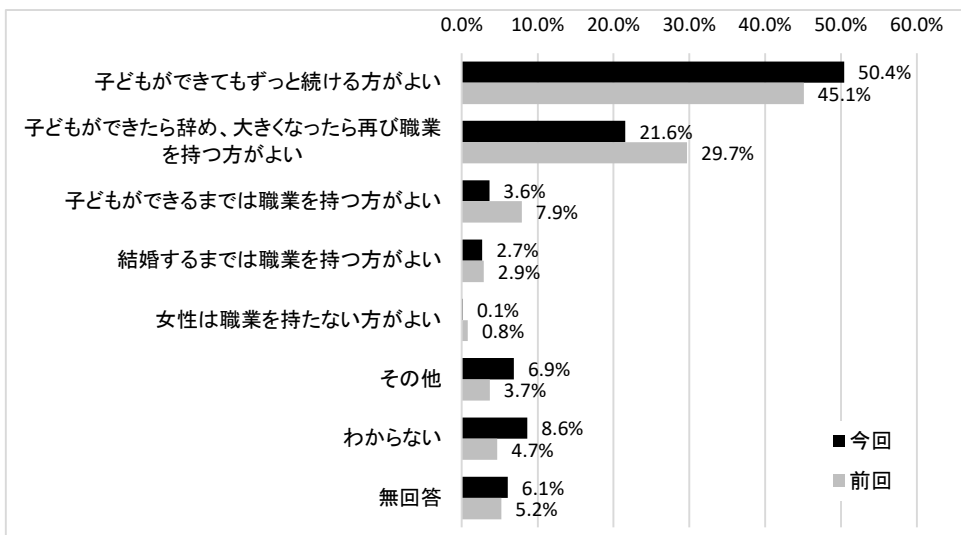
【回答結果】

- 「子どもができてもずっと続ける方がよい」が50.4%と最も高く、次いで「子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が21.6%となっています。
- 前回調査と比較すると、同様の傾向となっていますが、「子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」については、前回と比較して低くなっています。

【問14：全体集計 SA/N=742】



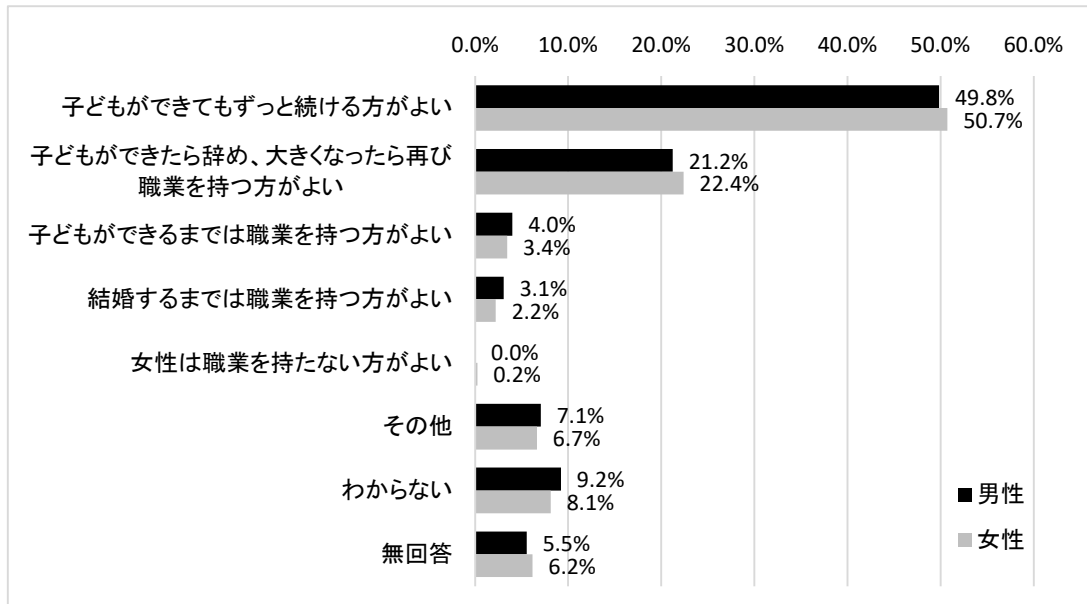
【問14：前回調査との比較】



【回答結果】

- 年齢別で比較すると、すべての年代で「子どもができてもずっと続ける方がよい」が高くなっています。「子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」は「70歳以上」で高くなっています。

【問14：クロス集計（性別）】



【問14：クロス集計（年齢別）】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
子どもができてもずっと続ける方がよい。	60.6%	50.0%	59.5%	53.0%	57.9%	42.7%
子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい。	9.1%	11.3%	11.9%	18.0%	22.1%	28.7%
子どもができるまでは職業を持つ方がよい。	3.0%	3.2%	3.6%	1.0%	2.8%	5.1%
結婚するまでは職業を持つ方がよい。	3.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.7%	4.5%
女性は職業を持たない方がよい。	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
その他	12.1%	11.3%	13.1%	13.0%	5.5%	2.5%
わからない	9.1%	17.7%	9.5%	8.0%	6.9%	7.6%
無回答	3.0%	6.5%	2.4%	3.0%	4.1%	8.6%

3. 仕事と家庭の両立、女性活躍推進について

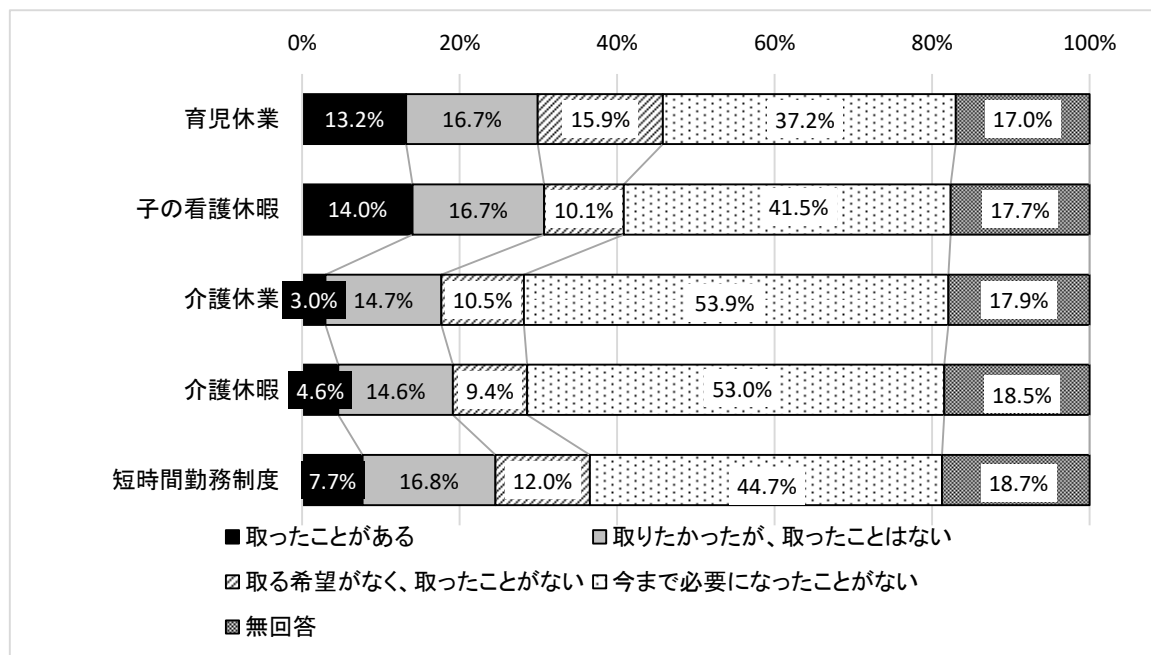
3-2 育児休業制度など職場の各種制度の利用度

〔調査票／問15〕 あなたは、職場で以下のような制度を使って休暇等を取ったことがありますか。

【回答結果】

- 全ての項目で「今まで必要とならなかったことがない」の割合が最も高くなっています。「取ったことがある」の割合が高い項目は、「子の看護休暇」が14.0%、「育児休業」が13.2%となっています。
- 性別で比較すると、「女性」の方が「子の看護休暇」、「育児休業」を「取ったことがある」が高くなっています。

【問15：全体集計 SA/N=742】



【問15：前回調査との比較】

選択項目	育児休業		子の看護休暇		介護休業		介護休暇	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
取ったことがある	13.2%	10.0%	14.0%	12.1%	3.0%	1.6%	4.6%	2.9%
取りたかったが、取ったことはない	16.7%	12.1%	16.7%	11.0%	14.7%	8.4%	14.6%	9.2%
取る希望がなく、取ったことがない	15.9%	10.8%	10.1%	7.1%	10.5%	8.6%	9.4%	6.3%
今まで必要にならなかったことがない	37.2%	28.6%	41.5%	30.4%	53.9%	45.4%	53.0%	43.6%
無回答	17.0%	38.6%	17.7%	39.4%	17.9%	38.1%	18.5%	38.1%

【問15：クロス集計（性別）】

選択項目	育児休業		子の看護休暇		介護休業		介護休暇		短時間勤務制度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
取ったことがある	2.8%	21.7%	8.9%	18.2%	1.8%	3.9%	3.1%	5.9%	2.5%	11.8%
取りたかったが、取ったことはない	12.9%	19.5%	12.3%	20.2%	12.9%	15.8%	13.5%	14.8%	13.5%	19.2%
取る希望がなく、取ったことがない	25.5%	8.1%	14.5%	6.4%	14.2%	7.4%	12.9%	6.9%	15.4%	8.9%
今まで必要にならなかったことがない	42.5%	33.5%	47.1%	37.4%	53.8%	54.7%	53.2%	53.2%	50.2%	41.4%
無回答	16.3%	17.2%	17.2%	17.7%	17.2%	18.2%	17.2%	19.2%	18.5%	18.7%

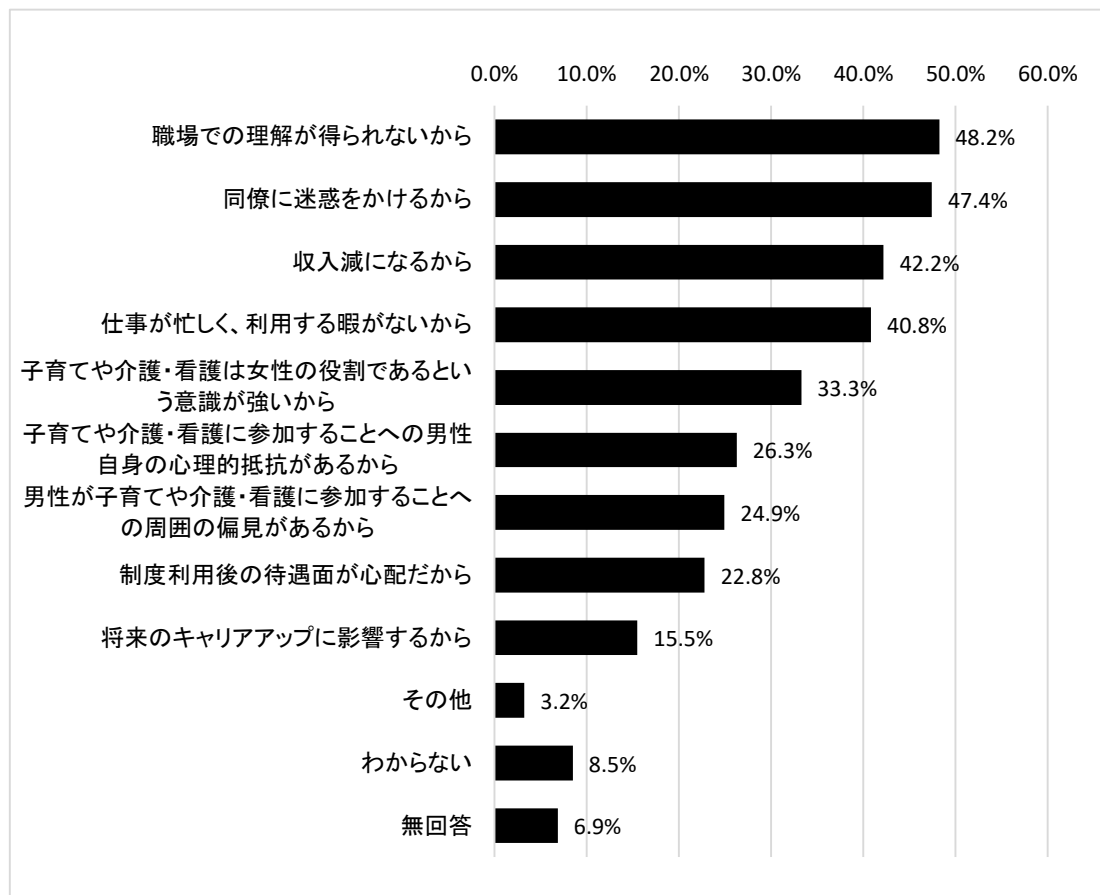
3-3 男性の職場の各種制度の利用が少ない理由

〔調査票／問16〕 問15の制度は、男女とも利用できるようになっていますが、男性の利用者は少ないのが現状です。その理由は何だと思えますか。

【回答結果】

- 「職場の理解が得られないから」が48.2%と最も高く、次いで「同僚に迷惑をかけるから」が47.4%、「収入減になるから」が42.2%となっています。

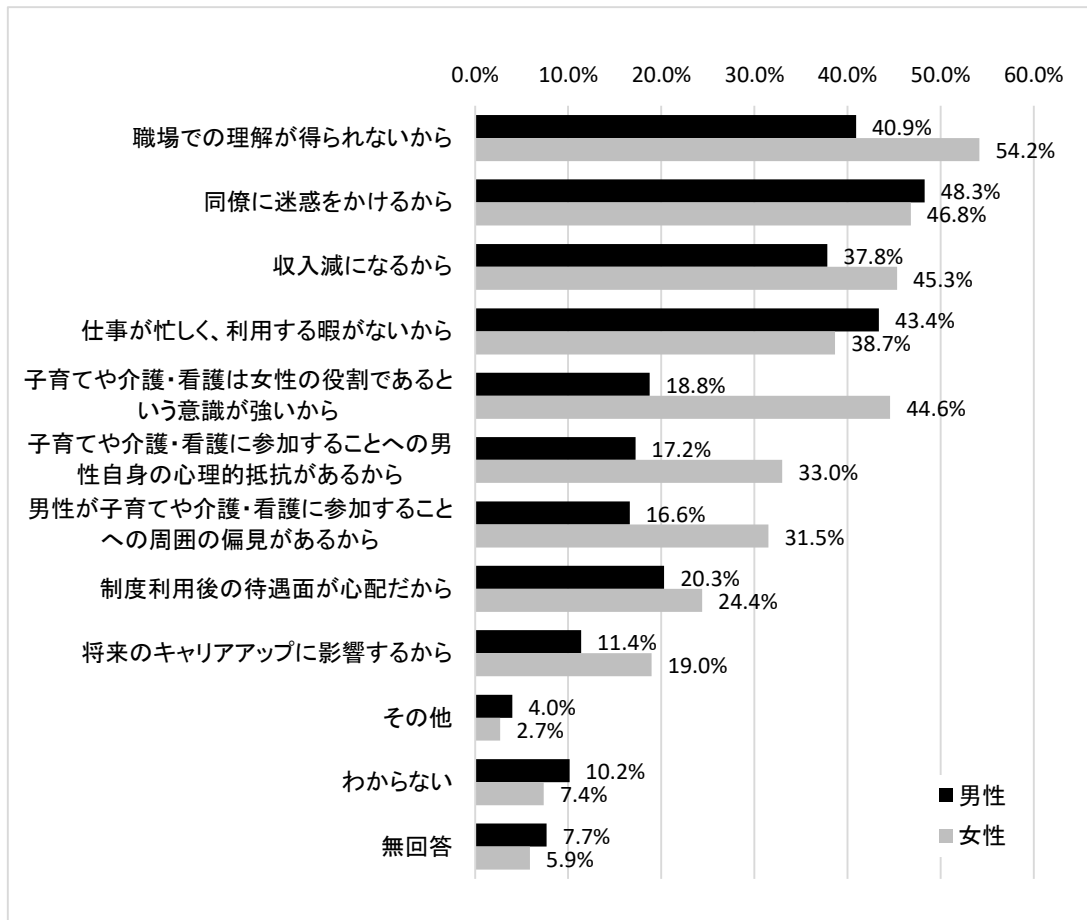
【問16：全体集計 MA/N=742】



【回答結果】

- 性別で比較すると、「子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識が強いから」、「子育てや介護・看護に参加することへの男性自身の心理的抵抗があるから」「男性が子育てや介護・看護に参加することへの周囲の偏見があるから」が「女性」の方が高くなっています。

【問16：クロス集計（性別）】



3. 仕事と家庭の両立、女性活躍推進について

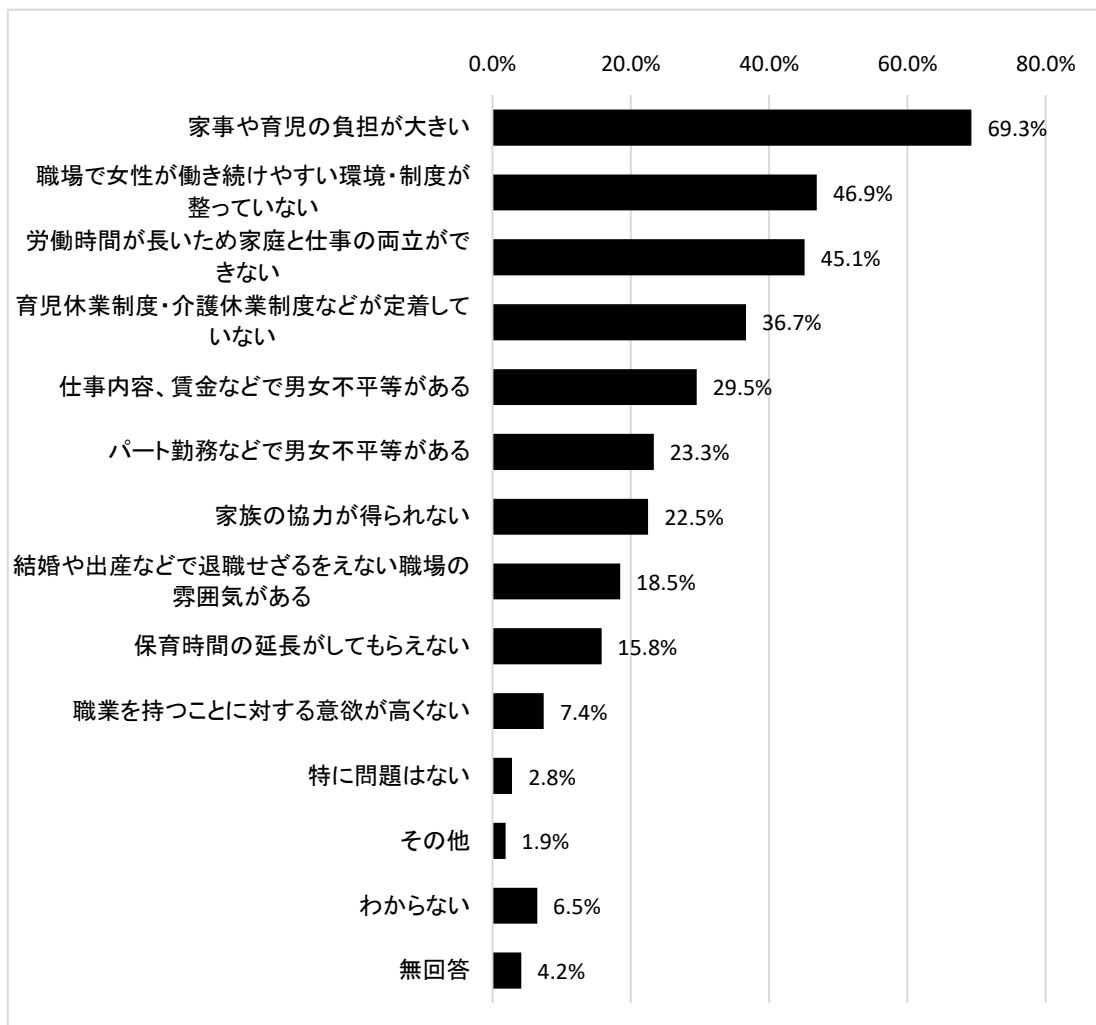
3-4 女性が働き続けることを困難にしていること

〔調査票／問17〕 あなたは、女性が働き続けることを困難にしているのは、どのような事だと思えますか。

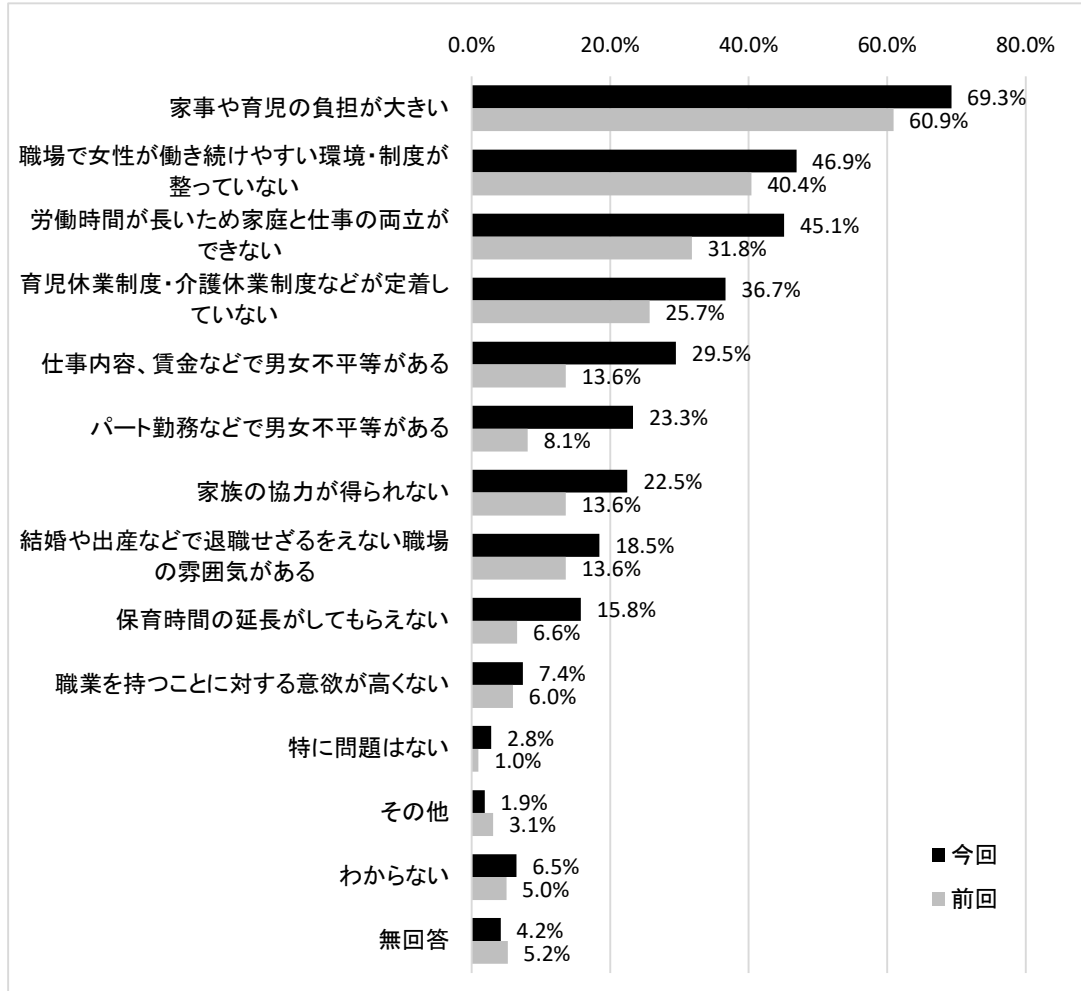
【回答結果】

- 「家事や育児の負担が大きい」が69.3%と最も高く、次いで「職場で女性が働き続けやすい環境・制度が整っていない」が46.9%、「労働時間が長いと家庭と仕事の両立ができない」が45.1%となっています。

【問17：全体集計 MA/N=742】



【問17：前回調査との比較】

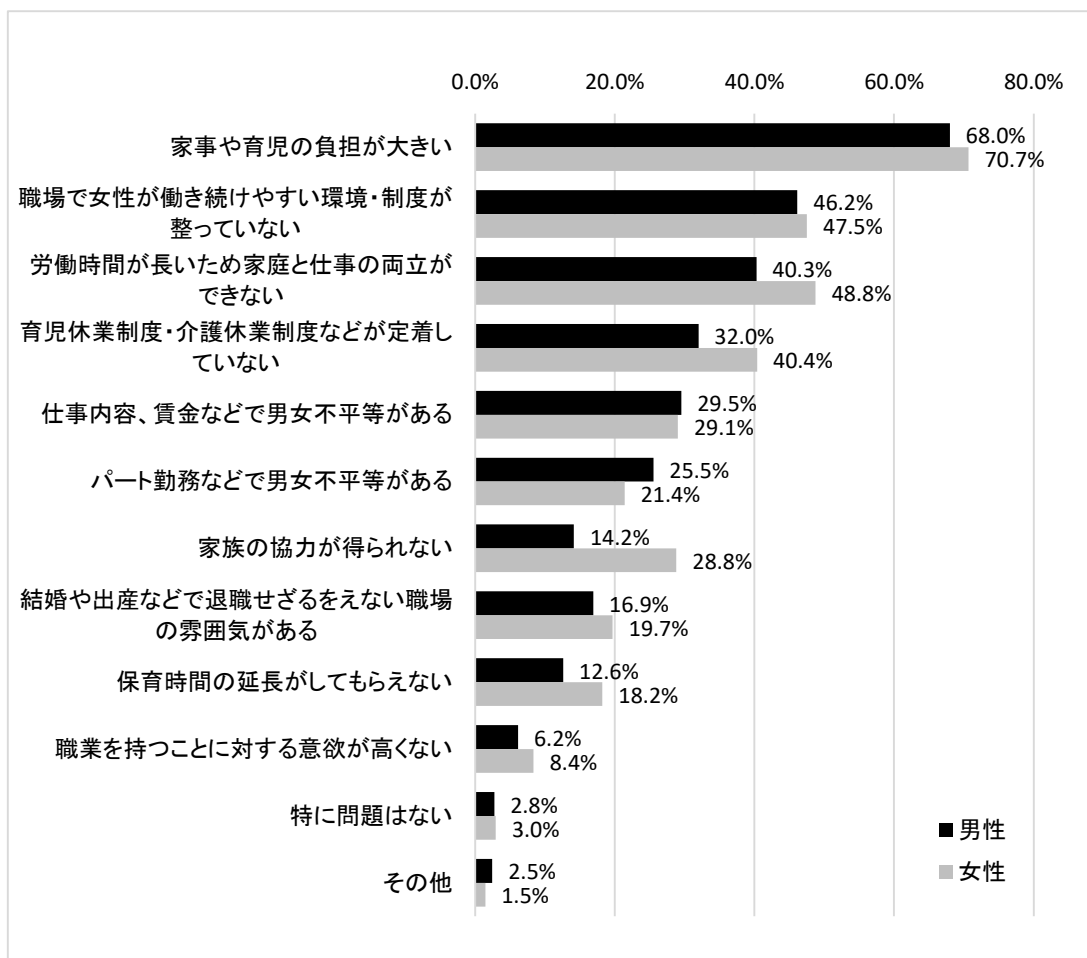


3. 仕事と家庭の両立、女性活躍推進について

【回答結果】

- 性別で比較すると、「労働時間が長いいため家庭と仕事の両立ができない」、「育児休業制度・介護休業制度などが定着していない」、「家族の協力が得られない」で「女性」の方が高くなっています。

【問17：クロス集計（性別）】



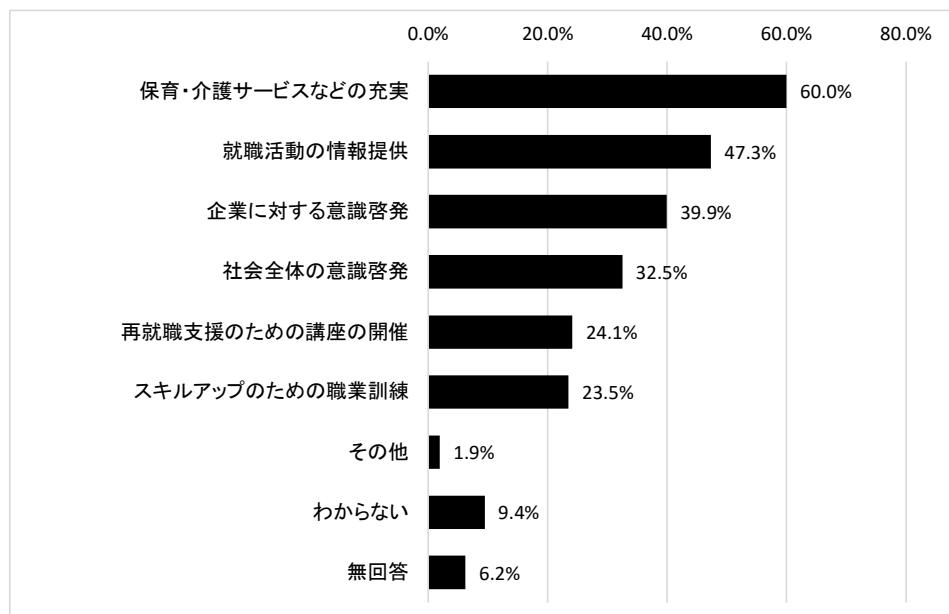
3-5 女性の再就職にあたって必要なこと

〔調査票／問18〕 一般的に、育児や介護などにより、一時離職した女性の再就職にあたって、あなたはどのような事が必要だと思いますか。

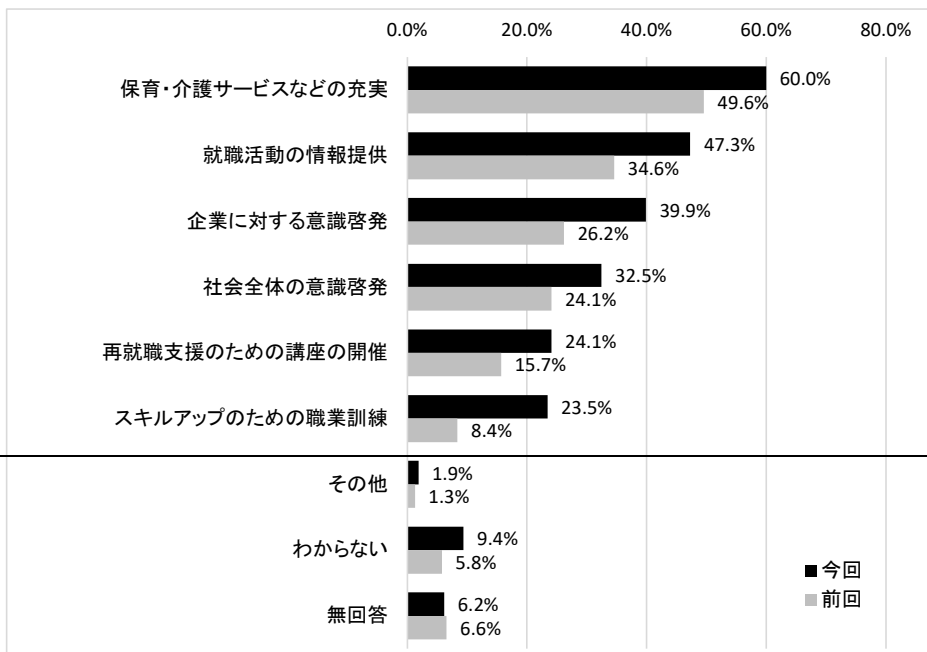
【回答結果】

- 「保育・介護サービスの充実」が60.0%で最も高く、次いで、「就職活動の情報提供」が47.3%、「企業に対する意識啓発」が39.9%となっています。

【問18：全体集計 MA/N=742】



【問18：前回調査との比較】

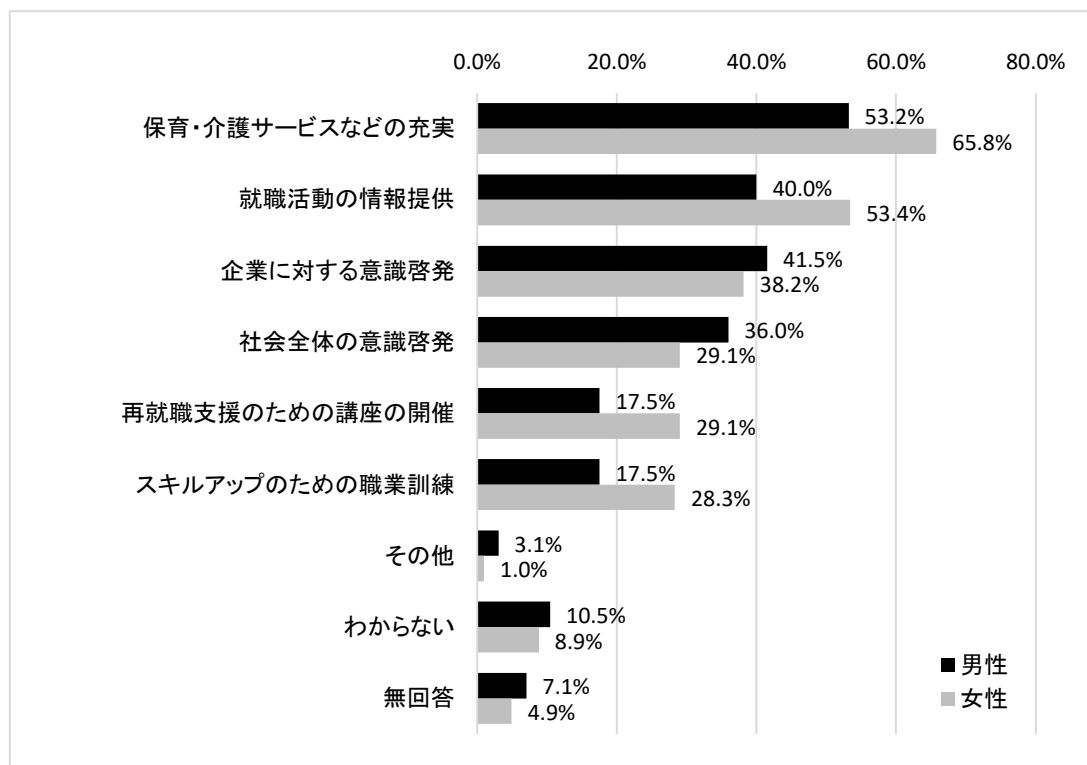


3. 仕事と家庭の両立、女性活躍推進について

【回答結果】

- 性別で比較すると、「保育・介護サービスなどの充実」、「就職活動の情報提供」は「女性」の方が高くなっています。「企業に対する意識啓発」、「社会全体の意識啓発」は「男性」の方が高くなっています。

【問18：クロス集計（性別）】



3. 仕事と家庭の両立、女性活躍推進について

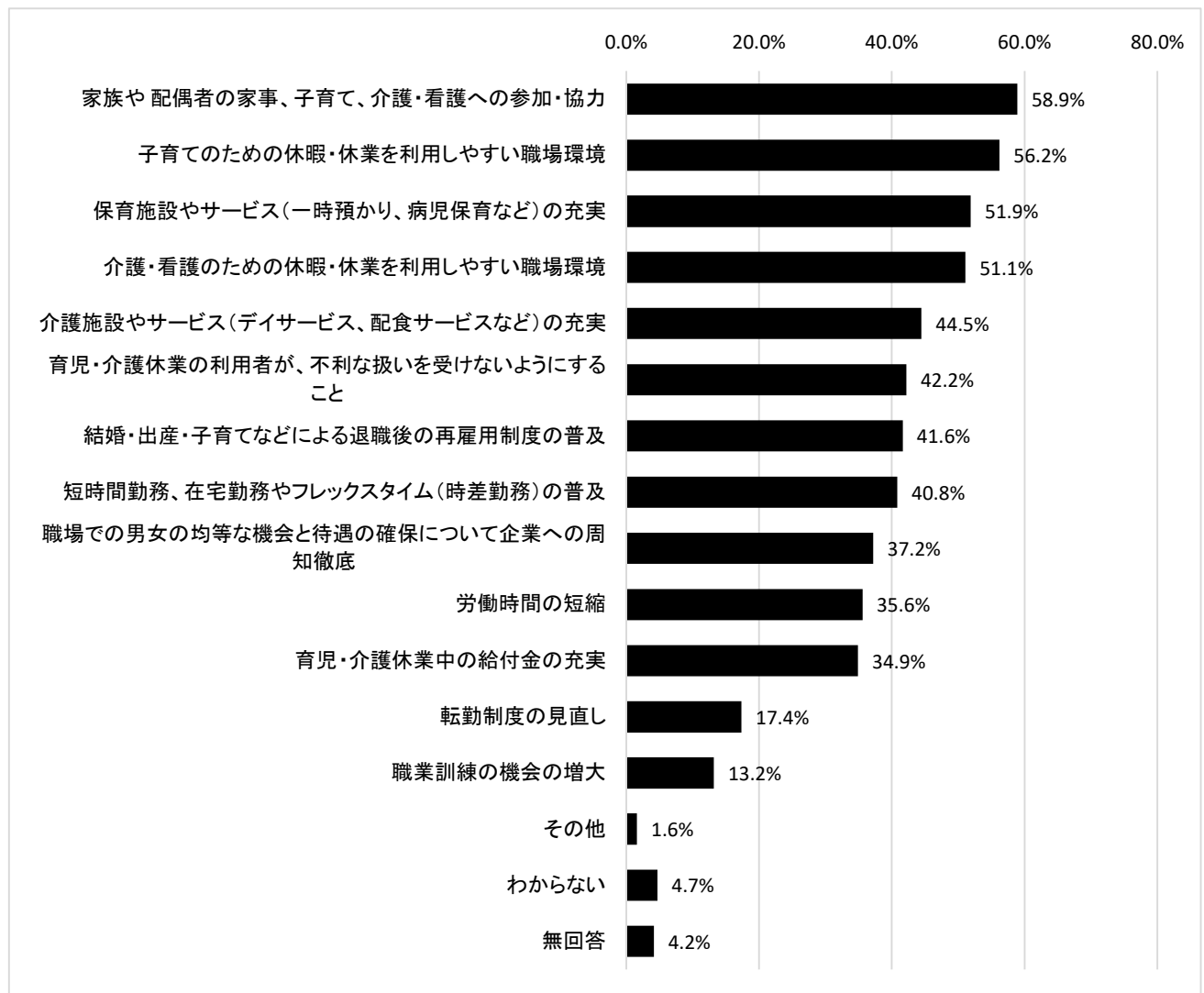
3-6 仕事と家庭を両立していくために必要なこと

〔調査票／問19〕 男女が共に、仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【回答結果】

- 「家族や配偶者の家事、子育て、介護・看護への参加・協力」が58.9%と最も多く、次いで「子育てのための休暇・休業を利用しやすい職場環境」が56.2%、「保育施設やサービスの充実」が51.9%、「介護・看護のための休暇・休業を利用しやすい職場環境」が51.1%となっています。

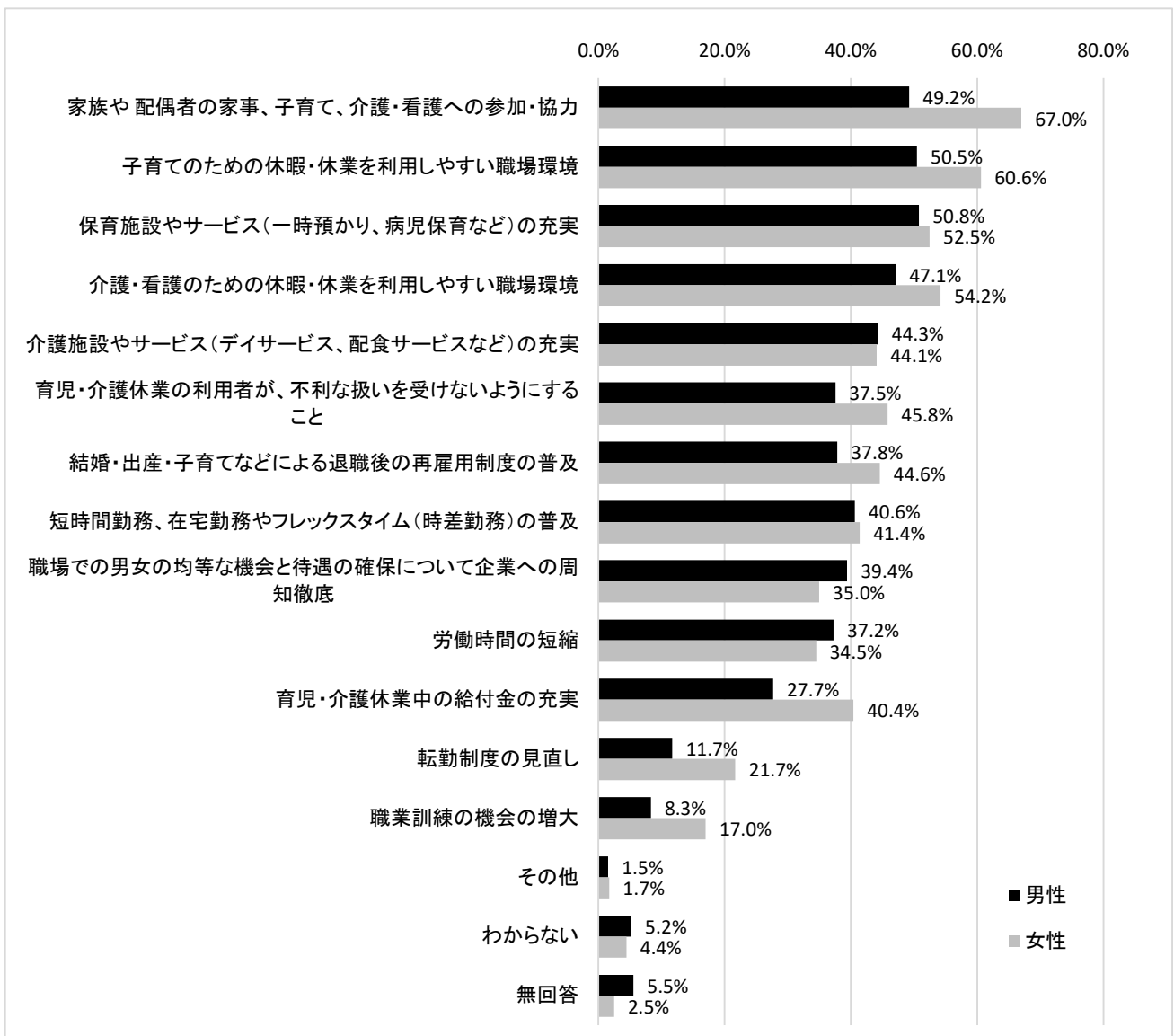
【問19：全体集計 MA/N=742】



【回答結果】

- 性別で比較すると、ほとんどの項目で「女性」の回答が上回っていますが、特に「男性」と比較して高い項目は、「家族や 配偶者の家事、子育て、介護・看護への参加・協力」、「子育てのための休暇・休業を利用しやすい職場環境」「育児・介護休業中の給付金の充実」となっています。

【問19：クロス集計（性別）】



4. 地域活動における男女共同参画について

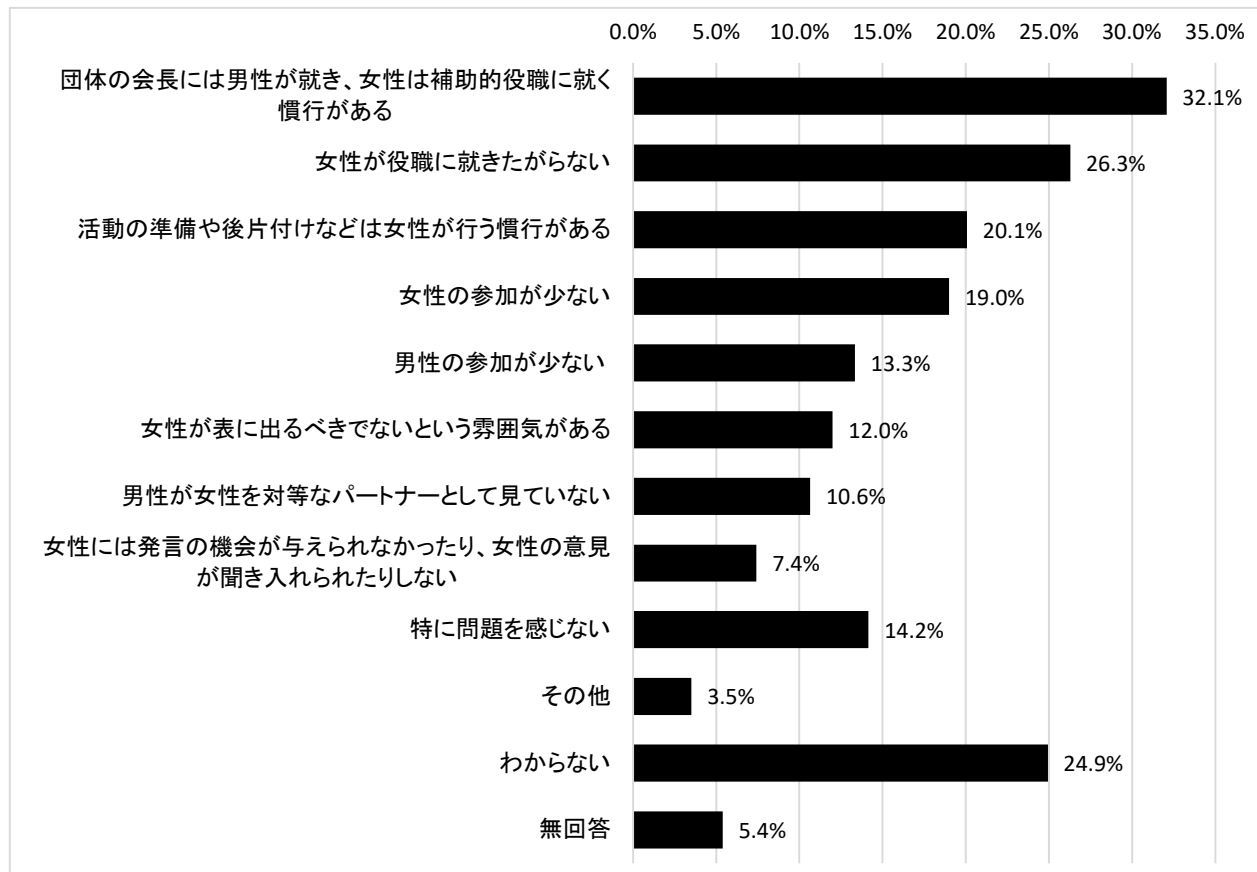
4-1 地域活動における男女共同参画の現状

〔調査票/問20〕 町内会、ボランティアなどの地域活動での男女共同参画についてどのように思いますか。

【回答結果】

- 「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が32.1%と最も高く、次いで「女性が役職に就きたがらない」が26.3%、「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」が20.1%となっています。また、「わからない」も24.9%となっています。

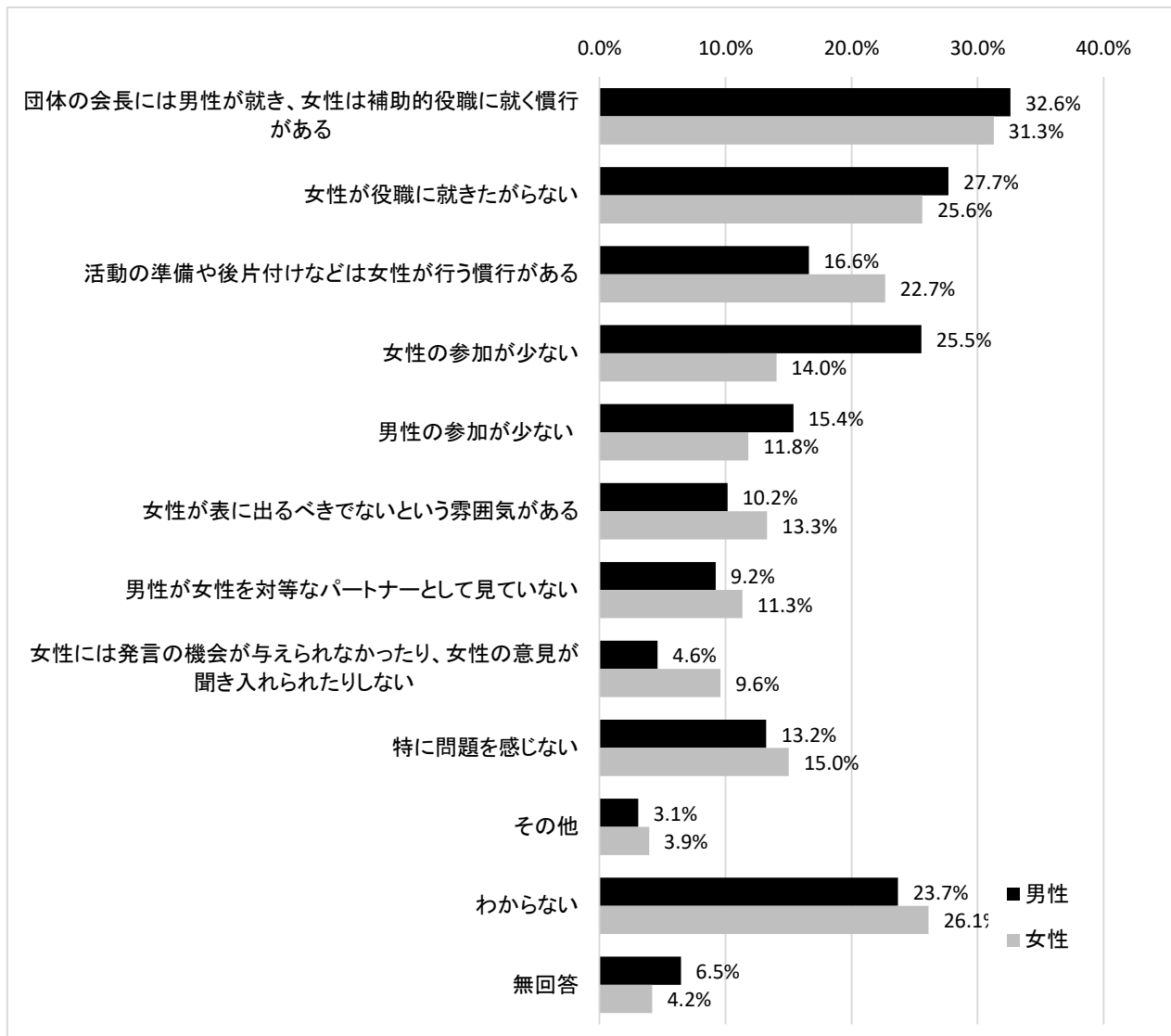
【問20：全体集計 MA/N=742】



【回答結果】

- 性別で比較すると、「男性」が高い項目は「女性の参加が少ない」となっています。「女性」が高い項目は「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」となっています。

【問20：クロス集計（性別）】



4. 地域活動における男女共同参画について

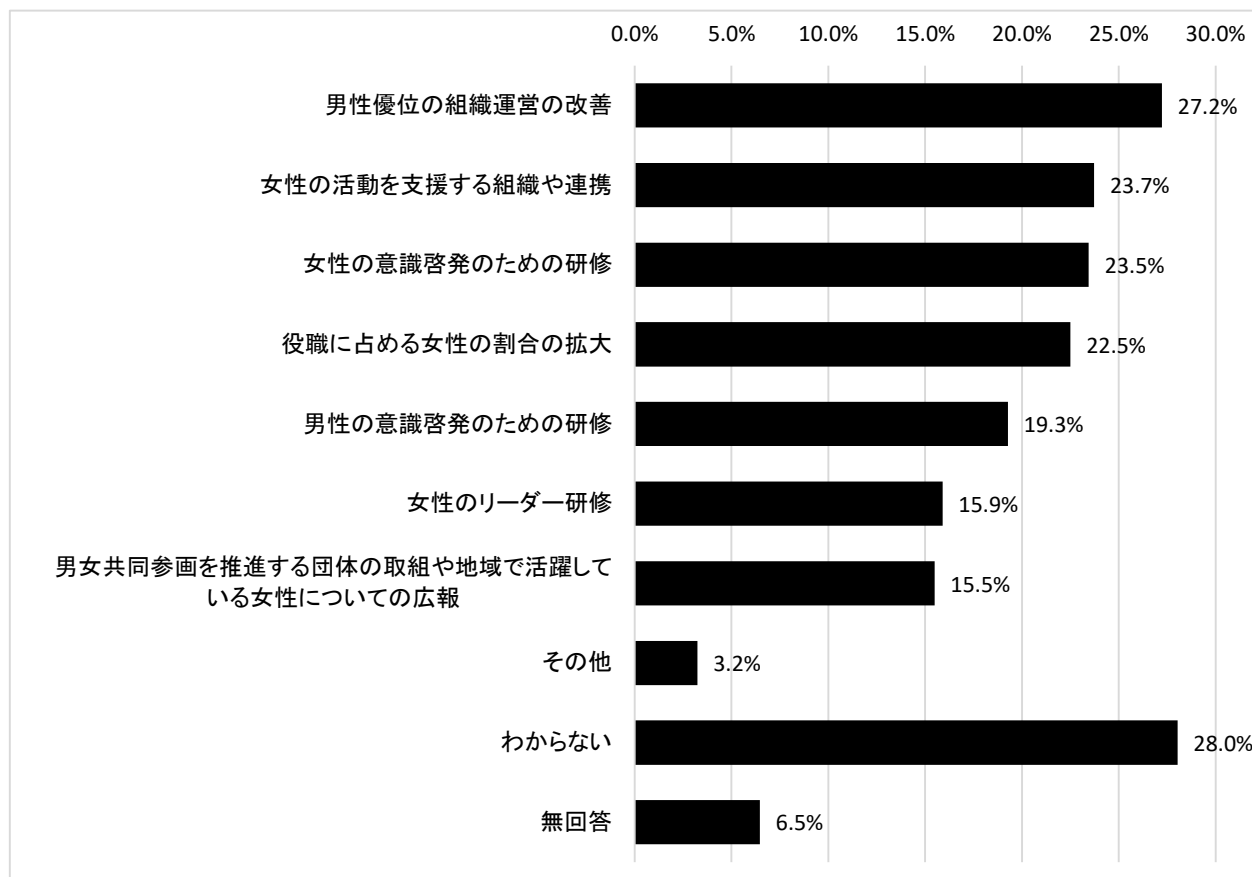
4-2 地域活動における女性参画を増やすために効果的な施策

〔調査票／問21〕 地域活動において、町内会長や役員など方針を決定する立場の女性が少ない現状があります。このような立場の女性を増やすために具体的な施策としてどのようなことが効果的だと思いますか。

【回答結果】

- 「男性優位の組織運営の改善」が27.2%で最も高く、次いで「女性の活動を支援する組織や連携」が23.7%、「女性の意識啓発のための研修」が23.5%、「役職に占める女性の割合の拡大」が22.5%となっています。また、「わからない」も28.0%と高くなっています。

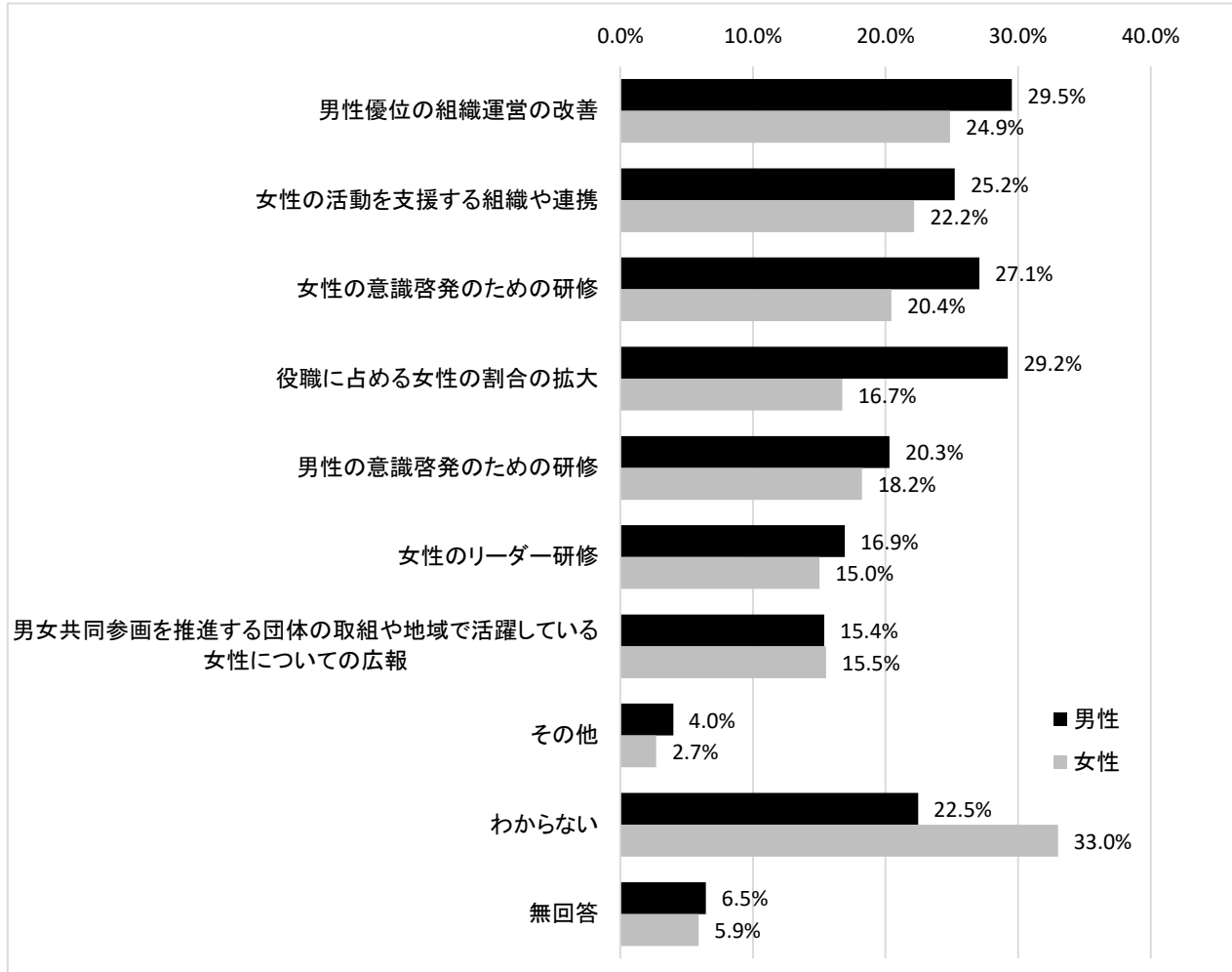
【問21：全体集計 MA/N=742】



【回答結果】

- 性別で比較すると、ほとんどの項目で「男性」の回答が上回っており、「女性」は「わからない」が高くなっています。特に、「男性」の回答が高くなっている項目は「役職に占める女性の割合の拡大」となっています。

【問21：クロス集計（性別）】



4. 地域活動における男女共同参画について

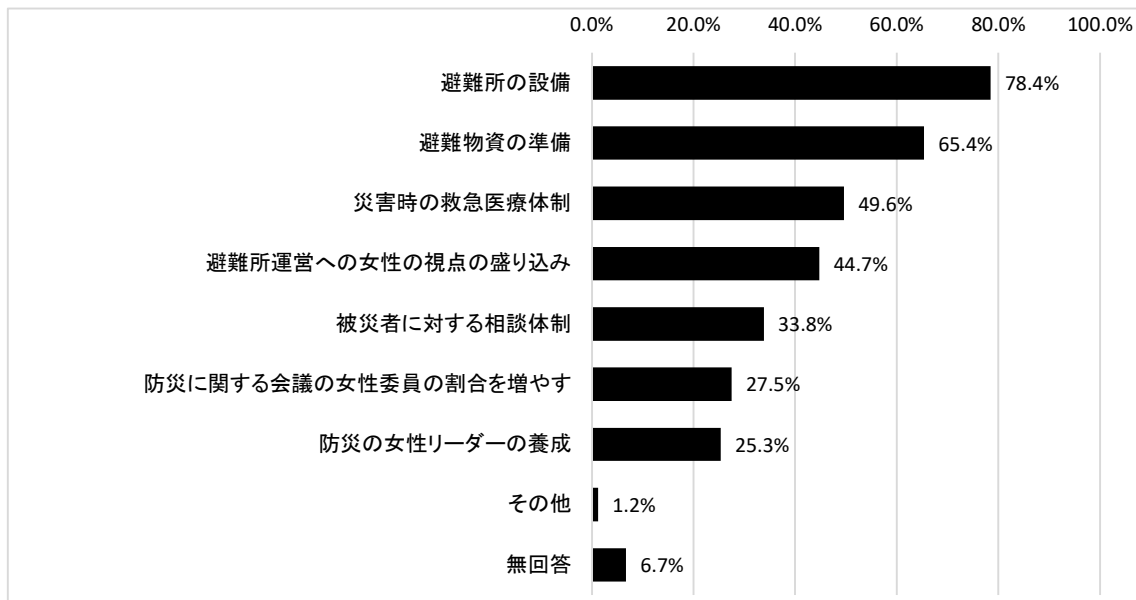
4-3 防災・災害復興対策における性別に配慮すべきこと

〔調査票／問22〕 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。

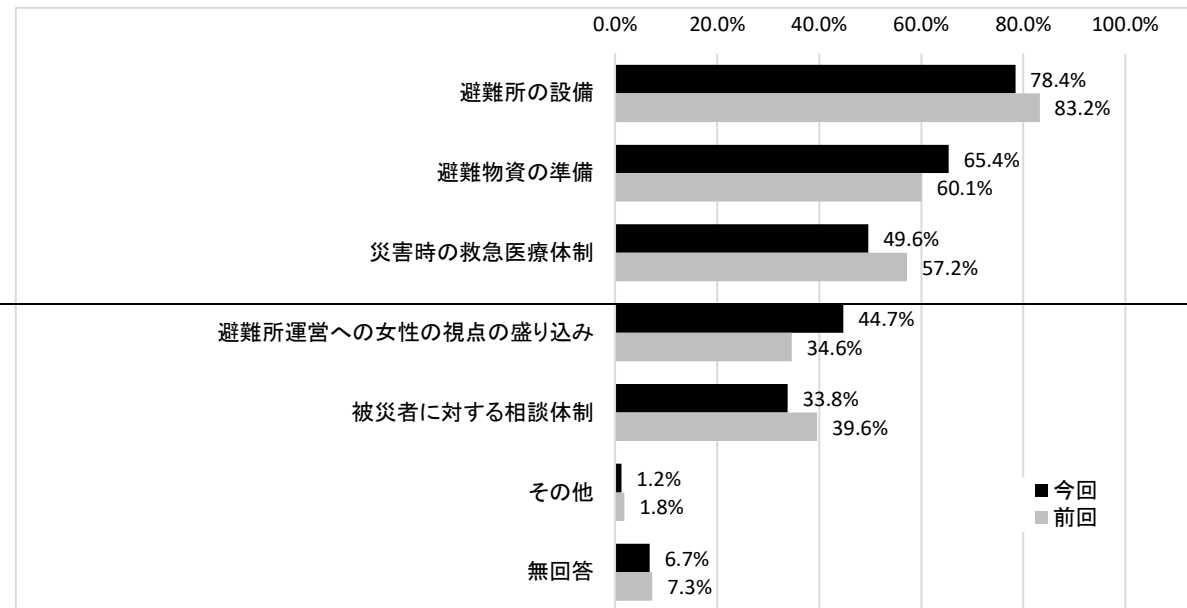
【回答結果】

- 「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）」が78.1%と最も高く、次いで「避難物資の準備（おむつや女性用品などの備蓄）」が65.4%、「災害時の救急医療体制」が49.6%となっています。
- 前回調査と比較すると、「避難物資の準備」、「避難所運営への女性の視点の盛り込み」は前回調査と比べ高くなっています。

【問22：全体集計 MA/N=742】



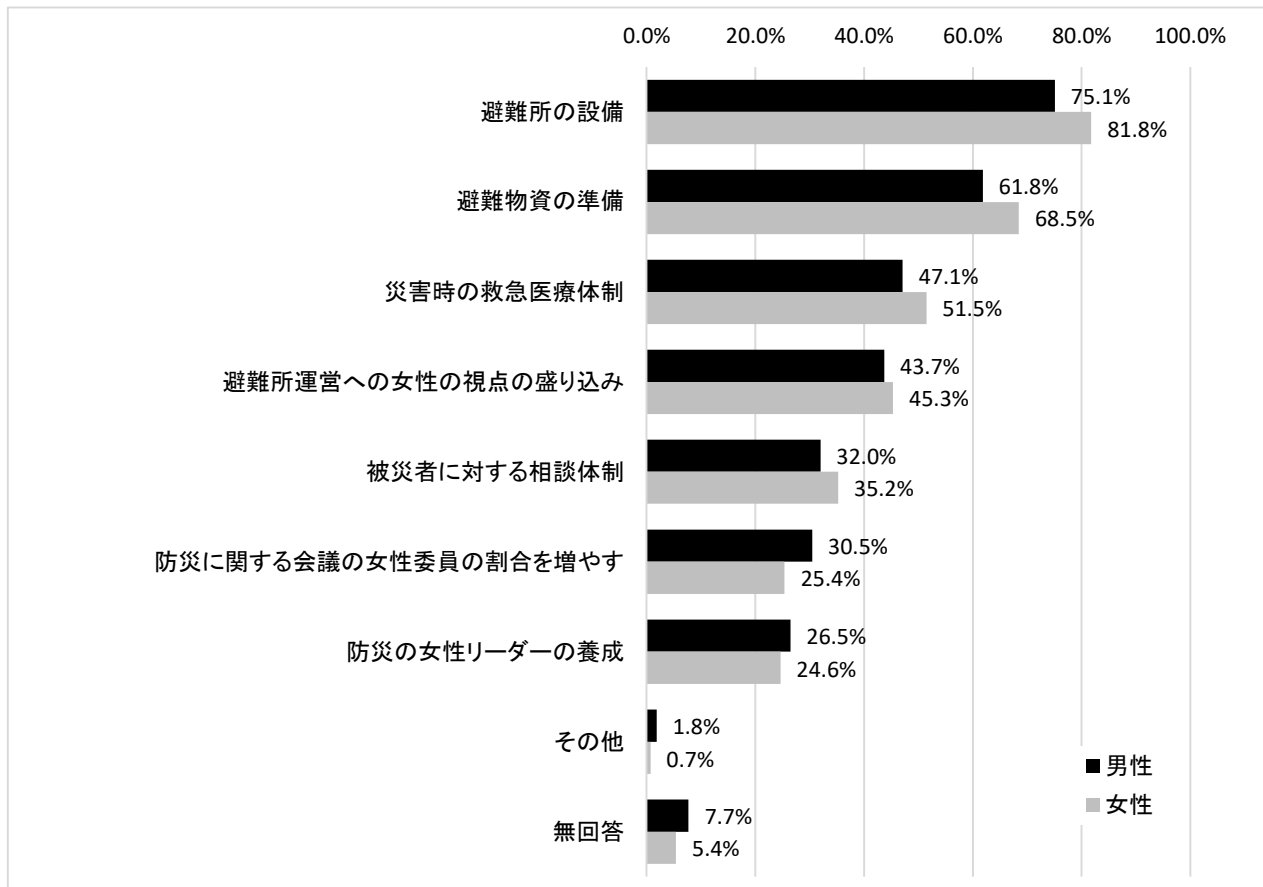
【問22：前回調査との比較 ※該当項目のみ】



【回答結果】

- 性別で比較すると、ほとんどの項目で「女性」が高くなっています。「防災に関する会議の女性委員の割合を増やす」「防災の女性リーダーの養成」については、「男性」が高くなっています。

【問22：クロス集計（性別）】



5. 男女間における暴力の防止・被害者支援について

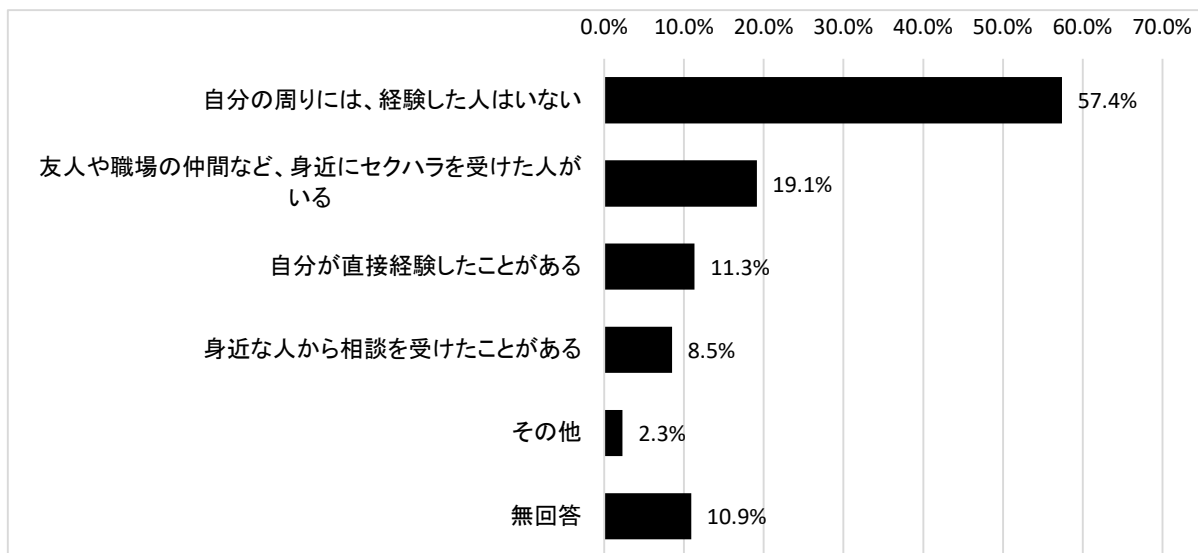
5-1 職場、地域、学校などでのセクハラ経験について

〔調査票／問23〕 あなたは、職場、地域、学校などでセクハラを経験したり、身近で見聞きたことがありますか。

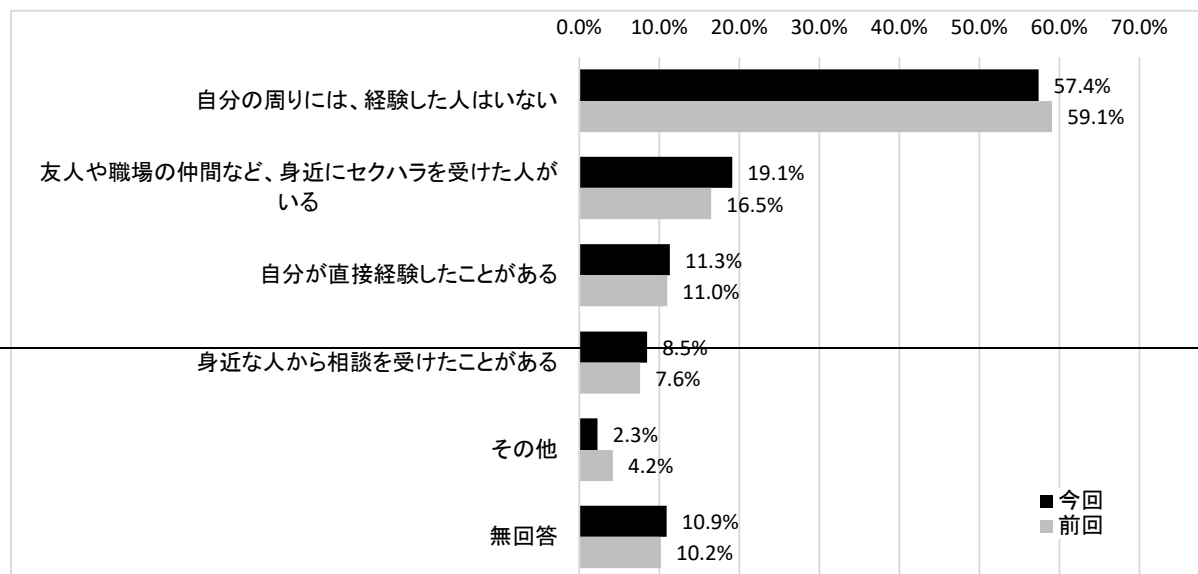
【回答結果】

- 「自分の周りには、経験した人がいない」が57.4%と最も高く、次いで「友人や職場の仲間など、身近にセクハラを受けた人がいる」が19.1%となっています。「自分が直接経験したことがある」は11.3%となっています。

【問23：全体集計 MA/N=742】



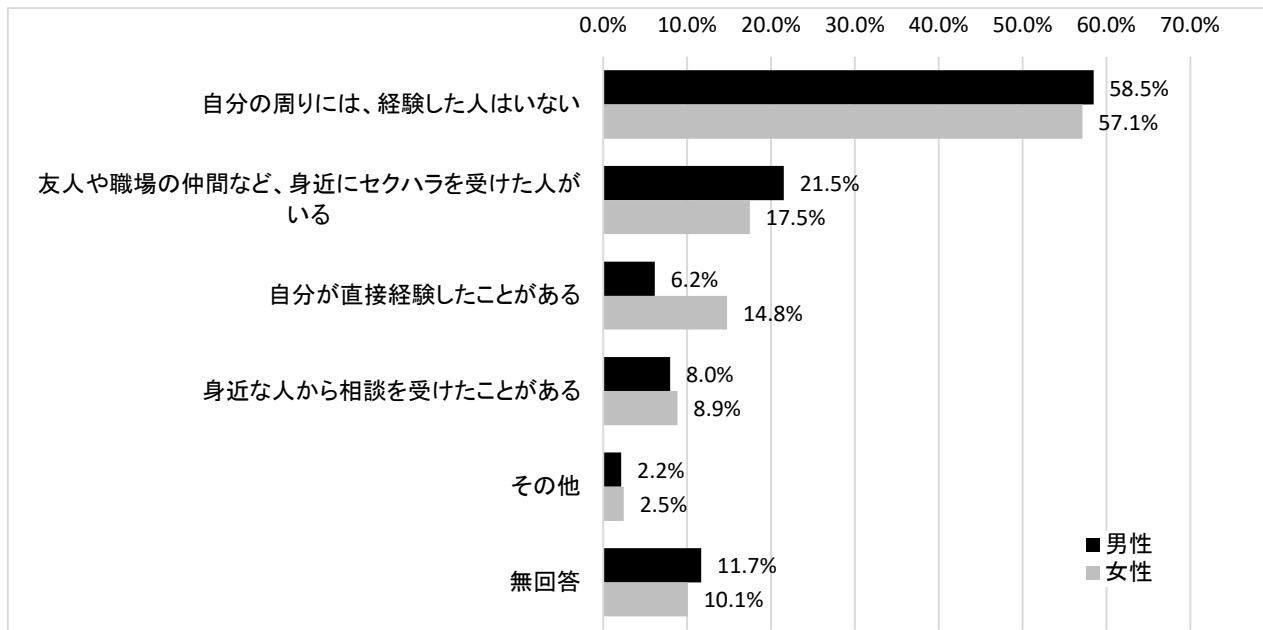
【問23：前回調査との比較】



【回答結果】

- 性別で比較すると、「友人や職場の仲間など、身近にセクハラを受けた人がある」は「男性」の方が高くなっています。「自分が直接経験したことがある」は「女性」の方が高くなっています。

【問23：クロス集計（性別）】



5. 男女間における暴力の防止・被害者支援について

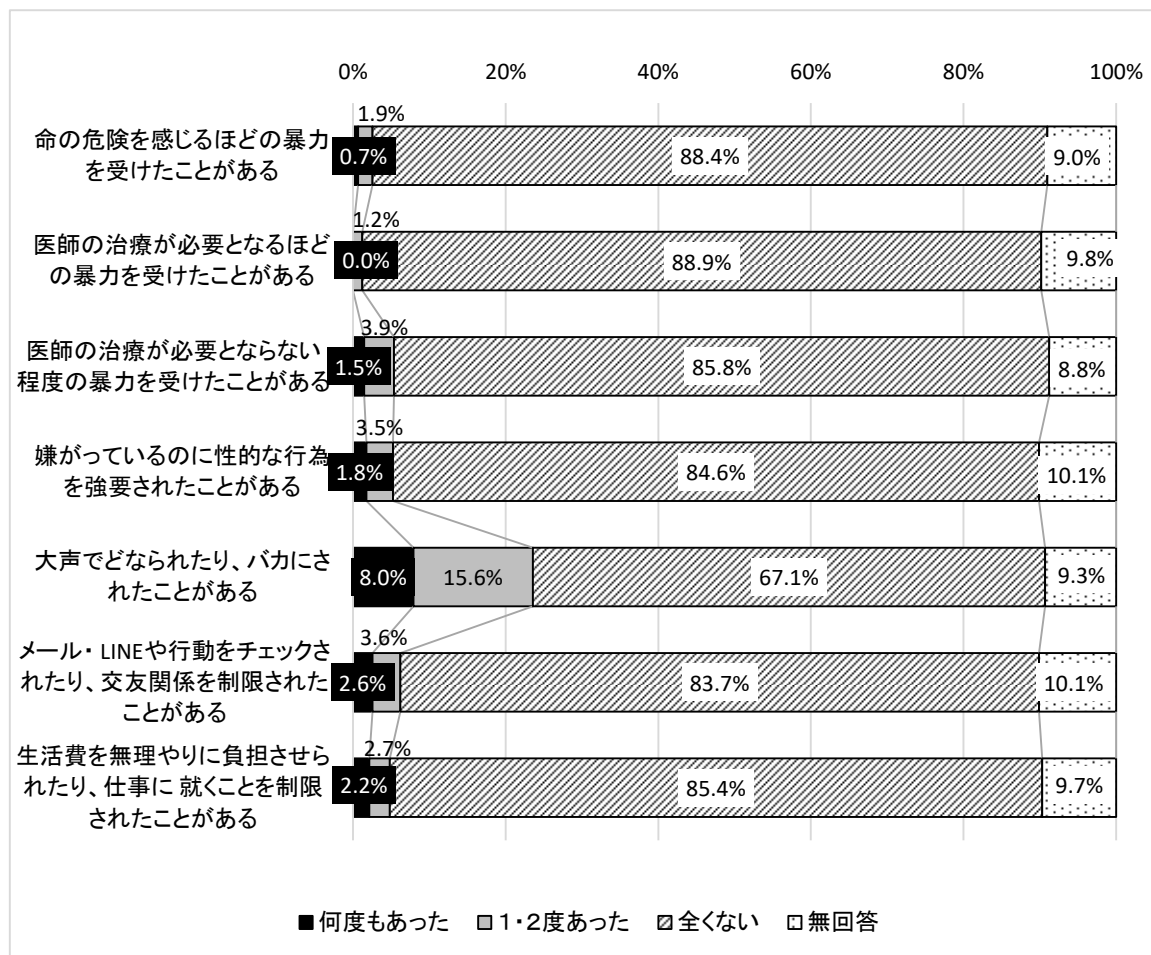
5-2 男女間における暴力の経験

〔調査票／問24〕 あなたは、これまでに配偶者(事実婚や別居中を含む)や恋人関係にある相手から、次のようなことをされたことがありますか。

【回答結果】

- 「何度もあった」、「1、2度あった」をあわせた割合が高い項目は、「大声で怒鳴られたことがある」が23.6%、「メール・LINEや行動をチェックされたり、交友関係を制限されたことがある」が6.2%となっています。

【問24：全体集計 MA/N=742】



5. 男女間における暴力の防止・被害者支援について

【回答結果】

- 性別で比較すると、「女性」の方が「医師の治療が必要とならない程度の暴力を受けたことがある」「嫌がっているのに性的な行為を強要されたことがある」の被害経験が高くなっています。

【問24：前回調査との比較】

選択項目	命の危険を感じるほどの暴力を受けたことがある		医師の治療が必要となるほどの暴力を受けたことがある		医師の治療が必要とならない程度の暴力を受けたことがある	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回
何度もあった	0.7%	0.8%	0.0%	0.5%	1.5%	1.0%
1・2度あった	1.9%	2.4%	1.2%	0.8%	3.9%	6.0%
全くない	88.4%	88.7%	88.9%	90.0%	85.8%	84.3%
無回答	9.0%	8.1%	9.8%	8.7%	8.8%	8.7%

選択項目	嫌がっているのに性的な行為を強要されたことがある		大声でどなられたり、バカにされたことがある		生活費を無理やりに負担させられたり、仕事に就くことを制限されたことがある	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回
何度もあった	1.8%	2.4%	8.0%	6.8%	2.2%	1.6%
1・2度あった	3.5%	5.5%	15.6%	19.7%	2.7%	8.4%
全くない	84.6%	82.2%	67.1%	64.8%	85.4%	8.6%
無回答	10.1%	10.0%	9.3%	8.7%	9.7%	45.4%

【問24：クロス集計（性別）】

選択項目	命の危険を感じるほどの暴力を受けたことがある		医師の治療が必要となるほどの暴力を受けたことがある		医師の治療が必要とならない程度の暴力を受けたことがある		嫌がっているのに性的な行為を強要されたことがある	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
何度もあった	0.3%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	0.3%	2.7%
1・2度あった	0.9%	2.7%	0.9%	1.5%	2.8%	4.9%	0.9%	5.2%
全くない	88.3%	89.2%	87.7%	90.4%	86.5%	86.0%	86.5%	84.2%
無回答	10.5%	7.4%	11.4%	8.1%	10.8%	6.7%	12.3%	7.9%

選択項目	大声でどなられたり、バカにされたことがある		メール・LINEや行動をチェックされたり、交友関係を制限されたことがある		生活費を無理やりに負担させられたり、仕事に就くことを制限されたことがある	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
何度もあった	4.6%	10.1%	1.5%	3.2%	1.5%	2.7%
1・2度あった	14.2%	16.5%	3.7%	3.7%	1.2%	3.7%
全くない	69.8%	66.3%	82.8%	85.0%	85.2%	86.2%
無回答	11.4%	7.1%	12.0%	8.1%	12.0%	7.4%

5. 男女間における暴力の防止・被害者支援について

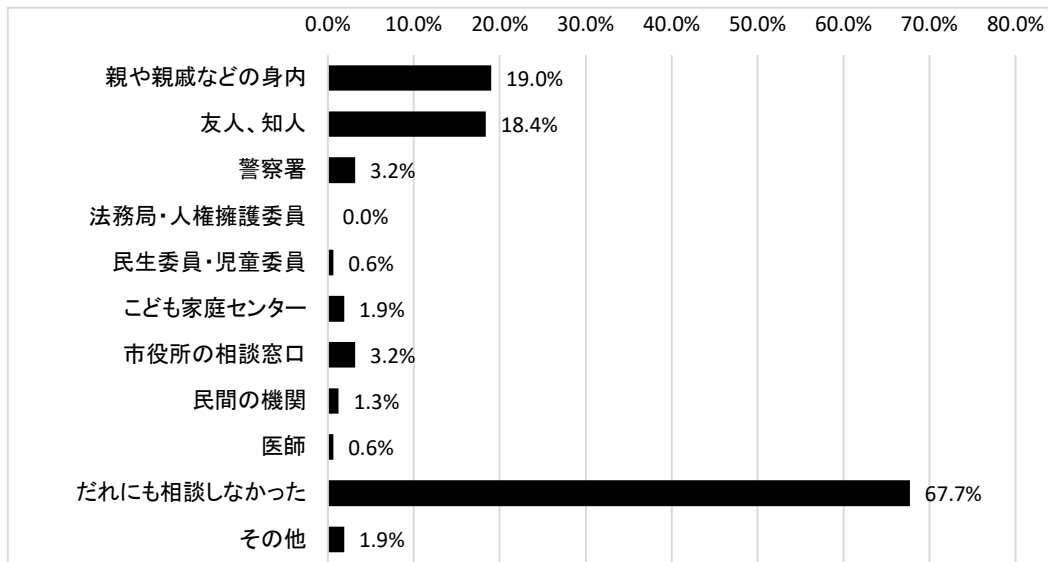
5-3 暴力体験があった人の対処（相談先） ※暴力体験があった人のみ回答

〔調査票／問24-1〕 そのような行為を受けた後、だれか(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。

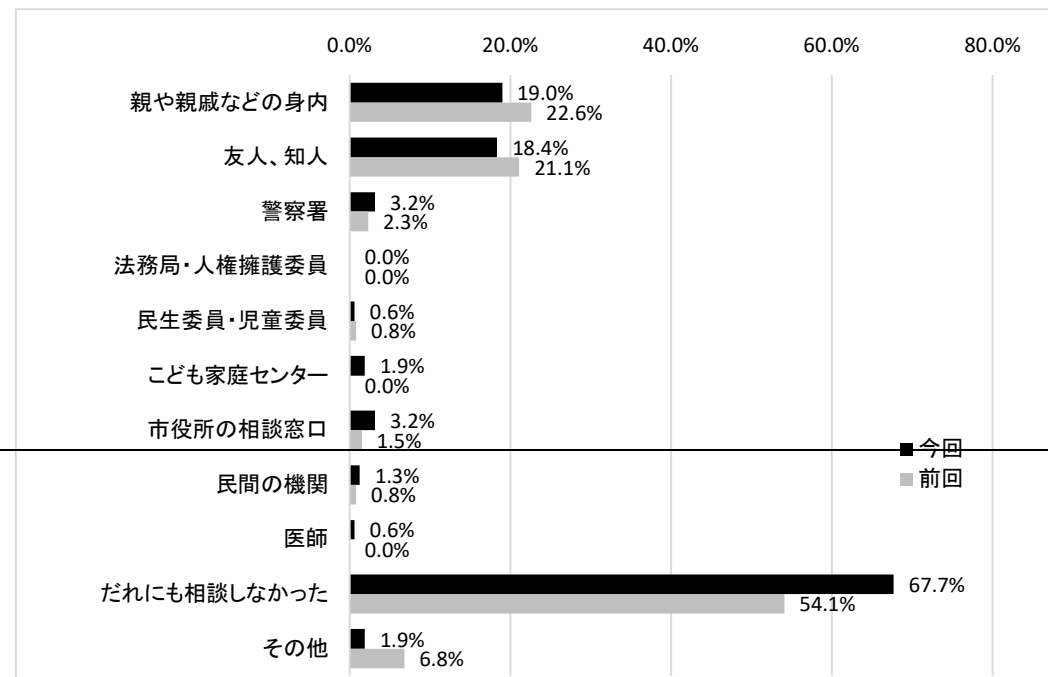
【回答結果】

- 「だれも相談しなかった」が67.7%と最も多く、暴力体験があった人の相談先は、「親や親戚などの身内」が19.0%、「友人、知人」が18.4%と高くなっています。
- 前回調査と比較すると、「だれも相談しなかった」は前回調査より高くなっています。

【問24-1：全体集計 MA/N=158】



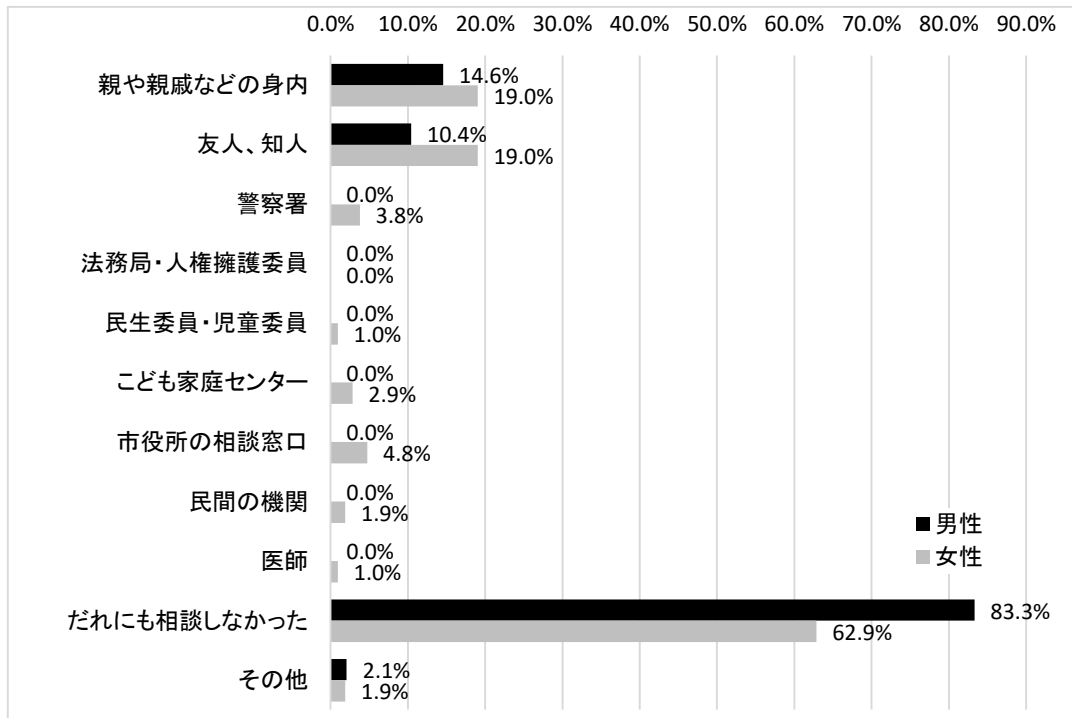
【問24：前回調査との比較】



【回答結果】

- 性別で比較すると、「女性」の方が各項目の回答が高くなっています。「男性」は「だれにも相談しなかった」が「女性」より高くなっています。

【問24：クロス集計（性別）】



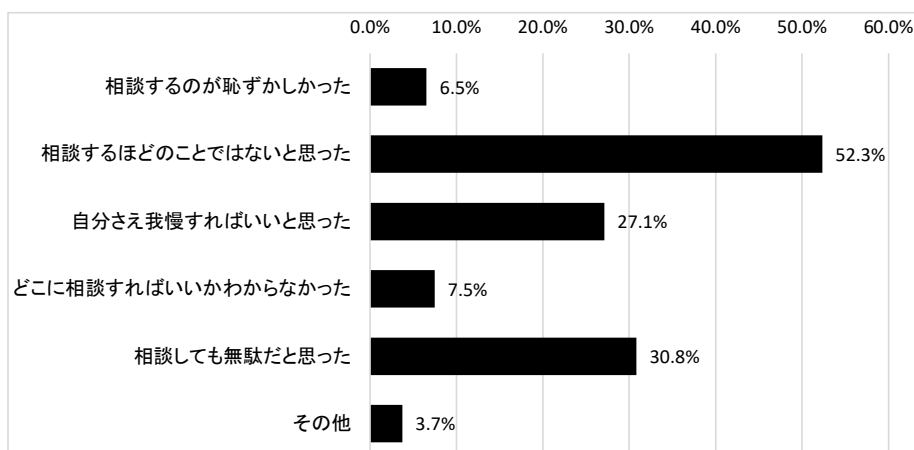
■ だれも相談しなかった理由

〔調査票／問24-2〕 だれにも相談しなかった理由は何ですか。

【回答結果】

- 「相談するほどのことではないと思った」が52.3%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」が30.8%、「自分さえ我慢すればいいと思った」が27.1%となっています。

【問24-1：全体集計 MA/N=107】



5. 男女間における暴力の防止・被害者支援について

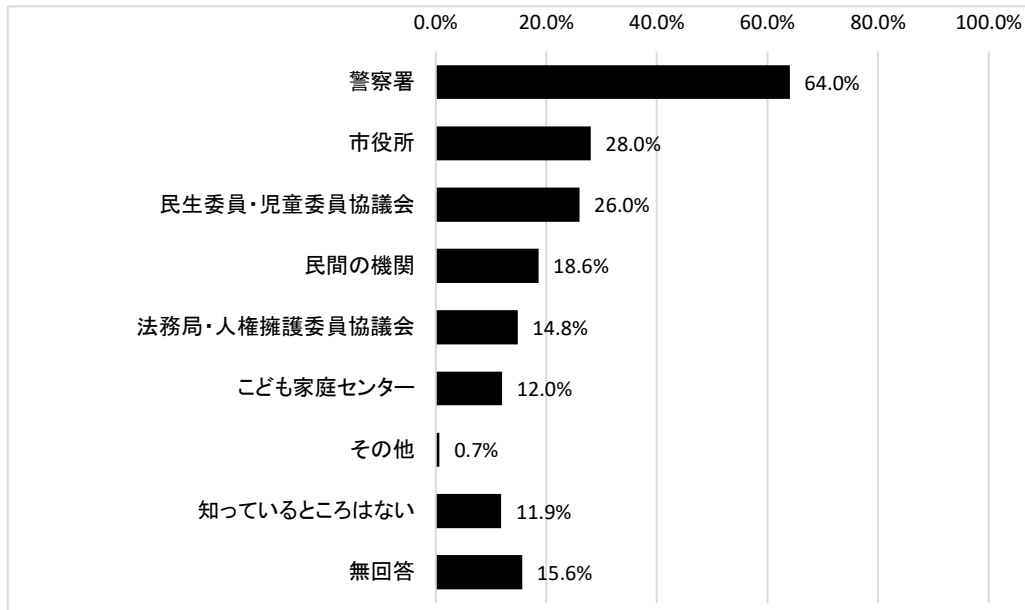
5-4 DVに関する相談窓口の認知度

〔調査票／問25〕 あなたは、DVについて相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。

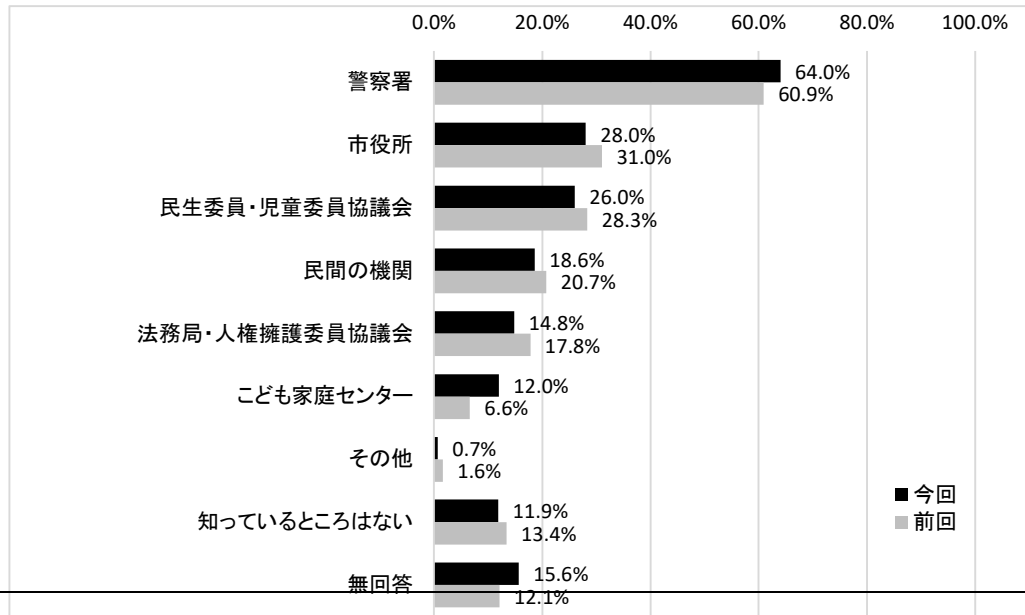
【回答結果】

- 「警察署」が64.0%と最も高く、次いで「市役所」が28.0%、「民生委員・児童委員協議会」が26.0%となっています。

【問25：全体集計 MA/N=742】



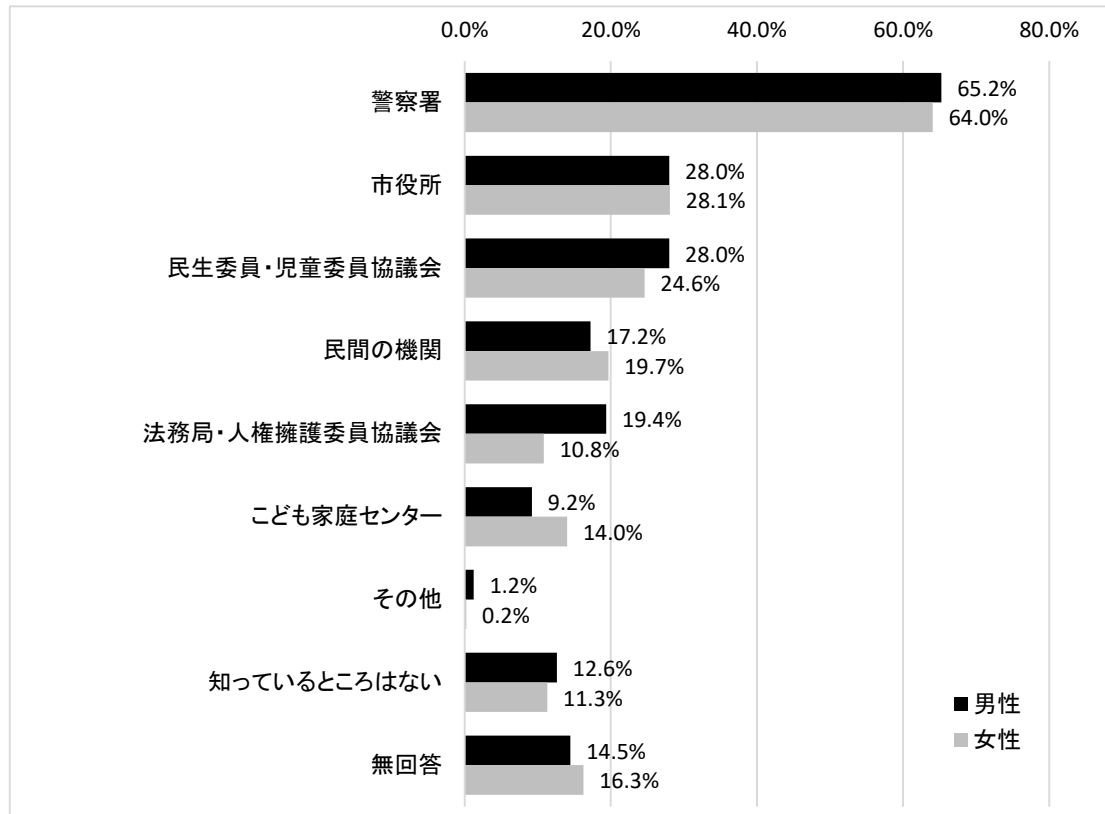
【問25：前回調査との比較】



【回答結果】

- 性別で比較すると、ほぼ同様の傾向となっていますが、「こども家庭センター」は「女性」の方が高くなっています。

【問25：クロス集計（性別）】



5. 男女間における暴力の防止・被害者支援について

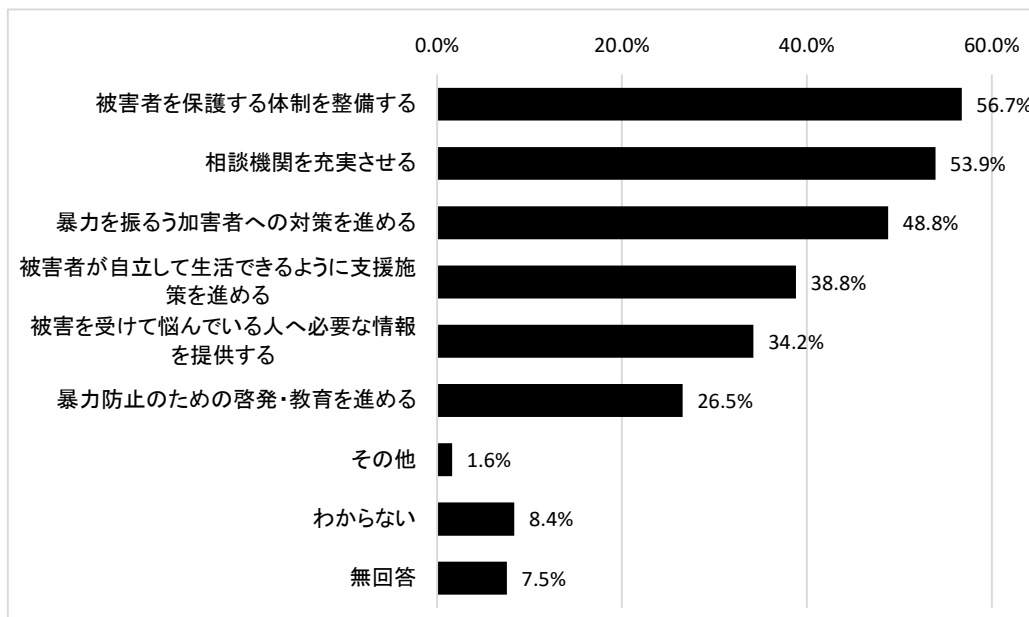
5-5 DV防止に必要な取組

〔調査票／問26〕 あなたは、DVを防ぐために、どのような取組が必要だと思いますか。

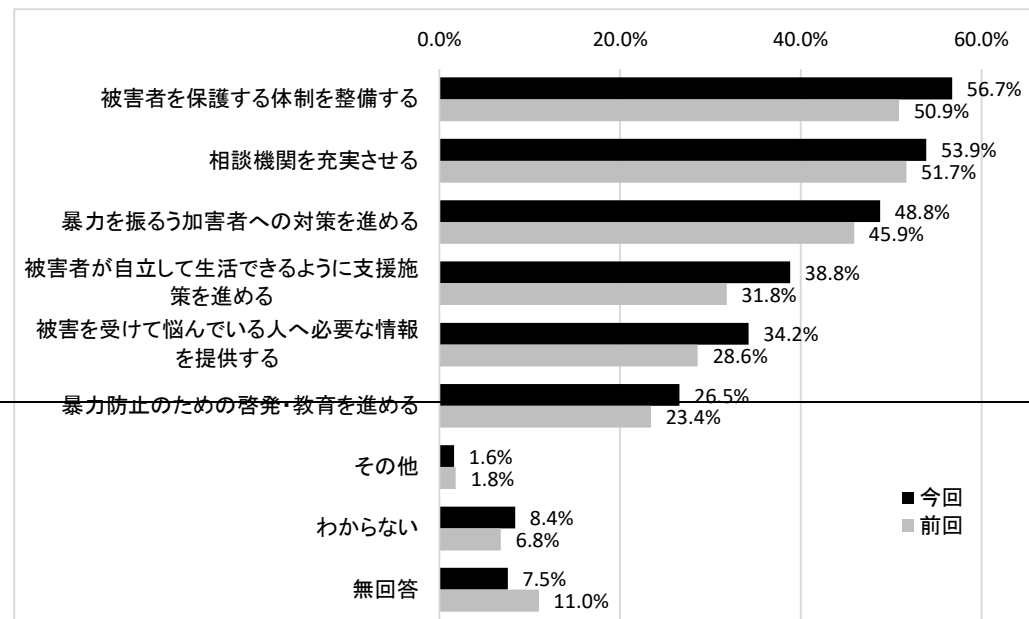
【回答結果】

- 「被害者を保護する体制を整備する」が56.7%と最も高く、次いで「相談機関を充実させる」が53.9%、「暴力を振るう加害者への対策を進める」が48.8%となっています。

【問26：全体集計 MA/N=742】



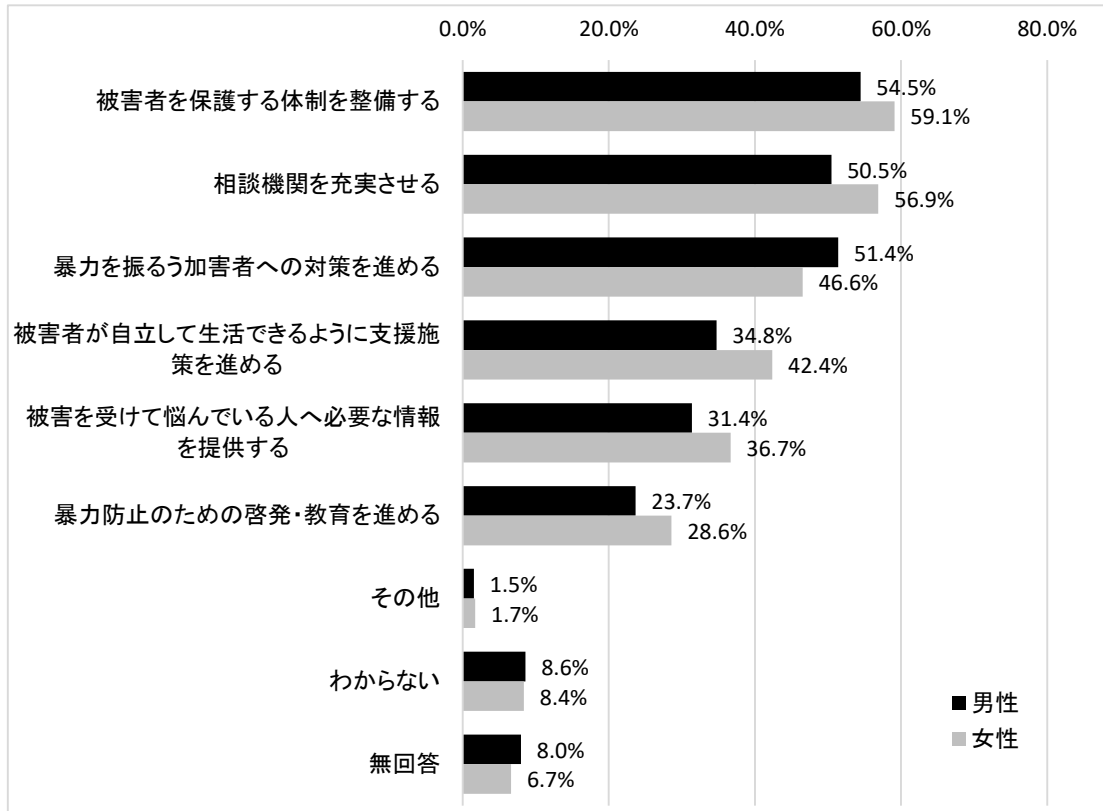
【問26：前回調査との比較】



【回答結果】

- 性別で比較すると、「被害者を保護する体制を整備する」、「相談機関を充実させる」「被害者が自立して生活できるように支援施策を進める」などは「女性」の方が高くなっています。「暴力を振るう加害者への対策を進める」は「男性」の方が高くなっています。

【問26：クロス集計（性別）】



6. 性の多様性・多文化共生について

6-1 LGBTQ などの性的指向についての悩み

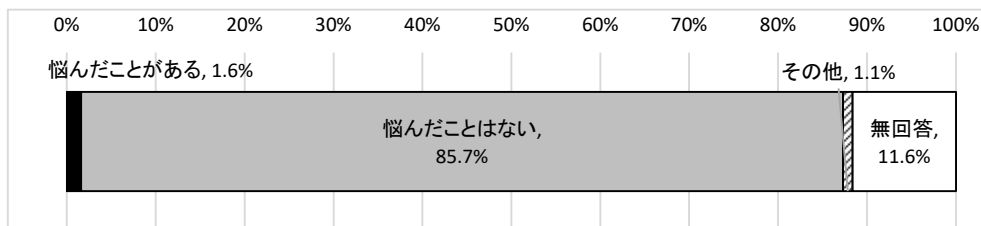
〔調査票/問27〕 あなたは、LGBTQ などの性的指向について、悩んだことがありますか。また、周りで悩んだ(悩んでいる)人がいますか。

【回答結果】

- 「自分自身」については、「悩んだことがない」が85.7%となり、「悩んだことがある」は1.6%となっています。
- 「周りの人」については、「周りにはいない」が45.3%となり「周りにいる」は4.0%となっています。

(1) 自分自身

【問27-1：全体集計 SA/N=742】

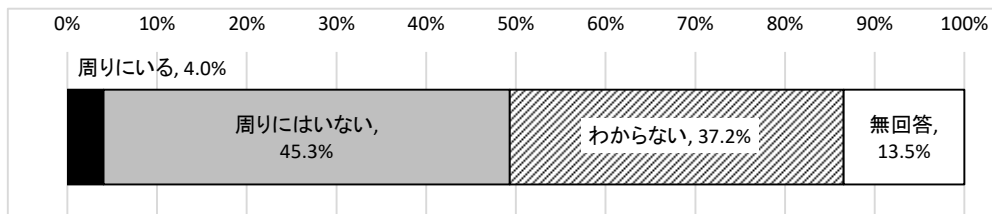


【問27-1：クロス集計（年齢別）】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
悩んだことがある	6.1%	4.8%	1.2%	1.0%	1.4%	1.0%
悩んだことはない	87.9%	91.9%	97.6%	93.0%	92.4%	76.1%
その他	3.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	1.9%
無回答	3.0%	3.2%	1.2%	5.0%	6.2%	21.0%

(2) 周りの人

【問27-2：全体集計 SA/N=742】



【問27-1：クロス集計（年齢別）】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
周りにいる	6.1%	6.5%	8.3%	10.0%	2.8%	1.0%
周りにはいない	39.4%	54.8%	59.5%	47.0%	47.6%	38.9%
わからない	39.4%	35.5%	29.8%	38.0%	40.7%	37.6%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	15.2%	3.2%	2.4%	5.0%	9.0%	22.6%

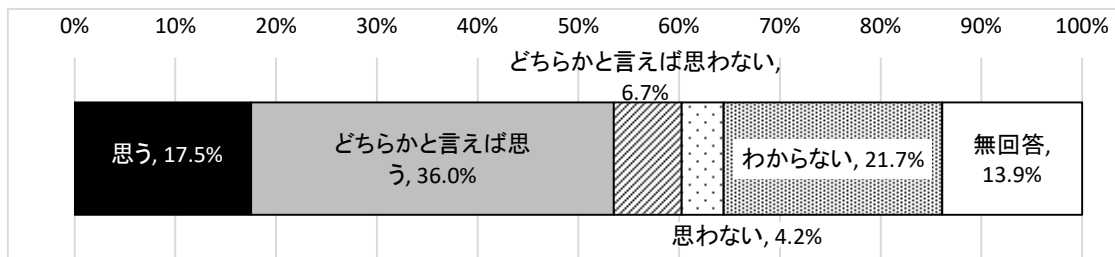
6-2 LGBTQ の方々にとっての現在の社会について

〔調査票／問28〕 現在、LGBTQ の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。

【回答結果】

- 「思う」と「どちらかと言えば思う」をあわせた「思う」の回答が53.5%となっています。
- 年齢別で比較すると、「思う」の回答は「40歳代」、「50歳代」で高くなっています。

【問28：全体集計 SA/N=742】



【問28：クロス集計（年齢別）】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
思う	18.2%	17.7%	26.2%	27.0%	17.9%	11.5%
どちらかと言えば思う	39.4%	51.6%	34.5%	36.0%	43.4%	29.9%
どちらかと言えば思わない	9.1%	6.5%	10.7%	4.0%	6.2%	6.7%
思わない	0.0%	4.8%	2.4%	1.0%	3.4%	6.4%
わからない	12.1%	4.8%	9.5%	16.0%	21.4%	31.5%
無回答	21.2%	14.5%	16.7%	16.0%	7.6%	14.0%

6. 性の多様性・多文化共生について

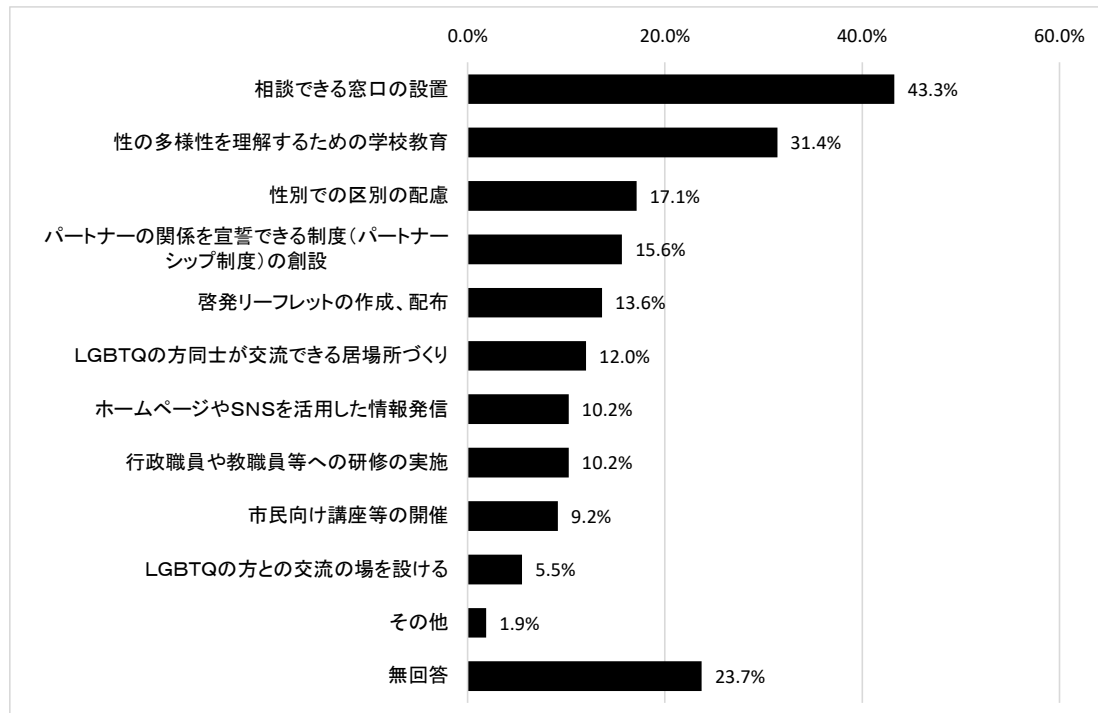
6-3 性の多様性への理解を促進するために必要な行政支援

〔調査票／問29〕 性の多様性への理解を促進するために、行政としてどのような取り組みが必要だと思いますか。

【回答結果】

- 「相談できる窓口の設置」が43.3%と最も高く、次いで「性の多様性を理解するための学校教育」が31.4%、「性別での区別の配慮」が17.1%となっています。
- 年齢別で比較すると。「相談窓口の設置」は「60歳代」、「70歳以上」で高く、「40歳代」では「性の多様性を理解するための学校教育」が高くなっています。

【問29：全体集計 MA/N=742】



【問29：クロス集計（年齢別）】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
相談できる窓口の設置	24.2%	19.4%	32.1%	36.0%	53.8%	50.6%
性の多様性を理解するための学校教育	27.3%	38.7%	41.7%	34.0%	40.0%	23.2%
性別での区別の配慮	27.3%	30.6%	19.0%	27.0%	15.9%	10.5%
パートナーの関係を宣誓できる制度（パートナーシップ制度）の創設	27.3%	33.9%	32.1%	23.0%	11.7%	6.1%
啓発リーフレットの作成、配布	9.1%	3.2%	9.5%	13.0%	14.5%	17.2%
LGBTQの方同士が交流できる居場所づくり	21.2%	21.0%	16.7%	9.0%	13.8%	8.3%
ホームページやSNSを活用した情報発信	15.2%	11.3%	10.7%	8.0%	12.4%	9.2%
行政職員や教職員等への研修の実施	9.1%	9.7%	8.3%	14.0%	11.0%	9.6%
市民向け講座等の開催	3.0%	3.2%	3.6%	7.0%	13.1%	11.5%
LGBTQの方との交流の場を設ける	9.1%	9.7%	8.3%	8.0%	5.5%	2.9%
その他	0.0%	0.0%	2.4%	3.0%	1.4%	2.2%
無回答	24.2%	27.4%	17.9%	15.0%	15.9%	30.3%

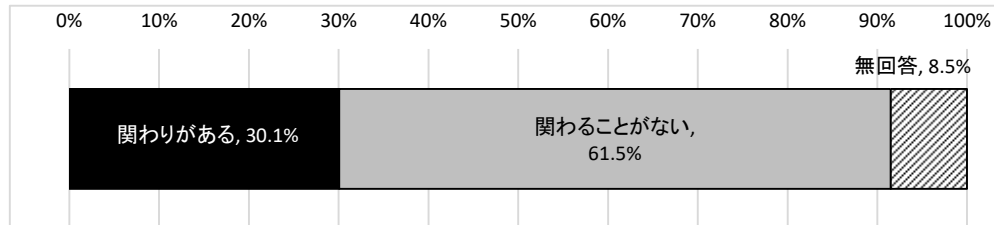
6-4 日常的な外国人と関わる機会

〔調査票／問30〕あなたのお住まいの地域で、日頃、外国人と関わる機会がありますか。また、関わりがある人はどのような場面ですか。

【回答結果】

- 日頃、外国人と「関わりがある」が30.1%となっており、年齢別で比較すると、特に「30歳代」「40歳代」で高くなっています。
- 関わりがある人の関わる場面は、「地域の店や施設で見かける」、「職場や学校」が高くなっています。

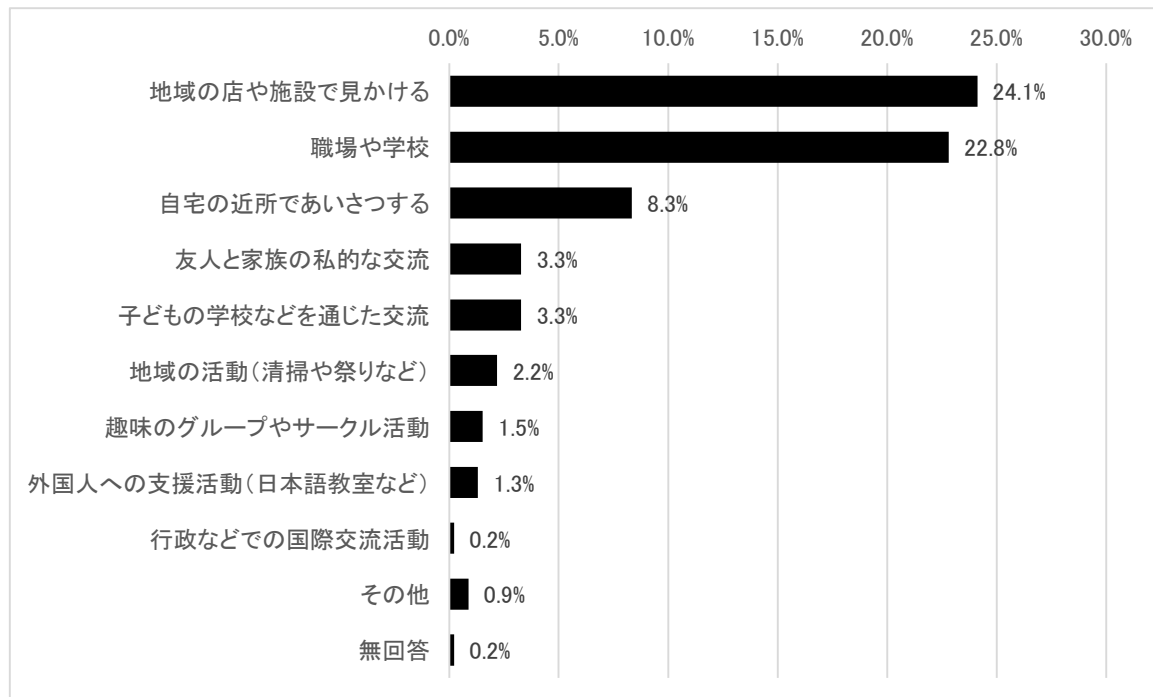
【問30：全体集計 SA/N=742】



【問30：クロス集計（年齢別）】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
関わりがある	39.4%	41.9%	41.7%	34.0%	33.8%	21.0%
関わることはない	57.6%	58.1%	56.0%	64.0%	64.1%	62.1%
無回答	3.0%	0.0%	2.4%	2.0%	2.1%	16.9%

【問30-1：関わりがある人はどのような場面ですか。 MA/N=456】



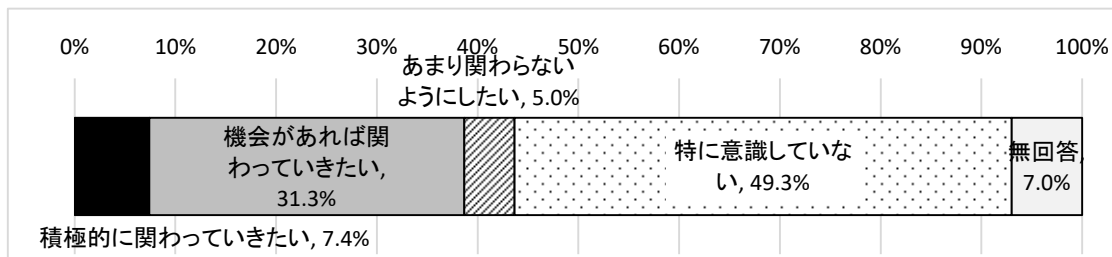
6-5 外国人との今後の関わりに対する意向

〔調査票／問31〕 あなたは外国人とこれからどのように関わっていきたいですか。

【回答結果】

- 「特に意識していない」が49.3%と最も高く、「積極的に関わっていきたい」と「機会があれば関わっていきたい」を加えた「関わっていきたい」回答は38.7%となっています。
- 年齢別で比較すると、「関わっていきたい」回答は「20歳代」、「30歳代」で高くなっています。

【問31：全体集計 SA/N=742】



【問31：クロス集計（年齢別）】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
積極的に関わっていきたい	18.2%	14.5%	10.7%	6.0%	8.3%	4.1%
機会があれば関わっていきたい	57.6%	32.3%	47.6%	33.0%	36.6%	21.0%
あまり関わらないようにしたい	9.1%	8.1%	2.4%	4.0%	2.8%	5.7%
特に意識していない	12.1%	43.5%	38.1%	55.0%	49.0%	56.1%
無回答	3.0%	1.6%	1.2%	2.0%	3.4%	13.1%

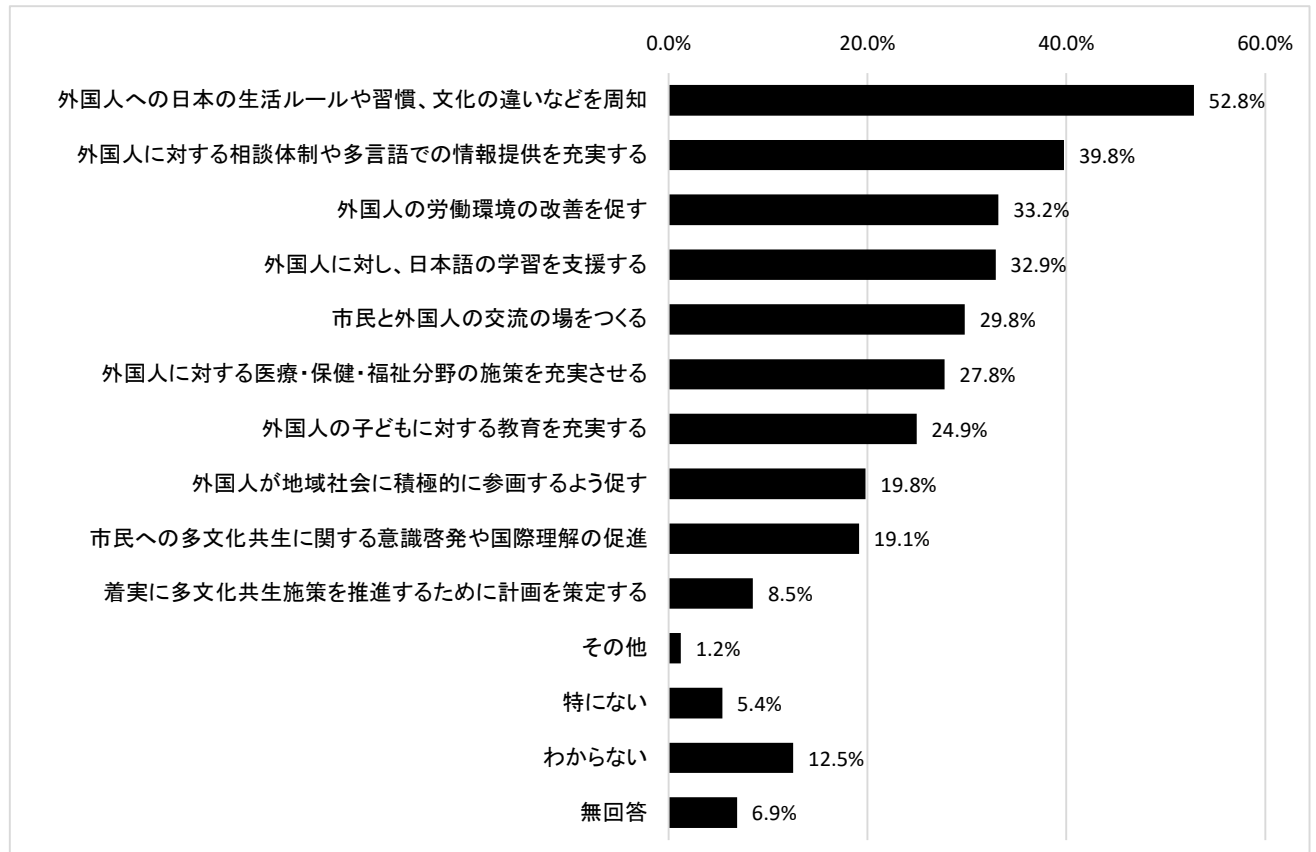
6-6 外国人がともに安心して暮らせる社会に向け力を入れるべきこと

〔調査票／問32〕 外国人がともに安心して暮らせる社会にするため、あなたは、どのような取組に力を入れるべきだと思いますか。

【回答結果】

- 「外国人に対する日本の生活ルールや習慣、文化の違いの周知」が52.8%で最も高く、次いで「外国人に対する相談体制や多言語での情報提供を充実する」が39.8%、「外国人の労働環境の改善を促す」が33.2%、「外国人に対する日本語の学習支援」が32.9%となっています。

【問32：全体集計 MA/N=742】



6. 性の多様性・多文化共生について

【問32：クロス集計（年齢別）】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
外国人に対する日本の生活ルールや習慣、文化の違いの周知	63.6%	51.6%	61.9%	68.0%	53.8%	44.3%
外国人に対する相談体制や多言語での情報提供を充実する	51.5%	45.2%	53.6%	47.0%	50.3%	26.4%
外国人の労働環境の改善を促す	42.4%	43.5%	36.9%	38.0%	37.9%	25.2%
外国人に対し、日本語の学習を支援する	39.4%	37.1%	32.1%	35.0%	37.2%	28.3%
市民と外国人の交流の場をつくる	36.4%	33.9%	20.2%	32.0%	37.9%	26.1%
外国人に対する医療・保健・福祉分野の施策を充実させる	33.3%	35.5%	34.5%	30.0%	28.3%	22.6%
外国人の子どもに対する教育を充実する	33.3%	32.3%	29.8%	27.0%	27.6%	18.8%
外国人が地域社会に積極的に参画するよう促す	9.1%	17.7%	16.7%	17.0%	26.9%	19.7%
市民に対し、多文化共生に関する意識啓発や国際理解の促進	24.2%	19.4%	25.0%	22.0%	21.4%	14.6%
着実に多文化共生施策を推進するために計画を策定する	6.1%	11.3%	4.8%	9.0%	6.2%	9.9%
その他	3.0%	1.6%	2.4%	2.0%	0.0%	1.0%
特になし	0.0%	6.5%	0.0%	3.0%	3.4%	8.9%
わからない	9.1%	4.8%	9.5%	11.0%	11.7%	16.2%
無回答	3.0%	3.2%	1.2%	2.0%	2.8%	12.7%

7. 男女共同参画施策全般について

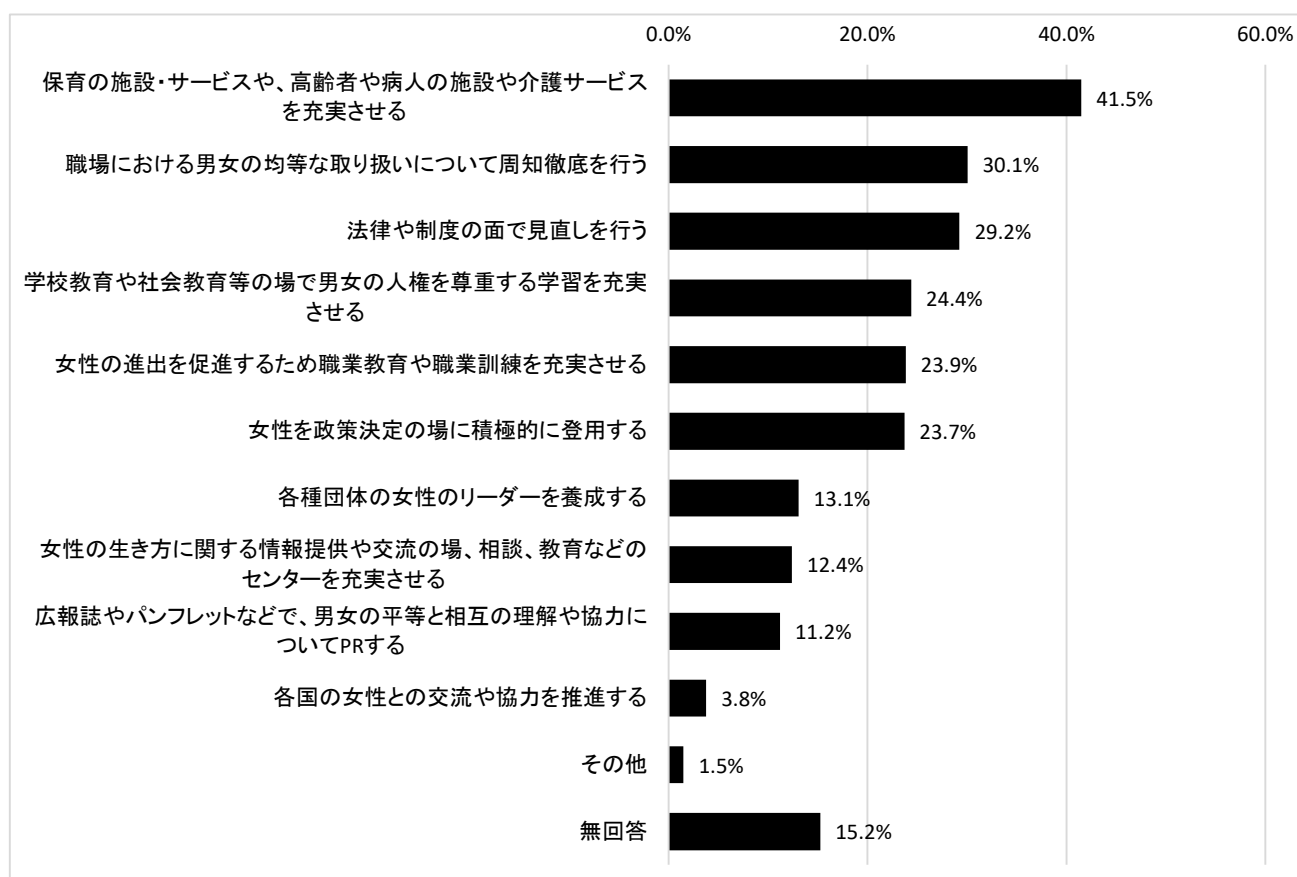
7-1 男女共同参画社会の形成に向けた行政の取組について

〔調査票／問33〕「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

【回答結果】

- 「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」が41.5%と最も高く、次いで「職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う」が30.1%、「法律や制度の面で見直しを行う」が29.2%となっています。

【問33：全体集計 MA/N=742】



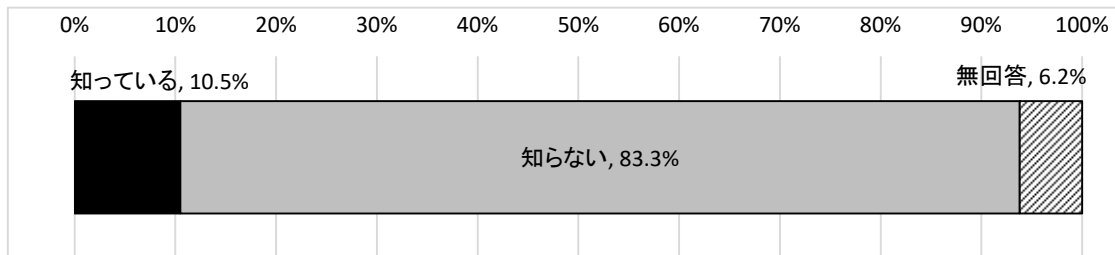
7-2 府中市男女共同参画プラン（第2次）の認知度（SA）

〔調査票／問34〕 あなたは、府中市が平成 24 年に策定した、「府中市男女共同参画プラン(第2次) ささえあい、わかちあう、創造業のまち 府中市 ～男と女 とともに豊かに生きる～」があることを知っていますか。

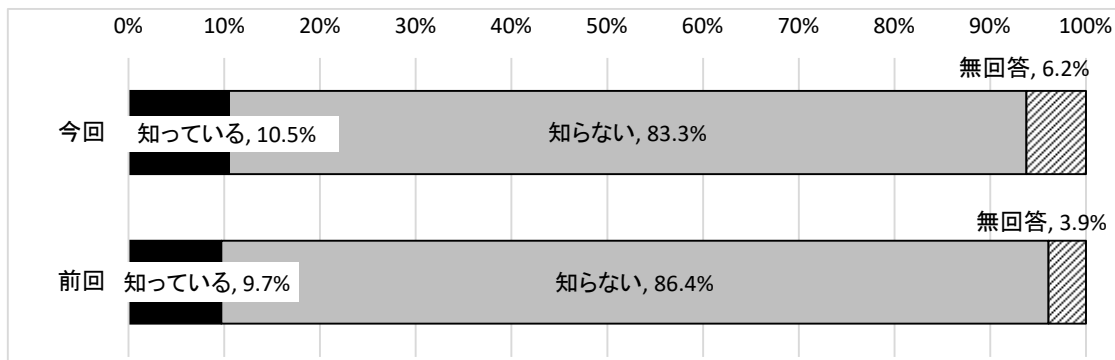
【回答結果】

- 「知らない」が83.3%、「知っている」が10.5%となり、前回調査とほぼ同様の傾向となっています。
- 年齢別で比較すると、「70歳以上」で「知っている」が15.9%となっていますが、他の年代では10%以下となっています。

【問34：全体集計 SA/N=742】



【問34：前回調査との比較】



【問34：クロス集計（年齢別）】

選択項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
知っている	0.0%	1.6%	7.1%	9.0%	8.3%	15.9%
知らない	100.0%	98.4%	86.9%	89.0%	84.1%	75.8%
無回答	0.0%	0.0%	6.0%	2.0%	7.6%	8.3%

8. 自由意見

〔調査票〕 市の男女共同参画に対するご意見・ご要望がございましたら自由にお書きください。

(主な意見)

意見
男女共同参画には大賛成。しかし、男女平等というと、少し違うような気がします。多様性を認める事、他との違いを受け入れ、それぞれの強み、好き嫌い、得意部分を認めて、役割分担することも平等の一つだと思います（性の多様性、文化の多様性も同じ）。
男女平等というと、女性の負担が増す可能性もあり、女性を守るというかたちでできないのかなと思います。男女の違いを認め、弱い部分を、強みを持った人が補い合う社会になればと思います。女性に対して
男性には男性の良いところ、女性には女性の良いところがあります。それらを大切に、ともに豊かに生きる府中市になれば良いと思います。
真の「ジェンダーレス」の世界を築くためには、さらなる情報の発信と意識を変えるための講座等の開設を望みます。女性市長、女性市議会議員の増加等が当たり前になると良いと思います。
府中市男女共同参画プランは市民が知らないという意味がない。PRが必要だと思いました。
副市長に女性を起用し、現場力を向上させる。変化に気づける上司、20・30代の管理職を起用。メンタルヘルスマネジメントを向上させる。
まだまだ家父長制度の名残があり、地域の総会で発言をすると男性が多く耳を貸してくれない。女のくせにとか言う態度をとられる。若い人は耳を貸してくれるが、70歳以上の方は封建的です。地域の行事でも年上の人に従い、改善する事すらできない。町内会の魅力がありません。昔から引き継いだ事が今でも行われている。
男女という理解を取っ払うことも大切だと思いますが、人としての生命や人生は一人ひとり違うことを理解して、お互いを認め合えるような社会をつくりたい。そのためには、今の子どもたちの意見にも耳を傾ける機会をつくったら良いと思う。子どもたちは男女平等の教育を受けているから。
若者や子ども達には、男女平等、共同参画の考えは広まっているが、年齢が上がるにつれて、男性は外へ、女性は内への考えが強いと思う。職場で困ることはないが、地域ではまだまだ男性中心の雰囲気があり、意見することが難しい。
男女平等、女性活躍ができる社会と国は言っているが、全く平等ではない。仕事・家事・育児・介護、すべて女性がやっている、男性は手伝うだけ。いつまでたっても日本は変わらない。女ばかり損をしている。子どもが熱が出たら仕事を休むのは女。雑用は女ばかりで、やって当たり前で感謝されない。不公平です。
一番身近な町内会で男性優位の運営が行われている。府中の市民感覚は何十年も前からあまりにも変わっていない事にうんざりします。様々な場で啓発を行ってほしいし、高齢者との同居の多い子ども達にも教育の場を問わず発信してほしい。

<p>具体的に市が何をやっているのか。市民は全く何も知りません。市民に届いていないことをする意味がありますか。やっていることをもっと外側に発信してほしい。</p>
<p>男性が育児に参加するためには、勤務時間を短くしないとイケない。朝早く出て、夜通し帰っても、子どもの世話も家事も女性のみがこなすことになって不満が出る。仕事で疲れていると言って休日さえも参加しない。</p>
<p>働き方改革とともに女性のリーダー起用・配置の機会について男性との差をつけない職場や社会組織をねらうことが肝要だと思います。家庭・職場・地域・社会など、己を取り巻く環境の中で、自らの希望と努力により、自己実現が可能になる社会になってほしいと思います。この実現を可能たらしめるものは、諸制度の改革はもちろんのこと、個々の人生に対する目標意識と信念を持つこと、これまで日本社会が良としてきた社会観念に基づく偏見を払拭することが重要と考えます。</p>
<p>男尊女卑の考え方を変えないと日本は男子がえらいと思っている。特に政治家はそういう考え方の人が多い。</p>
<p>男女共同参画には男性の理解と女性の努力が必要。「働きたくない人」の男女比率も考慮して頂きたい。性別に関わらず能力重視の人材育成を。ただし、男性・女性の各々の良い所、不足してしまう所までを均一化して判断しないようにして頂きたい。私のパートナー（妻）は働きたくて働いている訳ではないようだ。</p>
<p>各職場で制度の浸透度合いに差があると思うので、各企業のトップの方から制度を理解する必要があると思う。行政は制度の浸透度合いを調査し、企業ごとの差をなくしていくべきだと思う。子どもの頃から教育、ふれあうことで抵抗感は薄れていくと思う。</p>
<p>これまでの取組により改善された面もあるが、まだ、地域や家庭においては、課題が多いと感じる。特に高齢者は「男性は仕事、女性は家庭」という考え方が強くあり、これを変えることは難しいと思う。ただ、職場や地域社会においてリーダーとなる人は男女に関係なく、能力や意欲がある人が選ばれるべきで、ことさらに「女性」の活用にこだわる必要はないと思う。</p> <p>「男女共同参画社会」の実現のためには、男性へのアプローチも重要であり、性別を問わず、国民一人ひとりにとって、より良い社会の構築に向けて取り組んでいくべきではないか。</p>
<p>具体的な施策を掲げ、全体が把握できるよう、経過報告を発信するのが得策と考えます。「地域で改善する」をベースに進化させていくなら、より行政と市民が報告・連絡・相談を密に取り組みながら良い方向へプリペアすると良い社会に発展しそうな気がします。</p>
<p>全体的に生きやすい、働きやすい町にならない限り、男にとっても女にとっても幸せな生き方は難しい。府中市に住んでいることを誇らしく思える、そんな町に行政も民間も尽力して、その先に男女が共に豊かな未来があると思う。</p>
<p>女性の意識の問題。法律・制度の見直しや社会意識の啓発はすでに推進されつつあると思う。女性自身の積極的な意識改革が求められていると思う。</p>
<p>男女共同参画社会と言われていますが、まず家庭の男女共同、協力が必要ではないでしょうか。男性の家事・育児への協力があって、女性の就労、社会参加等が充実するのではないのでしょうか。そういう面から広報、情報提供、交流、相談の場を充実させていって頂きたいと思います。</p>

<p>「いのちの尊厳」という根っこがゆらぐ事なく、男性、女性でなく、すべての人間を大切にお互いを尊重しあい、多様な生き方を選べる社会であってほしいと願います。このアンケートは今の日本の大きな社会的テーマだと思いました。女性へのアプローチがもっと大切なのかなと思いました。本当の声を聞き出す必要があると思います。</p>
<p>保育園や学校生活の中で「男の子」「女の子」と区別されている。特に小学校では出席番号も男女で別になっている。どうしてなのでしょう。そういうところから、自然と子ども達も「女の子」「男の子」と区別しているのではと思います。小さなことかもしれませんが、変われるところから変えていってほしいです。</p>
<p>「男女平等になっていると思いますか」の男女平等とはどのような状態を指しているのでしょうか。わかりにくいです。</p> <p>府中市のように人口減が予測される地域では特に「男女が不平等だから平等にしよう」というマイナスをなくすような考え方ではなく、「（男性だから女性だからではなく）それぞれ違う個人が輝いて生きていくにはこうしよう」というプラスを生み出すような事業にエネルギーを注いで頂きたいと思っています。「男女共同」という言葉を強調する必要があるのか、疑問に感じます。</p>
<p>大企業と中小企業、職種によっても、働き方改革、男女平等という問題は難しいのではないかと。男女共同参画社会を実現させるには、事業主や経営者の理解が必要だと思います。</p>
<p>育った家庭環境の影響を受けやすい。男性の育児参加や家事への参加が子ども達の意識を変えていくものだと考える。</p>
<p>近年、若い世代では共働き家庭が増えていますが、まだまだ妻にかかる負担が大きいと思います。女性が積極的に社会に進出できるのは家庭での協力が多大だと思います。やはり、国民一人ひとりが男女共同参画を認識することが必要だと思います。行政は世の中全体に男女共同参画がより浸透するように努力をお願いしたいと思います。</p>
<p>本アンケートは女性が弱い立場にある前提で作成されています。逆になぜ男性が主で働くのかという考え方は改められてなく議論されていません。女性でも能力があり、意欲の高い人は自立して共同以上にがんばられておりました。最近、世間があまりにも女性が弱い立場であるという意識の植え付けをしようとしている気がします。</p>
<p>小学校に入ると、男はズボン、女はスカートと決まっているが選択肢をもっと増やしてほしい。LGBTQでなくても、ズボンをはきたい女の子もいるし、長ズボン、半ズボン、キュロットなど、選択肢が増えれば、ズボンをはいた女子が目立つこともなく、キュロットなら男子もスカートほど目立たない。とにかく、大人が一番LGBTQの方たちに目が行くのは教育を受けていないからだと思います。女の子が男の子と遊んでもいいし逆でもいい。ただ困るのは、高学年になって男女で分かれた授業があった時、男の子とだけ遊んでいた女子が孤立する。そんな風にならないように学校カリキュラムも変わっていくべきだと思います。</p>
<p>男性優位社会を前提としたアンケート設問では解決の方向は見えてこないと思います。文化と平等、性差の取り扱いを形式的に分析してみても解決策は見えてこないと思います。</p> <p>例えば、女性市長の候補者や商工会議所の要職に女性を登用するなど、そうした方向への世相、文化の変化がないまま、法律や規則を考えてみても何も変わらないと思う。</p>

<p>男女平等のもとにおいて、差別なく日常が過ごせる事は大変素晴らしいことと思います。その中で、地球上は男性と女性で成り立っている以上、もともと備わっている男性ならではの特質、女性ならではの特質は置き去りにせず、うまくいかせたら、もっと素晴らしい関係になるような気がします。</p>
<p>男だから女だからではなく「私」はこう、だけど「あなたはそう」なんだね。という事を意識して子育てしています。私は女で、大企業にいたけど、家庭に入りたくて、入りました。逆に参画推進だから働けと言われると苦痛。しかし、そうじゃない逆の友人もいます。そういう女性だからと働きたいけど働けないのは是正すべきだなと感じます。</p> <p>LGBTQも、かなり多様でひとくくりにはできない世の中なので、卒にこだわらない「相手の事を尊重し、知ろうとする」事を伝えていって頂きます。</p>
<p>男女に関わらず、個人の意見を発信・集約し、活用する取組が必要。</p>
<p>1999年6月に男女共同参画社会基本法が公布・施行されており、この条項に関し、教育面にて幼児教育から指導を行い、周知していくことが大切ではないかと思えます。現状の認識・浸透の状態について独立した第三者による検証を充実していくなど繰り返し行うことで定着促進が図られるのでは。</p>
<p>男女共同はすごく難しい問題ではあるが、男女でできることを理解しながら相手の事を考えていけば、男女差別はなくなっていくと思う。まずは家庭から地域、職場と一つずつ環境を整えていけば良いと思います。</p>
<p>私自身あまり関心がなかったため、市の広報等で情報発信をお願いしたい。</p>
<p>このような計画策定があることを知りませんでした。平成24年から現在まで市がどのような取組を行ったか少し気になりました。このアンケートを回答する事により、良い機会を頂けたと思います。</p>
<p>女性の立場をもっと社会的に上げていく施策を積極的に取組んでほしい。</p>
<p>男性には男性の役割、女性には女性の役割が根本にある。個々の能力を発揮できる社会を。家庭教育の大切さを大事に思います。</p>
<p>府中市や企業、町内会等で女性が男と女を分けるのではなく同じように活躍するには、家の中の食事、洗濯、掃除、育児を完全に2分し分担する必要がある。一つずつ見直して、みんなが少しずつ改めたり、より良い仕組みに変えようとするのが大切だと思います。</p>
<p>病児保育の保育時間を長くしてほしいです。職場が遠く、かつフルタイムで働いていると朝も夜も間に合わないので仕事を休まざるを得ません。</p> <p>一時預かりの対象年齢を下げてほしいです。子どもの月齢がまだ小さい頃、自分の病院等に行きたい時、預け先がなく困りました。短時間でも良いので預け先があると助かります。</p> <p>「女性こども課」というネーミングを変えた方が良いと思います。「女性の社会進出を支援する」という意味合いなのだと思いますが、「育児は女性の仕事」という考えのもとに名づけられているように誤解してしまうのではと思います。女性が働きやすい社会にするには男性が家事・育児に参加しやすくするための支援が大切だと思います。</p>
<p>女性の就労の件では保育や介護が多くの問題点であると思います。市としてもサービスの充実がより男女共同参画の後押しになると思います。充実をお願いします。ジェンダーやLGBTQに関しては中高年世代より若い世代は柔軟に対応しているように思う。中高年世代への情報提供が必要ではないでしょうか。DVや幼児虐待については加害者を守る制度をつくる事が必要と思います。</p>

男性も女性もそれぞれの個性を活かし活躍できる社会になってほしいです。また、ハラスメントで傷つく人が少しでも減ってほしい。女性でなくても男性でもハラスメントで傷つく人もいるのですべての人において大切にしてほしい。そして、LGBTや外国人の人であっても差別をせず、楽しい社会をつくりあげてほしい。私自身、LGBTの方や外国人の方と話しをした時、自分が経験したことのないことを聞くことができ、とても楽しいと思ったから。

一般的に家庭では妻が子育てや介護、家事をすることが多いから、社会で男女共同参画するために働き方を多様化したり、ストレス発散させる場所（テニスなどのスポーツ施設）が増えれば良い。

これからの時代、男女の境界線をなくす時代もくるでしょうし、それよりも個人の能力、自分にはこんなことができますという能力が重要になってくるのではないのでしょうか。再就職にしても男女問わず個人の能力に注目していると思います。女性にしかできないこともあるでしょうし、女性の方が能力を発揮しやすいこともあるので、それに向けたスキルを向上させる場とか情報誌、パンフレットの作成とかがあってもよいのかなと思います。

男女共同参画を推進し、学校のいじめ問題をなくすことが大切だと思います。いじめのない学校はまずありません。

女性の市議会議員をもっと増やしてください。社会福祉協議会、民生委員をもっと増やしてください。

男女共同参画主催の講演会などで極端に男性の参加が少ないと思います。

家庭内に学校に行っている子がないのでよくわからないが、市のPTAの参加行事や学校のPTAの講演会などでの啓蒙活動を行うなど。